

教育委員会  
点検・評価報告書

《平成26年度対象》

平成27年10月

横須賀市教育委員会

# 目 次

◆ はじめに	1
(1) 点検・評価の目的	1
(2) 点検・評価の方法	2
(3) 留意事項	2
参考【市立学校数】	2
◆ 重点課題に対応する主な事業	3
○ 重点課題（平成26年度～平成29年度）	4
○ 点検・評価報告書の見方（重点課題に対応する主な事業）	6
1 重点課題に対応する主な事業	8
◆ 目標・施策に基づく関連事業	54
○ 点検・評価報告書の見方（関連事業）	55
2-1 目標・施策に基づく関連事業（学校教育編）	56
2-2 目標・施策に基づく関連事業（社会教育編）	79
2-3 目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編）	101
◆ 目標指標	113
○ 点検・評価報告書の見方（目標指標）	114
3-1 目標指標（学校教育編）	115
3-2 目標指標（社会教育編）	120
3-3 目標指標（スポーツ編）	124
◆ 用語解説	128

巻末 横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見

## ◆はじめに

### (1) 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条において、平成 20 年度から、すべての教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行の状況について毎年点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、公表することが義務付けられました。

横須賀市教育委員会では、平成 22 年度に計画期間を平成 23 年度から平成 33 年度までとする「横須賀市教育振興基本計画」を新たに策定いたしました。これは、本市全体の施策体系を示した「横須賀市基本計画(2011～2021)」に合わせて計画の改定を行ったものです。

平成 23 年度までは、平成 13 年度に策定した「横須賀市教育基本計画(よこすか未来人プラン)」(平成 14 年度～平成 23 年度)で示した施策体系に基づいて、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的に、平成 19 年度対象分から継続して点検・評価を行ってきたところではありますが、平成 24 年度からは「横須賀市教育振興基本計画」で示した施策体系に基づき、内容も新たな形とした点検・評価を行っております。本年度につきましても「横須賀市教育振興基本計画」で示した施策体系に基づき、「教育委員会点検・評価報告書(平成 26 年度対象)」を作成いたしました。この報告書をご覧いただき、横須賀市教育委員会の取り組みにご意見をいただくことで、今後の教育行政に活かしてまいります。また、今後も計画に掲げた基本目標の達成に向けて、着実に施策・事業を展開してまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## (2) 点検・評価の方法

「横須賀市教育振興基本計画」における重点課題に対応する主な事業を中心に、「学校教育編」、「社会教育編」、「スポーツ編」と3つに区分された各編の関連事業、目標指標の計画に対する実績を基に、教育委員会で点検・評価を行っています。評価に当たっては、客観性を確保するために、外部の学識経験を有する方から施策や事業についてご意見をいただいております。

### 【ご意見をいただいた学識経験者の方】 ※五十音順

小林 宏己 先生 (早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授)

今野 睦夫 先生 (防衛大学校 名誉教授、日本運動・スポーツ科学学会副会長)

蛭田 道春 先生 (大正大学 名誉教授)

## (3) 留意事項

- \* この点検・評価は、教育委員会が管理・執行している事務が対象になっています。
- \* この点検・評価に対するご意見等がございましたら、巻末に添付しております「横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見」により、お寄せください。

「横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見」は、以下のホームページからも入手できます。

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8110/tenken.html>

### 参考【市立学校数】

学校種別	24年度	25年度	26年度	備考
幼稚園	2	2	2	
小学校	47	46	46	平作小学校と池上小学校が統合(平成25年4月1日)
中学校	23	23	23	
高校	1	1	1	全日制・定時制
特別支援学校	2	2	2	ろう学校、養護学校

## ◆ 重点課題に対応する主な事業

- 重点課題（平成 26 年度～平成 29 年度）
- 点検・評価報告書の見方（重点課題に対応する主な事業）
  - 1 重点課題に対応する主な事業

## 重点課題

(平成 26 年度～平成 29 年度)

「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けました。

### 重点課題1 学校・家庭・地域の連携推進

食事、睡眠、あいさつなどの基本的な生活習慣、家庭学習や読書、運動の習慣、社会のルールを守るといった規範意識<sup>(注1)</sup>などを子どもに身に付けさせるには、学校・家庭・地域が共通の認識を持って子どもを育てることが重要です。そのために、学校・家庭・地域の連携をさらに推進することを目指して、学社連携・融合<sup>(注2)</sup>や地域スポーツの充実、家庭向けリーフレットの配布など、学校・家庭・地域が、共に子どもの教育に関わる仕組みや場、機会を充実させます。また、家庭や地域の教育力の向上を目指して、学習の機会および各種情報を提供します。

### 重点課題2 学力・体力の向上

子どもの「学力や体力」に関する課題の解決に向けて、「思考力・判断力・表現力」「学習意欲や持続性」「体力・運動能力」の向上を目指し、各学校の「学力向上プラン」の充実や、子どもの「健康・体力向上」のための対策に取り組みます。また、義務教育9年間においては、学びの系統性・連続性を重視した教育の充実を図ります。

### 重点課題3 いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決

子どもの心の一面を映し出しているともいえる「いじめや暴力行為の発生率」「不登校<sup>(注3)</sup>の出現率」が高いという状況を改善し、未然防止と早期解決を目指して、相談体制の整備を進めるほか、総合的な支援策や関係機関とのさらなる連携を進めます。また、小学校教育と中学校教育の滑らかな接続を図ることにより、子どもの過度な心の負担を減らします。

### 重点課題4 学校の教育力向上

教員が子どもと向き合う時間が十分に確保できていないことや、経験年数の少ない教員の割合が増えていることによるさまざまな課題に対応し、学校の教育力の向上を目指して、教員が子どもと向き合う環境づくりや人材育成などの支援策を進めます。

## 重点課題5 社会教育施設による学習支援の推進

子どもの感性を磨き、創造性を培い、個性を伸ばせるような展示や体験的教育プログラムを社会教育施設<sup>(注4)</sup>の多様性、専門性を生かして提供します。

### 重点課題に対応する主な事業

学校教育編、社会教育編、スポーツ編の事業のうち、重点課題に対応する主な事業を示しました。

重点課題 No					事業名	掲載編	頁
1	2	3	4	5	子ども読書活動推進事業	学校教育編	8
1	2	3	4	5	「輝け！よこすかの子どもたち（市民向け広報紙）」の発行	学校教育編	10
1	2	3	4	5	学校いきいき事業	学校教育編	12
1	2	3	4	5	学校支援ボランティア・コーディネーター導入の検討	社会教育編	14
1	2	3	4	5	家庭教育講演会の開催	社会教育編	17
1	2	3	4	5	総合型地域スポーツクラブ <sup>(注5)</sup> 育成事業	スポーツ編	19
1	2	3	4	5	家庭との連携による生活習慣、学習習慣の確立	学校教育編	21
1	2	3	4	5	児童生徒健康・体力向上推進事業	スポーツ編	23
1	2	3	4	5	学校評価推進事業	学校教育編	25
1	2	3	4	5	学力向上事業	学校教育編	27
1	2	3	4	5	小中一貫教育 <sup>(注6)</sup> 推進事業	学校教育編	30
1	2	3	4	5	支援教育 <sup>(注7)</sup> 推進事業	学校教育編	32
1	2	3	4	5	いじめ・不登校 <sup>(注3)</sup> 対策事業	学校教育編	34
1	2	3	4	5	人材育成推進支援	学校教育編	42
1	2	3	4	5	子どもと向き合う環境づくりの推進	学校教育編	44
1	2	3	4	5	子ども読書活動推進事業	社会教育編	46
1	2	3	4	5	子ども向け博物館教育普及活動の推進	社会教育編	48
1	2	3	4	5	美術館展覧会の充実	社会教育編	50
1	2	3	4	5	美術館教育普及活動の推進	社会教育編	52

※網掛けの番号は、事業が対応する重点課題の番号を示します。

○点検・評価報告書の見方(重点課題に対応する主な事業)

1 重点課題に対応する主な事業

横須賀市教育振興基本計画の各事業のうち重点課題に対応する主な事業で、19事業あります。

横須賀市教育振興基本計画では、「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けております。この重点課題に対応する主な事業について、その進捗度を測ります。

事業名を記載しています。「○○事業」という表記の他に「○○の検討」などの表記をしている場合もあります。

No. 1	事業名	子ども読書活動推進事業
-------	-----	-------------

1. 基礎情報

事業ごとに、対応する重点課題、掲載編、関連目標、関連施策、事業を担当する課を明記し、基礎情報としました。

2. 事業の概要

事業の概要について記載しています。

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	児童生徒の読書への関心や主体的な学習の力を高めるために、学校図書館機能の充実を目指し、学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等の配置や蔵書情報のデータベース化、教職員の研修の充実、市立図書館との連携を強化します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(1):教育活動の充実	
担当課	教育指導課	

3. 行動計画

具体的な行動と、平成26年度計画に対しての平成26年度の実績を記入しています。(計画と実績が異なる場合は、下記の枠にその理由を記載しています。)

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
蔵書情報のデータベース化	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
司書教諭研修講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
市立図書館の資料活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
ボランティアの養成	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
(計画と実績が異なる場合の理由)					



本事業について、平成26年度の具体的な取り組みとその効果を記載しています。

#### 4. 実施内容(実績)および効果

##### 【実施内容】

- 学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)が市内小中学校12校に週1.5日勤務した。
- 蔵書情報データベース化に向けて、市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣し、蔵書の整理や図書館の整備を行った。
- 司書教諭研修講座は司書教諭以外の教員も参加を可能とし、8月京都女子大学の井上一郎教授をお招きし「学校図書館の活用で授業が変わる」という演題で行った。
- 市立図書館の資料活用については、年2回の学校図書館担当者会に児童図書館長に出席いただき、取組方法について周知した。
- ボランティアの養成については市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣する際に、派遣校のボランティアとともに作業を行い、基本的図書館の整備方法について実践しながら講習を行った。

##### 【効果】

- 学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)を派遣した小学校については、派遣していない小学校よりも「読書が好き」な子どもの数や「1カ月の平均読書冊数」が上回っており、派遣した効果がみられる。いる。
- 蔵書情報データベース化に向けて、市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣し、蔵書の整理や図書館の整備を行った。整備を終えた3校が学校独自でデータベース化に取り組んだ。
- ボランティアの養成については市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣する際に、派遣校のボランティアとともに作業を行い、基本的図書館の整備方法について実践しながら講習を行った。のべ762人のボランティアと関わることができた。

#### 5. 課題

本事業についての課題を記載しています。

- 学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)が市内小中学校69校中12校しか派遣できておらず、派遣校以外の57校については図書館活用を進めることが難しい。
- 蔵書情報データベース化に向けては、中学校は図書館にパソコンが入っていないため進めることが不可能である。また、小学校の図書館にはパソコンが入っているが、OS環境が整っていないため、データベース化が進みにくい。

#### 6. 課題に対する今後の改善策

課題に対する今後の改善策を記載しています。

- 蔵書のデータベース化に各学校が取り組めるように、図書館整備を進めていきたい。
- 学校図書館担当者会で図書館活用やデータベース化のメリットについて周知していきたい。

#### ※学識経験者の意見等

外部の学識経験者の方から本事業1～5についていただいたご意見等を掲載しています。

- アクティブ・ラーニングに象徴される探究型の学びが今後ますます重視されるなか、子どもたちが自ら調べ考える主体的な学習、予め課題について調べ教室では相互に考えの交流を図る協働的な学習などの推進がいつそう進むようになる。このように「何を教えるか」よりも「どのように学ぶか」という学習過程が大切にされる時、学校図書館はきわめて重要な学習環境となる。すみやかに市内すべての学校にコーディネーターの派遣が確保されるとき、図書館が各学校におけるICT教育の拠点となるようにしていきたい。

外部の学識経験者からいただいたご意見に対する担当各課の今後の方向性を記載しています。

#### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- 学校図書館には「読書センターの機能」だけではなく「学習情報センター」としての機能が求められており、本市では25年度から学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)を小中学校に配置している。今年度は小学校12校に週1.5日勤務し学校図書館の活用寄予している。継続して派遣している学校では、子どもたちの本の貸し出し数、来館者数、先生方の授業での活用時間が前年度と比較して2～3倍になっており、毎年確実に成果を上げている。また学校図書館サポーターを昨年度から市内の小中学校に派遣し1カ月ごと3校ずつ整備を進めている。整備された小学校では蔵書のバーコード化に取り組む学校が増えており、子どもたちがさらに本を探しやすい環境を整える取組を行っている。しかし、中学校の図書館にはパソコンが整備されていないため、同じような状態にすることが難しくなっている。早急に中学校の図書館にもパソコンの配置を進めていき、図書館がICT教育の拠点となるようにしていきたい。

#### ※備考(補足説明・用語解説など)

補足説明や用語解説等があれば、記載しています。

## 1 重点課題に対応する主な事業

横須賀市教育振興基本計画では、「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けております。この重点課題に対応する主な事業について、その進捗度を測ります。

No. 1	事業名	子ども読書活動推進事業
-------	-----	-------------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	児童生徒の読書への関心や主体的な学習の力を高めるために、学校図書館機能の充実を目指し、学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等の配置や蔵書情報のデータベース化、教職員の研修の充実、市立図書館との連携を強化します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(1):教育活動の充実	
担当課	教育指導課	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
蔵書情報のデータベース化	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
司書教諭研修講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
市立図書館の資料活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
ボランティアの養成	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p><b>【実施内容】</b></p> <p>○学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)が市内小中学校12校に週1.5日勤務した。</p> <p>○蔵書情報データベース化に向けて、市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣し、蔵書の整理や図書館の整備を行った。</p> <p>○司書教諭研修講座は司書教諭以外の教員も参加を可能とし、8月に京都女子大学の井上一郎教授をお招きし「学校図書館の活用で授業が変わる」という演題で行った。</p> <p>○市立図書館の資料活用については、年2回の学校図書館担当者会に児童図書館長に出席いただき、取組方法について周知した。</p> <p>○ボランティアの養成については市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣する際に、派遣校のボランティアとともに作業を行い、図書館の基本的な整備方法について実践しながら講習を行った。</p> <p><b>【効果】</b></p> <p>○学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)を派遣した小学校については、派遣していない小学校よりも「読書が好き」な子どもの数や「1カ月の平均読書冊数」が上回っており、派遣した効果がみられる。</p> <p>○蔵書情報データベース化に向けて、市の臨時職員を派遣したことにより、蔵書の整理や図書館の整備を終えた3校が学校独自でデータベース化に取り組んだ。</p> <p>○ボランティアの養成については市の臨時職員を派遣する際に、派遣校のボランティアとともに作業を行うことにより、のべ762人のボランティアと関わることができた。</p>
--

## 5. 課題

○学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)が市内小中学校69校中12校しか派遣できておらず、派遣校以外の57校については図書館活用を進めることが難しい。  
○蔵書情報データベース化に向けては、中学校は図書館にパソコンが入っていないため進めることが不可能である。また、小学校の図書館にはパソコンが入っているが、OS環境が整っていないため、データベース化が進みにくい。

## 6. 課題に対する今後の改善策

○蔵書のデータベース化に各学校が取り組めるように、図書館整備を進める。  
○学校図書館担当会で図書館活用やデータベース化のメリットについて周知する。

## ※学識経験者の意見等

○アクティブ・ラーニングに象徴される探究型の学びが今後ますます重視されるなか、子どもたちが自ら調べ考える主体的な学習、予め課題について調べ教室では相互に考えの交流を図る協働的な学習などの推進がいつそう進むようになる。このように「何を教えるか」よりも「どのように学ぶか」という学習過程が大切にされる時、学校図書館はきわめて重要な学習環境となる。すみやかに市内すべての学校にコーディネーターの派遣が確保されるとともに、図書館が各学校におけるICT教育の拠点となるように必要な設備の充実が早急に図られなければならない。

## ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○学校図書館には「読書センターの機能」だけではなく「学習情報センター」としての機能が求められており、本市では25年度から学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)を小中学校に配置している。今年度は小学校12校に週1.5日勤務し学校図書館の活用に寄与している。継続して派遣している学校では、子どもたちの本の貸し出し数、来館者数、先生方の授業での活用時間が前年度と比較して2~3倍になっており、毎年確実に成果を上げている。また学校図書館サポーターを昨年度から市内の小中学校に派遣し1カ月ごと3校ずつ整備を進めている。整備された小学校では蔵書のバーコード化に取り組む学校が増えており、子どもたちがさらに本を探しやすい環境を整える取組を行っている。しかし、中学校の図書館にはパソコンが整備されていないため、同じような状態にすることが難しくなっている。早急に中学校の図書館にもパソコンの配置を進めていき、図書館がICT教育の拠点となるようにしていきたい。

No. 2	事業名	「輝け！よこすかの子どもたち(市民向け広報紙)」の発行
-------	-----	-----------------------------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	市民に向けて、学校の取組や学校での子どもたちの様子、教育委員会の取組を「輝け！よこすかの子どもたち」を通して発信します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標3:学校・家庭・地域の連携を深めます	
関連施策	施策(10):開かれた学校づくりの充実	
担当課	教育政策担当	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
輝け！よこすかの子どもたち	計画	発行	発行	発行	発行
	実績	発行	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p><b>【実施内容】</b>  ○子どもたちの姿を通して、市立学校等における教育活動の様子や成果及び課題を、市民にも分かりやすいような写真・グラフ等を活用して発信した。  ○掲載内容としては、横須賀市の子どもたちの生活習慣の様子や体力の状況、「横須賀市いじめ等の対策に関する条例」の紹介、学校図書館の活用、小中一貫教育に向けた取組、横須賀市教育フォーラムの紹介などである。  ○年間2回、A4版の広報紙を35,000部作成し、市立小学校・中学校・高校の児童生徒の保護者や教職員、市内保育園・幼稚園に在籍する次年度小学校入学予定児童の保護者に配付した。併せて、各行政センター等に配架した。また、市ホームページにも掲載している。</p> <p><b>【効果】</b>  ○家庭と連携を図る必要のある内容を掲載することで、一定程度の周知を図ることはできた。</p>
---

### 5. 課題

○この広報紙によって、子どもたちの教育に対する関心が高まったり、保護者の学校への理解が深まったりして、学校・家庭・地域の連携推進が図れたかどうかを検証する手立てをとっていないこと。
--

### 6. 課題に対する今後の改善策

○この広報紙の効果について、保護者向けアンケート等を実施して、検証を行う。
---------------------------------------

### ※学識経験者の意見等

○保護者への積極的な広報活動は必要であるが、やはりその効果を適切に測りつつ継続的に取り組むことが肝要である。広報紙は一般的には多忙な保護者には読まれにくいという課題を抱えやすい。その意味では、保護者向けアンケートなどの実施により、どのようなメディアによる広報活動が注目されやすいかなど、保護者のニーズを正確にとらえていく試みは是非進めるべきである。検証結果をふまえて、今後いっそう効果的な方法で積極的な発信を続けていってほしい。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○本市が目指す子どもの教育の姿において、地域と家庭が重要な役割を果たしている。したがって、市民向け広報紙については、アンケートを通じて、その効果を測るとともに、保護者等のニーズを捉えながら、今後も積極的な発信を続けていきたい。

No. 3	事業名	学校いきいき事業
-------	-----	----------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	学校と保護者・地域との連携や校種(注12)間の連携を一層図ることにより、地域で子どもを育てていく体制を構築することを目指します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標3:学校・家庭・地域の連携を深めます	
関連施策	施策(12):地域教育力の活用の充実	
担当課	教育指導課	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校教育支援ボランティア(注48)の活用の支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
地域の教育力の活用の支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
小中連携の取り組み	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校評議員(注13)の活用の支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p><b>【実施内容】</b>  ○学校教育支援ボランティア及び地域の教育力の活用については、学校教育支援チューターにおいて、小学校31校、中学校7校が活用し、チューター活用回数は、小学校645回、中学校120回であった。また、地域人材の活用においては、小学校46校、中学校23校、ろう学校、養護学校が活用し、地域の人材の活用回数は、小学校5683回、中学校1414回、ろう学校・養護学校23回であった。  ○小中連携については、小中学校の交流活動や幼小の交流活動など、各学校の状況に応じた取組が行われている。  ○学校評議員の活用については、全学校において行われている。</p> <p><b>【効果】</b>  ○学校教育支援ボランティア及び地域の教育力の活用については、様々な教育活動が可能となるとともに、子ども一人ひとりへのきめ細かい指導の充実を図ることができている。  ○小中連携については、小学生と中学生の交流活動などの中で、小学生にとっては中学生活への希望や中学生へのあこがれをもつ場となり、中学生には自己有用感をもつ場となる様子がみられた。  ○学校評議員の活用については、各学校において、学校評議員の意見を学校運営に生かしている。</p>
--

### 5. 課題

<p>○地域の教育力を活用するためには、学校と地域の方々と十分に共通理解を図っていくことが大切である。しかし、十分な共通理解を図るためには、そのための時間が必要であり、その時間を確保することが難しい状況にある。また、地域の方々の思いと学校の思いにギャップが生まれてしまうこともある。</p>
---

## 6. 課題に対する今後の改善策

○地域の教育力については、地域の方々のさまざまな力を学校が円滑に活用することができるよう、各学校において地域の教育力に関する情報を整理しておくことはもとより、近隣の学校でその情報を共有していくことも大切である。

### ※学識経験者の意見等

○学校と保護者・地域との連携や就学前教育および小中一貫教育の促進を図り、地域で子どもを育てていく体制を構築することはますます重要性を増してきている。子どもたちの健全育成を図るうえで、学校内外での子どもたちを見守る地域社会とのきめ細かな関係性の確立が必要不可欠となっている。学校教育支援ボランティア等の活用については今後も継続して取り組まれることが望まれる。また今後は、小中一貫教育が促進される中で、異年齢交流の場と交流活動の多様な展開によって、上級生に対する尊敬やあこがれ、下級生への慈しみや自らに対する自己肯定感など、安心と信頼、豊かな感性などに支えられた人間性の育成がさらに図られるようになってほしい。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○学校と地域が協力して子どもを育てていく体制を構築するうえで、学校教育支援ボランティア及び地域の教育力の活用は必要不可欠である。今後も、継続して取り組んでいきたい。

○小中一貫教育においては、各中学校ブロックの実態を踏まえながら、安心と信頼、豊かな感性などに支えられた人間性の育成が図られるよう、全教職員で「9年間で子どもたちを育てる」という意識を大切に、進めていきたい。

### ※備考(補足説明・用語解説など)

「学校教育支援チューター」(学校教育支援ボランティアの一形態)

市立小中学校の子どもたちに対して、学習上のつまずきの解消や学習意欲の向上を図るなどのために、派遣する教員志望の大学生。併せて教員志望の大学生にとっては、将来の教員としての資質・能力の向上の場となっている。

No. 4	事業名	学校支援ボランティア・コーディネーター導入の検討
-------	-----	--------------------------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	地域の人々が、社会教育で学んだ成果を学校教育に生かし、学校の教育活動を充実させるための学校支援ボランティアの導入を検討します。さらに、学校と地域がより密接な連携をするための橋渡し役となる、学校支援コーディネーター(注62)の導入も併せて検討します。このことにより、保護者および地域の人々が連携し、ボランティアとして学校を支援する活動を推進し、学校および地域の活性化を図ります。
掲載編	社会教育編	
関連目標	目標3:家庭や地域における教育力の向上を図ります	
関連施策	施策(7):「学社連携・融合」事業の推進	
担当課	生涯学習課	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ボランティア活用のための学校との連携	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
学校支援ボランティア講座	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
学校支援コーディネーターの導入	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p>○ボランティア活用のための学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援ボランティアや学校支援コーディネーターの活動事例発表等を行う研修会に参加し、継続して、学校支援ボランティア等に関する情報収集を実施した。</li> </ul> <p>○学校支援ボランティア講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館ボランティア養成講座実施後の状況を踏まえ、担当課内で検討し、ボランティアの心構え、学校がボランティアに望むこと等、全校が共通で受講可能な部分は、同講座の導入部分だけであったこと、その後は各校が、その状況に応じて、各校毎に対応していく必要があるという結論に至った。</li> </ul> <p>○学校支援コーディネーターの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会の講義や事例発表から、学校支援コーディネーターの果たす役割の大きさ、人材発掘が困難であること等の知識を得た。コーディネーターが、学校と学校支援ボランティアをつなぐキーパーソンであることを確認し、その上で、担当課内で検討し、コーディネーターは、学校との良好な関係を築くことができ、学校から望まれるような人材であること、養成講座等で簡単になれるようなものではないという結論に至った。</li> </ul>
--

### 5. 課題

<p>○ボランティア活用のための学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会事務局には、学校支援に関し、学校教育と社会教育を結ぶため、どちらの経験もあり、学校、地域の両方に助言ができる指導主事兼社会教育主事のような人材を配置できるとなお望ましいと考える。</li> <li>無償ボランティアは、負担が重くなるほど継続的参加は難しく、安定した活動を行うことは困難になると考えられる。</li> </ul> <p>○学校支援ボランティア講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援ボランティアが、必要な知識・技術を得て向上していくためには、全校を対象とした一律の内容の講座を開設しても効果は薄いと考えられる。ボランティア活用のため、今後は、さらに学校の協力を得ながら、学校の実情把握と情報交換に努めることが必要である。</li> <li>学校支援ボランティア講座を行う際に、全校を対象に共通の内容で実施できる部分は限られてしまうため、社会教育が担える部分と学校教育が担う部分を明確に整理していくことが必要と考える。</li> </ul>
---



○学校支援コーディネーターの導入

- ・地域の多様な人材を把握し、学校とマッチングしていくコーディネーターを配置する必要があるが、学校の多忙な状況と要望を十分に理解した上で、無償ボランティアとして、協力していただける方を探すことは容易ではないと考える。
- ・学校からの要望に応じて、その実情にあった人材の相談を行うことができるコーディネーターが求められていると考えている。このようなコーディネーターには指導主事や学校の管理職を経験された方などが望ましいと考える。
- ・学校の多忙な現状を踏まえた学校支援ボランティアとコーディネーターの導入について、社会教育の立場からだけでは具体的な方向性を見出すことはできない。今後はさらなる学校教育との連携が必要と考える。

## 6. 課題に対する今後の改善策

○ボランティア活用のための学校との連携

- ・すでにボランティア(学校図書館ボランティアを除く)が活動している学校で、情報提供可能な学校の有無を調査し、情報提供可能な学校があれば、活動内容、構成員、活動形態、学校の受け入れ態勢、ボランティアを導入した際の募集方法などを調査する。
- ・どのような学校支援活動を求めているのか、学校のニーズについて、指導主事等に状況を聞き取る。
- ・他都市(横浜市、相模原市等)の学校支援ボランティアの体制を調査する。
- ・ニーズや他都市等の状況から、学校を支援するために必要な体制について、ボランティア以外も含めて検討する。

○学校支援ボランティア講座

- ・ボランティア活動を導入している状況が多数みられる場合には、学校教育担当課等と連携し、新たに学校ボランティアの活動に加わった方々を対象として、ボランティアの心構え等を学ぶ機会を学校支援ボランティア講座として、年1回程度、実施できないか検討する。

○学校支援コーディネーターの導入

- ・学校教育担当課と社会教育担当課の課長会議など、学校支援ボランティアとコーディネーターについて、さらに検討を深める場を設け、求められている学校支援体制、学校のニーズなど、情報の共有を図り、導入方法を検討する。

## ※学識経験者の意見等

○学校を支えるボランティアの意義は大きい。ボランティアは、何らかの仕方で支えている人であり、特別な存在ではない。PTA活動もボランティアであり、学校を支える保護者は多いはずである。保護者も含めた地域の人には、社会教育経験者は存在する。そこでボランティア受け入れ体制、研修(当該教員を含む)、バンク、仕組みづくりは必要で、そんなに難しい課題ではないはずである。

○学校支援ボランティアについて、学校教員や関係者の理解度を深めることが重要である。

○学校支援ボランティアの役割については、他市町の事例や研究例があるので検討することが必要である。

○ボランティア講座については、多様なボランティアの課題解決に対応する学習内容が求められる。

○現在の学校の状況から考えると、コーディネーターの役割の重要性を理解してもらうために、学校の教員も含めて地域の人たちに社会教育の意味・役割を理解してもらうことからはじめていくことも必要である。

○現在の教員の職務から考慮すると、教員にコーディネーターを依頼することは無理であろう。学校教育経験者だけでは、コーディネーター的役割は難しいと思われるため、学校教育と社会教育の両方の経験者を委嘱することを期待したい。

○今日の教育課題を考えるとコーディネーターの設置は緊急を要する。

○学校・家庭・地域の連携推進の重要性は重点課題No.3で述べたとおりであるが、学校支援コーディネーターの導入等においては、どこまで人材発掘および確保が進むかが課題である。各地域において、相応しい人物がどこにいるか、徹底して地域に足を運んで、地域の方々や学校関係者から直接聞き取りをするなど、積極的な働きかけが必要である。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○既にボランティアが活動している市立学校について、活動するようになった発端、活動内容、構成員、活動形態、学校側の受け入れ態勢、募集方法等について情報提供を依頼する。現状での活動状況の把握に努める。

○引き続き、他市町村での学校支援ボランティア、コーディネーターの活動事例についての情報を収集し、検討材料とする。

○校長、教頭経験者であれば、学校教育と地域には通じていると思われるが、さらに社会教育の経験もある人材は多くはないと思われる。そのため、社会教育、学校教育、地域の全てに通じている人材発掘は容易ではないと考えられるが、今後、検討をしていく。

### ※備考(補足説明・用語解説など)

○以前、実施した学校図書館ボランティア養成講座は、ボランティアがやりたいことを行うものではなく、学校が必要とされることを行うことがミッションであること、図書館運営の基本的なこと、図書の修繕などを入門編で実施した。各校ごとに学校図書館の運営方法は異なるため、その後実施した専門編の講座は、全校を対象とする講座にすることはできないことも把握できたため、その後は学校ごとに研鑽してもらったこととした。こどもの成長とともにボランティアが交代していくため、様々な運営のノウハウが引き継がれていくかどうかは、学校ごとに異なる。

No. 5	事業名	家庭教育講演会の開催
-------	-----	------------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	保護者に対する学習の機会、情報の提供および家庭教育の支援のため、家庭教育講演会を実施し、保護者の意識向上を目指します。
掲載編	社会教育編	
関連目標	目標3:家庭や地域における教育力の向上を図ります	
関連施策	施策(8):学校・家庭・地域の連携強化による家庭教育力の向上	
担当課	生涯学習課	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
家庭教育講演会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p><b>【実施内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年6月10日 「ペップトーク～元気・勇気を与えるトーク術～」 出席者174名</li> <li>平成26年9月17日 平成26年度学校図書館ボランティア読書推進講演会(第1回) 出席者58名</li> <li>平成26年9月25日 平成26年度学校図書館ボランティア読書推進講演会(第2回) 出席者 41名</li> <li>平成27年2月21日 「ケータイ・スマホ・ネット依存と睡眠障害」～子どもの健全な発育のために実践すべきこと～ 出席者42名</li> </ul> <p><b>【効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横須賀市PTA協議会に委託したことにより、学校や家庭における課題に対応した内容の講演会を開催できた。</li> </ul>
---

### 5. 課題

<p>○講演会の開催を横須賀市PTA協議会に委託しており、現場での課題意識に基づいた講演会の開催をお願いしているが、家庭を取り巻く環境の変化も激しく、共働き世帯やひとり親世帯も増加しており、親の多忙化から家庭教育に充てる時間が十分に取れなかったり、核家族化や地域とのつながりの希薄化という状況もあり、家庭教育支援の重要度が増している。</p> <p>○本来に来てほしい悩みを持つ保護者の参加が難しいと思われる。</p>
---

### 6. 課題に対する今後の改善策

<p>○家庭教育支援の重要度は今後とも増していくことが見込まれるため、横須賀市PTA協議会と連絡を取り合い、こちらでも収集した情報を提供しながら、扱うべきテーマについて検討をしていく。</p>
--

### ※学識経験者の意見等

○市民のニーズに依拠したものや全国的に必要な課題を解決する内容など、家庭教育の課題に即したテーマを選定することが求められる。

○講演会等の内容と実施方法に関しては、多様化・多忙化する家庭環境の変化に対応したものになくなくてはならない。仕事が忙しく家庭教育に充てる時間が十分に取れない、悩みが深いだけに他者には相談し難いような方々は、そもそも講演会への参加が難しい。

戸別訪問の実施やホームページ等を充実させて、各自の都合にあわせて情報が入手できるような工夫が必要となろう。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○今後とも、横須賀市PTA協議会と連絡をとりながら情報交換を続け、様々な課題解決に資するようなテーマの講演会につなげていく。

No. 6	事業名	総合型地域スポーツクラブ(注5)育成事業
-------	-----	----------------------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	いつでも、どこでも、いつまでも、より多くの人が生涯を通してスポーツやレクリエーションを楽しめる地域コミュニティである総合型地域スポーツクラブを育成します。
掲載編	スポーツ編	
関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます	
関連施策	施策(5):市民が主体となる活動の支援	
担当課	スポーツ課	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市民の認知度の向上のための情報提供の充実	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
創設支援のための調整会議の開催および情報の提供	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
既存団体の活動拠点の確保	計画	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施
	実績	検討・実施	—	—	—
各種目スポーツ団体に対する研修会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
指導者派遣に関する情報	計画	提供	提供	提供	提供
	実績	提供	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p><b>【実施内容(実績)】</b>  馬堀スポーツクラブ(平成16年総合型設立)、NPO法人横須賀シーガルズスポーツクラブ(平成21年総合型設立)、NPO法人よこすか総合型地域スポーツクラブ(平成24年3月設立、平成25年11月20日NPO法人成立)の市内3クラブに対する育成支援を以下のとおり実施した。  ○市民の認知度の向上に係る情報提供の充実・・・地元町内会・小中学校等への広報活動支援に努め、また、横須賀市民便利帳への記事掲載に向けた調整を行った。  ○既存団体の活動拠点場所確保の支援を行った。事例として、NPO法人よこすか総合型地域スポーツクラブの活動場所である旧上の台中学校体育施設等が、平成26年度から鴨居中学校に編入され、防災資器材保管場所や地域団体要望等に関して庁内及び鴨居中学校と調整を行い、施設利用の継続性を確保した。  ○各種目スポーツ団体に対する研修会・・・横須賀市体育協会を通して、講習会2回と講演会1回を開催した。  ○指導者派遣に関する情報・・・神奈川県立体育センターなどから本市に送付される指導者派遣について周知した。  ○その他、運営会議等の開催および情報の提供・・・定期的に開催する運営委員会等の会議に出席し、県内の状況の報告や運営に関する助言を行った。</p> <p><b>【効果】</b>  ○2年に1度、全戸配布される「横須賀市民便利帳2014・2015」に市内3クラブの紹介記事が掲載され、より効果的な市民への情報発信が図られた。</p>
--

### 5. 課題

○新たに総合型地域スポーツクラブ設立に向け、直接活動を支援できる団体・クラブは今のところない。
---

## 6. 課題に対する今後の改善策

○市民向けの総合型地域スポーツクラブの情報発信はもとより、既設クラブが広域的に活動するなどの発展に向け、活動支援を継続する。

### ※学識経験者の意見等

○市民の認知度の向上に係わる情報提供の充実:

横須賀市民便利帳や地元町内会の回覧、小中学校への広報活動を行っているが、市民の総合型地域スポーツクラブの認知度は高いとは言えない状況である。広報よこすかやホームページを活用した情報提供を図り、会員数の増加を期待したい。

○既存団体の活動拠点場所の確保支援:

NPO法人よこすか総合型地域スポーツクラブの活動場所である旧上の台中学校体育施設等について、施設利用の継続性が確保された。総合型地域スポーツクラブは地域住民が自主的・主体的に運営し、身近な学校や公共施設などを拠点として活動する地域密着型のスポーツクラブである。少子高齢化の社会において、介護予防や軽度認知症の低下予防など運動が果たす役割は今後ますます大きくなるものと考えられる。また、子どものスポーツ活動の場の提供や家族の触れ合い、「放課後子ども教室」の受け皿として対応も考えられる。

○各種目スポーツ団体に対する研修会・指導者派遣に関する情報:

総合型地域スポーツクラブの課題は「会員の確保」・「財源の確保」・「指導者の確保」が挙げられているが、横須賀市体育協会の支援により順調に運営されていることは望ましいと言える。しかし、今後とも財源や指導者の確保が確保されているとは言い難い。対応策の検討が必要と思われる。

○全般:

少子高齢化の社会を迎え、地域のコミュニティを形成するためには年齢や性別、障害等を問わないライフステージに応じた地域密着型のスポーツ活動を継続的に実践できる方策が必要である。

○現状に特に問題があるわけではないが、重点課題No.5で述べたような多忙な方々には、既存のスポーツクラブなどへの参加や施設の利用は可能なのか。参加者・利用者の裾野を広げていくためにも、誰もが参加しやすいクラブや利用しやすい施設のルール改善が必要であろう。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○市民の豊かなスポーツライフの実現にあたり、総合型地域スポーツクラブの育成はご指摘のとおり重要な位置付けである。広報よこすかやホームページなどによるクラブの周知をはじめ、放課後子ども教室等を視野に入れた活動拠点の拡充など、年齢や性別、障害等を問わず、様々な運動に触れる機会を提供し、体を動かす楽しさを味わっていただくため、財政的・事務的の両面からの支援方法を検討していく。

また、誰もがより参加しやすくなるよう、運営面についてもクラブの開設者と協議していく。

### ※備考(補足説明・用語解説など)

○「総合型地域スポーツクラブ」

①子どもから高齢者まで(多世代)、②様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、③技能の高低や障害の有無などに関わらずそれぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

No. 7	事業名	家庭との連携による生活習慣、学習習慣の確立
-------	-----	-----------------------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進 重点課題2:学力・体力の向上	児童生徒の保護者に、啓発のためのリーフレットを配布するなど、児童生徒の望ましい生活習慣、学習習慣の確立を目指します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標3:学校・家庭・地域の連携を深めます	
関連施策	施策(11):家庭との連携による生活・学習習慣の確立	
担当課	教育指導課・支援教育課・学校保健課	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
子どもの生活状況の把握と分析	計画	—	—	実施	—
	実績	—	—	—	—
家庭学習啓発リーフレット	計画	配布	配布	配布	配布
	実績	配布	—	—	—
横須賀子どもスタンダード(注47)	計画	配布 小1	配布 小1	配布 小1	配布 小1
	実績	配布 小1	—	—	—
教育フォーラム	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
保健だより、給食だよりなどを通じた意識啓発	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p>○家庭学習啓発リーフレット 各家庭にリーフレットを配布することによって、家庭学習の必要性に対する意識が高まった。</p> <p>○横須賀子どもスタンダード 4月に小学校1年生児童に配布した。継続して配布していることで、児童指導に対して学校間・職員間の意識差が縮まり、職員の共通理解のもとに児童指導にあたることができた。</p> <p>○教育フォーラム 家庭・地域に対してフォーラムをひらくことによって、学力向上のための学校・家庭・地域の連携の必要性を啓発することができた。</p> <p>○保健だより、給食だよりなどを通じた意識啓発 (内容)保健だよりは養護教諭が、給食だよりは栄養教諭等が各校で作成し、児童生徒及び保護者あて配布した。 (効果)児童生徒及び保護者の意識啓発により児童生徒の望ましい生活習慣、学習習慣の確立につながった。</p>
---

### 5. 課題

<p>○家庭学習啓発リーフレット その活用について保護者に浸透させることが困難である。</p> <p>○横須賀子どもスタンダード 市民や保護者に浸透させることが困難である。</p>
--

## 6. 課題に対する今後の改善策

- 家庭学習啓発リーフレット  
継続して配布すると同時に教育フォーラム等で保護者に向けて発信を行っていく。
- 横須賀子どもスタンダード  
継続して小学校新1年生向けに配布し、保護者に丁寧に説明をしていく。

### ※学識経験者の意見等

○リーフレットやスタンダードの配布、教育フォーラムの開催、保健だよりや給食だよりの配布がどのような効果をもたらすことができたのか検証していく必要がある。「意識が高まる」と「浸透させる」ことの違いとは、どのようなイメージで表すことができるのか。どうなることをめざすのか、目標のイメージを明確にして取り組む必要がある。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○生活習慣や学習習慣の確立を目指して、様々な手立てを講じているが、その達成イメージを明確にすることに取り組んでいく。その上で、一つひとつの手立ての効果を丁寧に検証していきたい。

○横須賀子どもスタンダードは、児童指導担当者会や支援教育コーディネーター連絡会等で「教職員の意識」「保護者への浸透」について各校の状況について継続して検証し、今後の効果的な活用について検討していく。

○リーフレット等各種啓発資料の配布や、フォーラムの開催による効果の検証については、目に見える形として数値化するような評価自体は困難であるが、それぞれの目標を明確にする中で、どこにどういった変化が出るかが効果と捉えられるのか、あらためて検討したい。



No. 8	事業名	児童生徒健康・体力向上推進事業
-------	-----	-----------------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進 重点課題2:学力・体力の向上	市内全体の児童生徒の健康体力、運動習慣の状況について把握します。それぞれの調査結果を検証、対策について検討し、それぞれの調査結果や相関関係を児童生徒および保護者に提供します。
掲載編	スポーツ編	
関連目標	目標1:子どもの生活習慣を改善し、体力の向上を図ります	
関連施策	施策(1):生活習慣の改善および健康・体力づくりの推進	
担当課	スポーツ課	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
体力・運動能力調査	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

#### 【実施内容】

学識経験者を交えた「横須賀市児童生徒・体力向上推進委員会」を開催し、体力向上に向けた方策について話し合った。また、4つの横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会担当部会で、健康・体力向上について検討した。その内容について横須賀市体力づくり実践研究発表大会で報告した。

#### ◆横須賀市児童生徒・体力向上推進委員会(平成26年12月19日)

- ・平成25、26年度横須賀市体力・運動能力調査結果の分析
- ・4つの各担当部会の取組について
- ・体力向上に必要な取組について意見交換

#### ◆横須賀市児童生徒・体力向上推進委員会担当部会の取組

##### 1 子どもの体力向上部会

- 第1回担当部会(平成26年8月8日)／第2回担当部会(平成26年8月21日)  
第3回担当部会(平成26年11月6日)／第4回担当部会(平成26年12月12日)
- ・体力・運動能力調査結果の分析及び考察
  - ・運動習慣等の調査結果の分析及び考察
  - ・市内の体力の傾向分析
  - ・全国との比較
  - ・新体力テスト講習会の実施

##### 2 運動習慣の定着部会

- 第1回担当部会(平成26年8月26日)／第2回担当部会(平成26年11月4日)  
第3回担当部会(平成26年12月24日)／第4回担当部会(平成27年1月13日)
- ・体力づくり指定校と運動部活動モデル校での取組について

##### 3 生活習慣の改善部会

- 第1回担当部会(平成26年8月5日)／第2回担当部会(平成26年8月8日)  
第3回担当部会(平成26年10月14日)／第4回担当部会(平成26年11月14日)  
第5回担当部会(平成26年12月16日)／第6回担当部会(平成27年1月6日)
- ・生活習慣啓発資料作成について

##### 4 健康・体力づくりの情報提供部会

- 第1回担当部会(平成27年1月13日)
- ・市体力実践研究発表大会で取組内容の発表について

#### 【効果】

○学識経験者の助言や小学校体育研究会、中学校保健体育研究会、学校保健研究会健康安全部会、中学校体育連盟各会の協力により、体力・運動能力向上の取組実践が広がり、平成25年度と比較して小学校1年生から中学校3年生までの体力・運動能力調査の結果が向上した。また、市内委託校研究では児童生徒に具体的な目標を示したり、効果的な言葉かけによって運動意欲を高めることで記録が向上することが明らかになった。

### 5. 課題

- 平成26年度は、ほぼ全学年で平成25年度より体力・運動能力が向上したが、全国平均値と比較すると劣っていること。
- 新体力テストの測定時に、全力で実施していない児童生徒が多数いること。
- 自校の体力・運動能力の実態を分析し、学校教育全体で取り組んでいる学校が少ないこと。
- 学力・体力・生活習慣、運動習慣等と関連付けた取組が行われていないこと。

### 6. 課題に対する今後の改善策

- 研究委託校で実践し、効果があることが明らかになった方法を各研究会と協力して横須賀市全体に広めていくことで、多くの児童生徒の運動への意欲が高まり全力で取り組むように指導する。
- 横須賀市体力・運動能力、運動習慣等調査を実施し、横須賀市の児童生徒の体力の結果を学校、個人ごとに分析し、フィードバックすることで学校と個人の体力向上に生かす。また、横須賀市全体の傾向を分析し、全市へ情報発信する。
- 国や横須賀市学習状況調査と横須賀市体力・運動能力、運動習慣等調査結果との相関を分析し、横須賀市としての具体的な取組内容を明らかにする。

### ※学識経験者の意見等

- 横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会：4つの担当部会で分析・検討された結果を各学校に情報発信され、児童生徒の健康・体力の向上に資するように活用されたい。体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や精神面の充実に大きく関わっており「生きる力」を支える上での重要な要素である。発育発達の旺盛な時期にその能力を高めておくことは必須の課題である。
- 体力・運動能力調査：体格面は横須賀市の児童生徒の数値はほぼ全国平均と変わらない傾向である。運動能力は26年度は25年度に比し上回っているが、全国平均と比べるとやや低い結果となっている。生活実態調査から運動日数等は全国平均とほぼ変わらないが低下の原因は何か。調査が必要に思うが運動量ではなく運動の質の問題か研究してみなければ分からない。体力は継続実践することにより、維持・向上が図られるものであり、児童生徒の生活習慣の改善、運動習慣の定着を実践させることが重要な課題である。児童生徒に調査結果から、自己の結果と他との比較をすることにより今後の健康体力や運動習慣について改善する資料となるように提供されたい。
- 「横須賀市児童生徒・体力向上推進委員会」の開催、「横須賀市児童生徒・体力向上推進委員会担当部会」での分析・考察等、着実な取組が見られる。学校教育現場における各校の取組との関係、その促進については、多忙化する学校現場の実情をふまえたうえで、負担のかからぬよう配慮して進めていく必要がある。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- 学習指導要領総則に「体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする」とある。平成27年度から、小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒が新体力テストを実施し、その結果分析を業者委託することになるが、各校がその調査結果から自校の課題を見つけ出し、その解決に向けてこれまで以上に積極的に取り組んでいけるよう、横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会及び担当部会において、横須賀市の体力向上、生活習慣、運動習慣等の改善に向けた取組を検討していきたい。

No. 9	事業名	学校評価推進事業
-------	-----	----------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進 重点課題4:学校の教育力向上	学校が学校評価を適切に実施し、教育活動や学校運営の充実・改善を図ることができるよう、学校評価の推進に努めます。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標2:学校の組織力や教職員の力を高めます	
関連施策	施策(6):学校運営改善の充実	
担当課	教育指導課	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校評価に関する指導・助言	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校評価の在り方の検討・実施	計画	検討	実施	実施	実施
	実績	検討	—	—	—
学校評価アンケート調査集計業務委託	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p>○学校評価に関する指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校から提出された学校評価をもとに学校訪問を行い、学校の捉えている課題に対しての指導助言を行った。また、各学校から提出された学校評価の報告をもとに、学校評価の優れた取組を発信することで、学校評価の取組に対する啓発につながった。</li> </ul> <p>○学校評価の在り方の検討・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会内で学校に課している学校評価を含めた報告書について洗い出し、報告書の一本化に向けた検討を行った。また、学校評価への理解を深めるため、報告書の作成とともに次年度に向けて研修の構築を行った。その結果、市内学校評価の取組に対する課題が明確となった。</li> </ul> <p>○学校評価アンケート調査集計業務委託</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価に関わる外部アンケートの集計業務について業務委託を行い、集計データをもとに各学校が自校の教育活動の成果と課題を明らかにし、学校改善につなげることができた。</li> </ul>
---

### 5. 課題

<p>○各学校の学校評価への理解に差があり、一部の学校で取組が形骸化してしまっている。</p> <p>○外部アンケート集計についても、学校によっては中間検証、年度末検証と二度取組む学校もあり、集計業務委託を複数回行いたいという要望がある。</p>
---

### 6. 課題に対する今後の改善策

<p>○学校評価に関する理解を深めるため、学校評価に関する研修及び学校評価担当者会を開催する。</p> <p>○学校評価の報告書の変更に合わせて、横須賀市版の学校評価ガイドラインを作成する。</p>
---

### ※学識経験者の意見等

○学校評価に関する形骸化の問題を払拭していくために、学校長はじめ教務担当者らの理解を深めるための研修を行うなど、具体的な改善策を講じる必要がある。その際、好ましい学校評価の在り方の事例を具体的に示し、ワークショップ式に研修会を開催するなど、机上の作業だけに終始しないよう工夫して行ってほしい。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○平成27年度については、学校評価の理解を深めるために、管理職を対象とした学校評価に関する研修を構築した。また、形骸化の問題を払拭するために、現在の報告書の様式を改め、学校改善につながるよう検討し、平成28年度より実施する予定である。それに伴って、平成22年度に作成したガイドラインを改定し、学校評価の担当者会を開催し、横須賀市としての取組方法について、理解を深めていく。

No. 10	事業名	学力向上事業
--------	-----	--------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題2:学力・体力の向上	「横須賀市学力向上推進プラン」に基づき、学力向上の取組の充実を図ります。また、教員の授業力向上や人材育成を進めるための学校組織の活性化を推進します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(1):教育活動の充実	
担当課	教育指導課・教育研究所・教育政策担当(教育情報システム室)	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
各学校が作成する「学力向上プラン」充実のための指導主事(注24)の派遣	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	派遣	—	—	—
学力向上推進担当者会(総括教諭等学校運営推進者連絡会)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
学力向上推進モデル校	計画	設置	設置	設置	設置
	実績	設置	—	—	—
学力向上放課後教室サポートティーチャー(注25)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
家庭学習啓発リーフレット	計画	配布	配布	配布	配布
	実績	配布	—	—	—
家庭学習用データベースバンク	計画	整備	整備	整備	整備
	実績	整備	—	—	—
横須賀市学力向上推進委員会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
教育フォーラム	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
横須賀市学習状況調査(注26)	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
横須賀の学力向上について調査・研究(研究会(注27))	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学力向上をねらいとした研修体系	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—
教師力アップ(注28)プロジェクト	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
横須賀総合高等学校でのサテライト授業	計画	開設	開設	開設	開設
	実績	開設	—	—	—

#### 4. 実施内容(実績)および効果

- 学力向上プラン充実のための指導主事派遣
  - ・学校訪問において学力向上プラン作成のための指導助言を行い、学校の学力向上のPDCAサイクルの確立につながった。
- 学力向上推進担当者会(総括教諭等学校運営推進者連絡会)
  - ・横須賀市の学習状況や学習状況調査の分析方法等について伝達し、各学校の学習状況をもとにした学力向上の取組を具体化することにつながった。
- 学力向上推進モデル校
  - ・学力向上推進モデル校を設置し、学力向上に向けた先進的な取組を研究し、中間発表を行うことで、市内の取組の充実につながった。
- 学力向上放課後教室・サポートティーチャー
  - ・配置することにより、各学校で学習状況に課題を持つ子どもたちに対して個に応じた支援をすることができた。
- 家庭学習啓発リーフレット
  - ・各家庭にリーフレットを配布することによって、家庭学習の必要性に対する意識が高まった。また、小学校の入学説明会で配布する就学前用リーフレットも作成し、配布した。
- 家庭学習用データベースバンク
  - ・各学校がパソコン上からデータを取り出せることで、家庭学習の充実とともに児童生徒の基礎基本の定着につながった。
- 横須賀市学力向上推進委員会
  - ・横須賀市の学力向上の取組に対しての進言を得ることで、取組の充実につながった。
- 教育フォーラム
  - ・家庭・地域を対象にフォーラムを開催することで、学力向上のための学校・家庭・地域の連携の必要性を啓発することができた。
- 横須賀市学習状況調査
  - ・小学校4年生、中学校1年生を調査対象に拡大することにより、横須賀市の児童生徒の学習状況を広く把握することにつながり、横須賀市の児童生徒の課題が明確になった。
  - ・平成26年度は、横須賀市学習状況調査の結果から、国語と社会の課題と解決方法を洗い出した。
    - ①知識の少なさ → 知識のつながり、汎用化ができるようにする。
    - ②読解力の低さ → 文章、地図等の資料から正しい情報を取得できるようにする。
    - ③意欲の低さ → 難問、長文に対しても挑もうとする意欲の喚起方法を研究する。
- 横須賀の学力向上について調査・研究
  - ・研究員会を立ち上げ、横須賀市の学力の課題に着目し、課題解決のための研究を進めた。
  - ・横須賀市学習状況調査の一つ一つの問題と、その結果や誤答の傾向を見ていくことで、本市の子どもの学力上の課題を探った。
- 学力向上をねらいとした研修体系
  - ・研修体系を整理することにより、教師の指導力向上から学力向上につなげる研修を構築した。
- 教師力アッププロジェクト
  - ・学力向上につながる校内での人材育成をどう実施するか、人材育成プログラムを作成し、市内学校への発信に向けた準備を行った。
- 横須賀総合高等学校でのサテライト授業
  - ・英語科を中心としてサテライト授業を行うことにより、生徒の学力向上につながった。

#### 5. 課題

- 学力向上プランについては、指導主事の指導助言によって学校のPDCAが確立しつつあるが、学校によっては、担当者レベルで作成し、全体に広げられないという実態もあり、学校組織的な取組を進める必要がある。
- 学力向上推進担当者会(総括教諭等学校運営推進者連絡会)では、学力向上だけではなく伝達事項が多岐にわたるため、学力向上担当者に特化した「学力向上担当者会」を新たに開催する必要がある。
- 学力向上放課後教室・サポートティーチャーについては、その活用について学校によって課題があり、サポートティーチャーと学校の連携や活用の仕方について、各学校へ指導する必要がある。
- 横須賀市学習状況調査の分析には時間がかかったため、当初は、国語・社会・算数数学・理科を行う予定だったが、平成26年度は国語と社会で終了した。

## 6. 課題に対する今後の改善策

- 学力向上プランについては、引き続き学校訪問において、指導主事が指導助言を行うこと、また、新たに「学力向上担当者会」を開催し、学力向上を組織的に取り組む視点を伝達していく。
- 「学力向上担当者会」を年間で3回開催し、担当者を通して学校内で組織的に取り組めるよう、その取組方法について伝達を行う。
- サポートティーチャーの活用の仕方について調査を行い、実態を把握した後、各学校へ指導を行うとともに、効果的な活用方法について発信する。
- 学力向上についての調査研究(研究員会)できる限り教科の専門性を考慮した委員の委嘱を行う。限られた時間の中で、必要な分析をするための手立てを考える。

### ※学識経験者の意見等

○貴市における学力向上事業に関しては、特に指導主事が各学校にきめ細かく指導助言に当たるなど、日常的な授業改善に結びつけながら効果的な方法で実施されている。今後は、「学力」自体がより活用型のものに重心を移し、「何を教えるか」という教師中心のものから「どのように学ぶか」という児童・生徒中心のものへと転換が図られていくことになる。こうした質的な学力の形成と向上は、日常の授業を児童・生徒の自律的で協働的な学びの促進を図るものへと質的に改善することでしか実現できない。まさに教師の授業力が問われることとなる。そのための研修の充実と研修にかける時間の確保が急務である。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○本市の学力の課題は、思考力・判断力・表現力等や知識・技能の習得に見られる。知識・技能を活用する中で定着を図り、思考力・判断力・表現力等の育成を目指したい。その中で、学び方を学ぶ授業になるようにすることは、重要であると捉えている。今後は、各学校の研究授業等において、指導主事が指導助言の中で質的な学力の形成にも重点を置くとともに、各学校が研修の充実が図れるような支援をしていく。

○研修については、各基本研修を中心に授業力向上を中心として計画しており、ご指摘を考慮しながら、関係課と連携して児童・生徒中心のものへと転換を図る内容にしていく。

No. 11	事業名	小中一貫教育(注6)推進事業
--------	-----	----------------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題2:学力・体力の向上 重点課題3:いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決	小中学校の教職員が義務教育9年間で児童生徒を育てるという意識をもち、児童生徒や地域の実態をもとに共通の教育方針を設定するなど、小中で一貫した教育の充実に取り組みます。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(5):校種間連携の推進	
担当課	教育指導課	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小中一貫教育推進校	計画	設置	設置	—	—
	実績	設置	—	—	—
ブロックにおける小中で一貫した教育の充実	計画	—	—	実施	実施
	実績	—	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p><b>【実施内容】</b>  ○平成23年～平成25年に、小中一貫教育に関する研究を委託した4中学校ブロック(小学校6校、中学校4校)に小中一貫教育推進校の役割を依頼し、横須賀市における小中一貫教育について、さらに研究を進めるとともに、その取組について市内に発信をした。  ○平成28年度より、市内の全小中学校において、小中一貫教育を推進していく。そこで、平成28年度に向けた準備を各中学校ブロックにおいて円滑に進めていくことができるよう、推進校の実践をもとに、冊子(「小中一貫教育を進めるために」)を作成し、市内の小中学校の全教職員に配布した。</p> <p><b>【効果】</b>  ○小中一貫教育推進校においては、小中学校の教師が授業研究を通して、小中の学びのつながりや互いの授業における指導の在り方について理解を深めるとともに、授業改善の視点をもつことができた。  ○学校のきまりや授業のきまりなど、生活指導の面での小中学校での違いが明確となり、子どもの発達の段階を踏まえながら、小中学校で共有化できた。  ○市内の小中学校において、平成28年度に向けて、小中一貫教育の準備を進めていこうとする意識が少しずつ広がってきている。</p>
--

### 5. 課題

<p>○平成28年度の市内の全小中学校において小中一貫教育を推進していくために、解決しなければならない課題を整理しながら、具体的な取組を示していく必要がある。  ○小中学校の限定された学年や一部の教職員の関わりとならず、全教職員が「9年間で子どもたちを育てる」という意識を持てるような取組にしていく必要がある。  ○学校へのさらなる啓発とともに、市民に向けた啓発も必要となる。</p>
--



## 6. 課題に対する今後の改善策

- 各学校の校務分掌に小中一貫教育担当者を位置づけ、管理職と担当者を中心とした「小中一貫教育推進委員会」を中学校ブロックごとに定期的に開催する。
- 各学校の担当者が参加する「小中一貫教育担当者会」を市として開催し、横須賀市における小中一貫教育について、具体的な実践を通して情報共有を図る。
- 中学校ブロックごとに、担当指導主事を配置し、ブロックの取組に積極的に関わっていく。
- 市民に向けて、情報を発信していく。

### ※学識経験者の意見等

- 貴市における小中一貫教育に関する取組は、検討委員会-推進校-手引冊子作成-市内全中学校区という段階を適切な時間と周到な準備をかけて進めてきたため、着実な進み方を見せている。今後も指摘されているように、限定された学年や一部の教職員の関わりとならず、全教職員が「9年間で子どもたちを育てる」という意識を持てるような取組にしていくことや市民に向けた啓発など、きめ細かな指導・支援の継続が重要になる。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- 小中一貫教育に関する取組は、推進校の力を借りながら、準備を進めてきた。今後、推進校の実践をもとにしながら、各中学校ブロックの実態に応じて、取組が進められていく。その中で、全教職員が「9年間で子どもたちを育てる」という意識を持てることを大切にして、きめ細かな指導・支援を継続していきたい。また、小中一貫教育の取組には、学校を支えていただく地域の方々のご理解が重要となってくるので、今後、市民に向けた情報発信を行っていきたい。

No. 12	事業名	支援教育(注7)推進事業
--------	-----	--------------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題3:いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決
掲載編	学校教育編
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(2):支援教育(注7)の充実
担当課	支援教育課

### 2. 事業の概要

支援や配慮を必要とするすべての子どもの教育的ニーズに対応し、一人ひとりの子どもの学校生活を充実させることで、総合的な支援教育を推進します。

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
横須賀市支援教育推進委員会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
相談支援チーム連絡会議	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
各種介助員(注21)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

#### 【実施内容】

○横須賀市支援教育推進委員会を3回開催し、本市の児童生徒の実態や不登校の状況等を踏まえ、支援教育推進プラン行動計画の進行管理を行った。また、本市のいじめ防止対策について協議を行った。  
 ○相談支援チーム連絡会議では、障害のある子ども、配慮を必要とする子どものライフステージに沿った支援の機関連携や具体的な対応の方策について研究をした。  
 ○介助員については、特別支援学級介助員33校分(66人)、教育支援臨時介助員31,983時間分、泊を伴う学校行事介助員等の配置した。市立学校で配置している介助員の数は、おおよそ300人である。

#### 【効果】

○支援教育推進委員会では、行動計画の進行やいじめ防止対策について、各委員から専門的な意見をいただいた。  
 ○相談支援チームの活動は定着が見られ、各学校で支援の継続や必要な支援の相談、わかりやすい授業の取組などの支援教育体制が整備されてきた。  
 ○配慮や支援の必要な児童生徒に介助員を配置することで、安全に授業や行事参加ができるようになり、経験の拡大や学習の充実が図れた。学校や保護者からのニーズも高いため、さらなる充実が必要である。

### 5. 課題

○支援教育推進委員会では、支援教育推進プランの進行管理を行う上で、3つの指針における行動計画の重点課題から取り組む必要がある。また、いじめ等への問題に関する支援体制もさらに充実していく必要がある。  
 ○相談支援チームでは、市のシステムを学校に広く周知し、浸透させる必要がある。就学前から卒業後までを考えると、他機関との連携をより強化し、支援の重層化をめざしていく。  
 ○介助員については、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、学校や保護者からの要望が強く、十分にこたえ切れていない。子どもの教育的ニーズを的確に捉えて充実を図りたい。  
 ○障害者基本法の改正に伴い、本人や保護者の意向を教育の中でも強く反映していかなければならない部分とのバランスも検討していく必要がある。

## 6. 課題に対する今後の改善策

○支援教育推進委員会では、専門的な視点から幅広い意見をいただいて取組に活かしていく。また、いじめ等の問題に関しては、市のいじめ等の防止対策について意見をいただき、見直しを図っていききたい。

○相談支援チームでは、市の研究委託校等との連携や他機関の巡回相談等、内容別の取り組みを学校のニーズにあわせて展開していくことに重点を置いていく。

○介助員等の配置については、支援の精選や必要な支援の見直しを進めていく。あわせて、校内支援体制の構造化や教師の指導力の向上、授業のユニバーサルデザインの浸透、教育相談の充実を進めることで、インクルーシブ教育システムを構築していきたい。

### ※学識経験者の意見等

○支援教育の推進は、介助員等の配置のいっそうの充実を図ることと、すべて教職員の支援教育に関する理解を深めることの両面から対策がとられなければならない。支援員の増員を図っても、「一般」の教職員が介助員に任せ切りの意識でいれば、授業のユニバーサルデザインの浸透やインクルーシブ教育システムの構築も手の届かないものになってしまう。特に介助員との連携の在り方などについて、十分な見識をもてるよう研修の機会を設けるなどが必要である。今後はチーム学校として多様なニーズを受入れ、あわせて指導・支援に当たることができるようになっていってほしい。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○本市のインクルーシブ教育システム構築のため、各校の校内研修会や巡回相談、支援教育コーディネーター連絡会等において、教職員の支援教育に関する理解を深めることを推進するとともに、介助員と教職員の連携の在り方などについても研修し、教職員が十分な見識をもって、適正な介助員の運用ができるよう進めていく。

No. 13	事業名	いじめ・不登校(注3)対策事業
--------	-----	-----------------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題3:いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決	いじめ・不登校等の未然防止、不登校状態の改善および学校内外での児童生徒の居場所づくりを目指し、NPO(注29)などと連携を図った活動を展開し、総合的ないじめ・不登校対策を推進します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(2):支援教育(注7)の充実	
担当課	支援教育課	
備考	詳細は①～④に掲載	

No. 13-①	事業名	①相談員等派遣事業
----------	-----	-----------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題3:いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決	子どもの日常的なふれあいや相談等を通じ、いじめ・不登校等問題行動の未然防止、早期発見、早期対応、学校内での児童生徒の居場所づくりを目指し、総合的な支援策を推進します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(2):支援教育(注7)の充実	
担当課	支援教育課	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ふれあい相談員(注10)	計画	全小学校に配置	全小学校に配置	全小学校に配置	全小学校に配置
	実績	全小学校に配置	—	—	—
登校支援相談員(注10)	計画	全中学校に配置	全中学校に配置	全中学校に配置	全中学校に配置
	実績	全中学校に配置	—	—	—
小中学校スーパーバイザー(注32)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
学校・フリースクール(注33)等連携協議会	計画	年3回開催	年3回開催	年3回開催	年3回開催
	実績	年3回開催	—	—	—
ハートフルフォーラム 進路情報説明会・不登校相談会	計画	年2回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催
	実績	年2回開催	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p>○ふれあい相談員、登校支援相談員の全校配置により、学校内の教育相談体制が充実するとともに、不登校児童生徒の学校内での居場所づくりが進んだ。</p> <p>○小中学校スーパーバイザーが小中学校の相談員に専門的な研修を実施することにより、相談員の資質の向上につながった。</p> <p>○学校・フリースクール等連携協議会を開催しフリースクールとの連携を進めることで、支援機関の選択肢を広げるとともに、不登校相談会の開催等につなげることができた。</p> <p>○ハートフルフォーラムは6月28日(土)に実施した。進路情報説明会・不登校相談会は10月4日(土)に実施した。</p>
--

### 5. 課題

<p>○不登校については国・県と比較すると依然として出現率が高い状態にあり、継続して事業を遂行する必要がある。</p> <p>○また事後対応だけでなく、不登校の未然防止・早期対応の重要性についてさらに強く発信していく必要がある。</p>
--

## 6. 課題に対する今後の改善策

○不登校対策を含めた総合的な支援教育の方向性を、再検討して事業施策として生かすことにより、不登校の未然防止、出現率の更なる減少につなげていきたい。  
○教育相談充実事業と小学校ふれあい相談員や中学校登校支援相談員、スクールカウンセラーとの協働体制を構築し、より充実した支援を進めたい。

### ※学識経験者の意見等

○子どもとの日常的なふれあいや相談等を通じ、いじめ・不登校等問題行動の未然防止、早期発見、早期対応、学校内での児童生徒の居場所づくりを目指していくという方針を具現化するため、教員一人ひとりに児童・生徒と向き合う時間の確保、ふれあいや相談に乗ることができる精神的余裕や受容性・共感性に恵まれる必要がある。そうした条件確保や教員のマインドの形成に関する対応をどう図るかも課題である。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○教員一人ひとりに児童・生徒と向き合う時間の確保については、学校現場の声に耳を傾け「子どもと向き合う環境づくりに関する検証会議」等で検討し、実現を図ってきたい。また、教員のマインド形成については、各種教員研修の支援教育推進のテーマとして取り上げ、教員の子どもへの支援的な関わり方について周知を図っていく。

No. 13-②	事業名	②相談教室運営事業
----------	-----	-----------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題3:いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決	不登校(注3)の児童生徒が通室する相談教室(注34)を市内5カ所で運営し、不登校状態にある児童生徒の支援を推進します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(2):支援教育(注7)の充実	
担当課	支援教育課	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
相談教室	計画	7教室運営	7教室運営	7教室運営	7教室運営
	実績	7教室運営	—	—	—
相談教室担任、指導員	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
相談教室カウンセラー	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p>○市内5施設7教室の相談教室で、学校との連携による有効な登校支援を進めることができた。</p> <p>○相談教室を西地区・武山相談教室が軌道に乗り、計5施設7教室の相談教室で学校との連携による有効な登校支援を進めることができた。</p> <p>○各相談教室に担任1名と指導員2名(汐入、公郷、久里浜)又は4名(ゆうゆう坂本、武山)配置した。</p> <p>○相談教室カウンセラーが各教室を巡回し、子どもの状況の見立てを行って担任や指導員に指導・助言を行った。児童の個別の支援ファイルを作成して、一人ひとりのニーズに合った支援を展開することができた。</p> <p>○相談教室担任や指導員の研修を年間10回行って資質の向上を図り、指導に生かすことができた。</p>
--

### 5. 課題

<p>○依然として、国・県と比較すると、出現率は高い状態にあり、継続して事業を遂行する必要がある。また事後対応だけでなく、不登校の未然防止・早期対応の重要性についてさらに強く発信し具体の対応が必要である。</p> <p>○相談教室における学習教材を充実させたり「集団活動」をカリキュラム化したりして、指導内容の充実をさらに図る必要がある。</p> <p>○相談教室につながっていない児童・生徒をつなげていくための方策が必要である。</p>
---

### 6. 課題に対する今後の改善策

<p>○毎月の長欠調査をもとに、学校と教育委員会が連携を密に行い、不登校の早期の段階での対応を行う。</p> <p>○相談教室連絡会においてカリキュラムについて協議を行い、指導内容を充実させる。</p> <p>○相談教室担任や指導員の研修を充実させ、一人ひとりの資質向上に努める。</p>
--

### ※学識経験者の意見等

○「相談教室につながっていない児童・生徒」がどれほどの数になるのか、その実態把握が必要である。また「つながることができた」方策の具体的事例を集めて、各学校で共有していくと一定の効果があるものとする。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○学校と教育委員会が連携を密に行い、不登校の状態にある児童生徒の実態把握をさらにすすめ、相談教室につながっていない児童生徒を早期につなぐ体制を構築するとともに、不登校相談会等で該当の児童生徒やその保護者に対し、「相談教室」について、直接周知を行っていく。



No. 13-③	事業名	③いじめ対策事業
----------	-----	----------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題3:いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決	「いじめ問題」に関して、子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応する支援教育(注7)の視点でシステム作りを進めます。特に学校での児童生徒の相談窓口の設置、カウンセリングなどを中心に、いじめ暴力等の問題行動の未然防止、早期発見、早期対応を目指します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(2):支援教育(注7)の充実	
担当課	支援教育課	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校スクールカウンセラー(注9)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
中学校スクールカウンセラー	計画	配置(県費)	配置(県費)	配置(県費)	配置(県費)
	実績	配置(県費)	—	—	—
高等学校スクールカウンセラー	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
スクールソーシャルワーカー(注23)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p>○小学校スクールカウンセラーを4校に週1回配置し、学校の教育相談体制を構築した。</p> <p>○中学校スクールカウンセラー(県費)を23校に週1回(重点校は週2回)配置し、相談員と連携した教育相談体制を構築した。</p> <p>○高等学校スクールカウンセラーを全日制・定時制にそれぞれ週2回配置した。</p> <p>○スクールソーシャルワーカーを市内小学校3校を拠点に配置し、そのほかの学校には要請に応じて派遣をした。他機関連携が必要な重篤なケースに対し、福祉的なスキル・ノウハウを生かした対応が可能となり、サポートチーム会議の開催等、機能的な支援体制を構築できた。</p>
---

### 5. 課題

<p>○小学校スクールカウンセラーが配置できていない42校については、中学校スクールカウンセラーが学区の小学校も担当して巡回訪問を行っている。しかし小学校を訪問できるのは月に1回程度であり、いじめや不登校対策や学校の教育相談体制づくりに十分に対応できていない現状がある。</p> <p>○スクールソーシャルワーカーの派遣時間数が限られているため、市内の全ての学校のケースに対応することができていない。</p>
--

## 6. 課題に対する今後の改善策

○問題行動等の調査やスクールカウンセラーの相談実績をもとに、いじめや不登校の件数の多い学校や、小学校数の多い中学校区に小学校スクールカウンセラーの配置を進めていきたい。  
○市内全域のスクールソーシャルワーカーのニーズを明確にして、スクールソーシャルワーカーの人数や配置時間数の増加を図っていきたい。

### ※学識経験者の意見等

○スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーをすべての学校に配置ないしは日常的に巡回できる体制の構築が急がれる。スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーが学校の教員との十分な連絡・連携体制がとれないままでは、大きな効果は期待できないことに留意されたい。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの配置については、国や県の動きと併せ小中学校全校配置ができることを目指した取組を継続して行っていく。

No. 13-④	事業名	④教育相談充実事業
----------	-----	-----------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題3:いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決	いじめや不登校等のほか、学校生活における不安や悩み等を解決するための相談を充実させます。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(2):支援教育(注7)の充実	
担当課	支援教育課	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
こどもの悩み相談ホットライン	計画	設置	設置	設置	設置
	実績	設置	—	—	—
相談員(臨床心理士等)	計画	—	配置	配置	配置
	実績	—	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

○子どもの悩み相談ホットラインを専用回線で設置し 月・水・金 9時～17時に電話相談員が対応した。相談件数は年間で60件。相談内容を丁寧に受け止めたり、学校と連携して対応したことで早期解決につながった。

### 5. 課題

○相談件数をさらに上げ、早期に対応して早い段階での解決を図ること。

### 6. 課題に対する今後の改善策

○児童・生徒や保護者向けチラシを配るタイミングを計り、確実に周知されるようにする。

### ※学識経験者の意見等

○子どもの悩み相談にあたる本事業は非常に必要性の高い価値ある取組である。専用回線の設置によるホットラインをより充実させて、いつでも子どもたちからのSOSに備え、あるいは些細なことでもすぐに相談に応じる体制を整えていかなければならない。今後は電話相談員の対応を月・水・金の週3日から週6～7日へ、9時～17時の受付時間を子どもたちの当校時間(部活動時間を含む)でない時間帯を考慮して、せめて8時～21時ごろまで拡張していくべきであろう。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○27年度に、教育相談の窓口を支援教育課に開設し、ホットラインは教育相談の電話相談と位置付けた。27年度の電話相談は引き続き月・水・金の9時～17時の対応のみであるが、来所相談の受付を月～金行っているため、土日以外は毎日電話を受けられる状態になった。電話相談の件数が増加し、来所相談の件数も当初予想をはるかに上回っている状況である。  
○ご指摘の通り、相談事業は非常に必要性の高い取組であるので、将来的には時間の拡張も考えていきたい。28年度は月～金、現在の時間帯でホットラインとして対応できるようにする予定である。現在、来所相談の希望が多く、対応が追い付いていない状況であるので、来所相談が迅速に進められるよう人員や相談場所等の体制を充実させていきたい。

No. 14	事業名	人材育成推進支援
--------	-----	----------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題4:学校の教育力向上	横須賀市教職員人材育成プランに基づき、集合研修、校内研修、自己啓発などを通して、学び続ける教師の育成を目指します。また、研修の場の充実、学校を訪問しての研修など総合的な指導・助言を図ります。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標2:学校の組織力や教職員の力を高めます	
関連施策	施策(8):学校における校内研究・研修への支援の充実	
担当課	教育研究所	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
訪問研修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

○校外研修においては、それぞれの時期に応じて、自己を振り返り、教育公務員としての職務遂行能力、専門的な指導力、そして学校運営に参画する能力が身に付いているか、キャリアステージに応じた研修内容を構築した。

○校内における人材育成を活性化するために、ペア、グループを組み、研究授業を行った。教員同士がお互いに授業を見合うことで、経験豊かな教員や専門性が高い教員の教育技術、教科の専門性が経験年数の少ない教員に伝わり、授業力の向上につながっている。経験の浅い教員が経験豊富な教員に学ぶ機会となり、ベテラン教員も逆に刺激を受けている効果があった。

○また、要請があった学校からは訪問支援研修を実施した。主に授業研究や「課題解決の演習手法を用いた研修の場づくり」を提供し、ワークショップ型の研究協議会の進行役を務めたり、研究推進委員会での協議の支援に入った。

### 5. 課題

○経験豊富な教員の大量退職と若手の大量採用という状況を踏まえ、人材育成の視点からグループライダーとしての総括教諭または、ミドルリーダー(中堅教員)の意識を高める必要がある。

### 6. 課題に対する今後の改善策

○経験の浅い総括教諭が増加したことにより、経験豊かな総括教諭よりグループ会議の進め方や若手の人材育成についての研修の場を設定する。

○また、中堅教員を対象にミドルリーダーとしての意識を高め、具体的な学校運営の方策についての研修を実施する。

### ※学識経験者の意見等

○経験豊富な教員の大量退職と若手の大量採用という状況に対応する学校チーム力、同僚性の構築を図るうえでの校内授業研究が欠かせない。各校においては、すでに鋭意授業研究への積極的な取組をみせているが、教師全員が年間1回以上の研究授業を行い、複数の教師同士で省察しあい、授業改善に努めるというという体制が整っている学校はまだ少ない。校務事務や部活動等に要する時間を精選し、授業研究・教材開発等に充てる時間を増やす業務改善を進めながら、授業の実践とその改善に努めることが教師の主たる仕事になっていくようにしなければならない。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○今後も「子どもの学力向上をめざした授業づくり」を中心に、研修講座の構築、訪問支援研修の充実を行っていく。特に各校の研究授業においては、事前研修、事後研修を充実し、課題を明確にして、授業実践を行い教員の協働性を生かしながら省察を行っていく授業研究サイクルを確立させたい。また、さらなる校務事務、行事、部活動に要する時間の精選を行い、業務改善を行いつつ、本務である授業の実践と改善に努めていきたい。

### ※備考(補足説明・用語解説など)

ワークショップ型研究協議会

研究授業後に行う協議会において、発言を促し、話し合いを活性化させ、参加者全員が議論に参加する形態の協議会。参加者一人ひとりの発言の機会が増えるだけでなく、参加者が話し合いの成果を、各自の授業を見直すきっかけにすることができる。また、お互いの意見を聞き合い、話し合うことで、教職員全体の協働性が向上し、組織としての学校の教育力を高めるという効果がある。

No. 15	事業名	子どもと向き合う環境づくりの推進
--------	-----	------------------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題4:学校の教育力向上	子どもと向き合う時間を確保するために、事務的な業務の効率化を図る手立てを講ずるなど、学校と教育委員会が一体となって取り組むための方策について検討会議などにおいて検討し、教員が子どもと向き合う環境づくりに取り組みます。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標2:学校の組織力や教職員の力を高めます	
関連施策	施策(9):教員が子どもと向き合う環境づくりの推進	
担当課	教育政策担当	

### 2. 事業の概要

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
子どもと向き合う環境づくりに向けての検討会議など	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	未開催	—	—	—
子どもと向き合う環境づくりに向けた方策の実施	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

(計画と実績が異なる場合の理由)  
平成24・25年度に開催した検討会議報告書にある具体的な方策の実施を中心に取り組んだため、新たな検討会議の開催を見送った。

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p><b>【実施内容】</b> ○平成23年度「子どもと向き合う環境づくり検討委員会」において、環境づくりに向けた方策について提言としてまとめた。提言の方策を具体化するために、平成24年度には「校内マネジメントモデル推進委員会」及び「学校事務業務改善推進委員会」を、平成25年度には「人的支援運用改善検討会議」及び「授業日数に関する検討会議」を開催して、具体的な取組について検討し、具体策等を報告書にまとめた。平成26年度は4つの報告書をもとに、各課や各校で方策の実施に取り組んだ。</p> <p>1 「校内マネジメントモデル推進委員会」からの報告書をもとに、総括教諭アンケートの実施、校長会と教頭会との連携、学校で行われるグループ会議や職員会議等に参加、学校組織マネジメント研究会の開催等を通して、学校組織・学校運営に係る実態把握を行った。この取組には総括教諭が重要な役割を果たすので、実態把握をもとに、教育研究所と連携を図り、総括教諭研修において、校内マネジメントモデルや総括教諭の役割について、研修の充実を図った。</p> <p>2 「学校事務業務改善推進委員会」の報告書をもとに、教育委員会各課において取組を進めた。学校内の事務業務に関することとしては、就学援助関係通知を郵送にしたり、医療費の申請業務のオンラインシステムの導入について周知し、導入率の向上を図ったり、共済給付金の直接的な振り込みの試行をしたり、学校開放担当者説明会への参加を任意としたりした。また、教育委員会からの文書等の処理及び公文書管理については、回答締め切り期限を原則として定めたり、配付文書についての工夫を行ったり、電子メールのルールを徹底したり、文書のファイリング方法についての周知を図るなど行った。</p> <p>3 「人的支援運用改善検討会議」の報告書をもとに、各校に配置されている支援職員への研修内容の改善を図ったり、支援職員の効果的な活用のための研修をコーディネーターや児童生徒指導担当に行ったりした。また、学力向上のためのサポートティーチャーについては、全校に配置し、週あたりの時間数についても増加させた。</p> <p>4 「授業日数に関する検討会議」の報告書を基に、長期休業日等を活用した授業日の増加(5日以上)を全校で実施するとともに、学校訪問等を通じて、各校の教育課程の編成について、指導助言を行った。</p>
--

#### 【効果】

○教育委員会各課と各学校において、報告書の具体的方策についての取組が進められた。

1 「校内マネジメントモデル推進委員会」の取組において、グループ会議が機能することにより、グループ内での検討が十分なされ、職員会議での協議事項が削減されるとともに論点を絞った協議となり、効率かつ適切な意思形成が図れるようになってきている。また、グループ内での検討が十分にできることで、経験年数の少ない教職員が安心してその業務にあたることができるとともに、OJTの推進にもつながってきている。

2 「学校事務業務改善推進委員会」の取組においては、教育委員会各課で事務業務の見直しが行われ、各学校へ送付された文書等の整理、調査・照会について改善を図った。このことにより、学校における事務負担は多少軽減されている。

3 「人的支援運用改善検討会議」については、支援職員の配置が人数、時間ともに増加したことを受けて、各校できめ細やかな指導がより可能になってきている。

4 「授業日数に関する検討会議」の報告書に基づき、各校が授業日数を増加させ、創意工夫ある教育課程の編成が行われ始めている。

### 5. 課題

○提言で示された具体的な各課題について、その進行管理を行う責任の所在や時期、手順、取組の優先順位等が明確になっていない。

○4つの報告書の内容に基づき取組を進めているが、子どもたちのためのよりよい教育環境づくりがどこまで進んでいるのかという検証ができていない。

### 6. 課題に対する今後の改善策

○上記の課題に対し、検証会議を開催し、これまでの取組について検証するとともに、今後の方策について検討する。

#### ※学識経験者の意見等

○校内マネジメントモデル推進に関わる諸改善を今後積極的に進めていくべきである。課題に取り上げられている「検証」作業が重要である。具体的に「止める、減らす業務」は何かを明らかにして、その後特に支障はないか、どのような効果が見られたか、その具体的な変化を明確にすることが必要である。

#### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○校内マネジメントモデルの推進については、教育委員会がリーダーシップを発揮し、各学校がよりよい組織運営ができるような支援を行っていきたい。

○提言で示された具体的な各課題については、検証会議の結果をもとに、優先順位を定め、今後の取組を進めていく。

No. 16	事業名	子ども読書活動推進事業
--------	-----	-------------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題5: 社会教育施設による学習支援の推進	子どもたちを取り巻く家庭・地域・学校などと連携し、子どもの読書活動を推進するためのさまざまな事業を実施します。
掲載編	社会教育編	
関連目標	目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます	
関連施策	施策(12): 図書館活動の充実	
担当課	中央図書館・児童図書館	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
家庭・地域における子どもの読書活動の推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校への資料の提供および情報発信	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
『子ども読書の日』等に合わせたの行事開催やPR活動	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
児童図書館の環境整備	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
(仮称)子ども読書活動推進計画策定検討委員会	計画	—	—	検討準備	第3次計画策定
	実績	—	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p><b>【実施内容】</b></p> <p>○家庭・地域における子どもの読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタートバック配付数(2,545件)</li> <li>・保育園・幼稚園・小学生・中学生向けブックリスト配付数(18,961冊)</li> <li>・10地域文庫(有志の方が町内会館等で、地域の人に貸出をしている団体)への配本。(4,497冊)</li> <li>・寄贈本やリサイクル本の児童書を、希望する団体に配付。(361冊)</li> </ul> <p>○学校への資料の提供および情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横須賀市学校図書館研究会会議で、学校における市立図書館資料の活用等を図るため、「調べ学習」のための市立図書館利用手引の配付及び説明実施。</li> <li>・横須賀市教育情報センターイントラネットサイト上で年4回おすすめ本の紹介や行事の情報提供を実施。</li> <li>・学校図書館担当者会議で、学校特別貸出の説明及び図書館の各種行事の紹介を実施。</li> </ul> <p>○『子ども読書の日』等に合わせたの行事開催やPR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども読書の日関連行事</li> <li>・子ども読書の日イベント「マジックショー」(中央・北・南)、企画展示「昔の絵本の展示」(中央)、人形劇「ぶんぶくちやがま」・おはなし会とブサルタコンサート・手づくり紙芝居教室(児童)、「子ども読書の日」0・1・2歳児向けおはなし会(児童・北・南)、「おはなしを三角バイオリンとともに」・「吹奏楽の魅力」・琴の音楽会「日本の風景」(北)で実施。</li> <li>・各館で特色を活かし、「高校生向け講座」(中央)、「創立40周年記念行事(わらべうた・手づくり紙芝居発表会・開館当時の語り手によるおはなし会)」(児童)、「司書のみごのおはなし会」(北)、「夏休み宿題フェスティバル」(南)等の子ども向け行事開催。</li> <li>・キャラクター“ぶっくん”(児童)や“みなみちゃん”(南)を活用し、図書館に親しみがもてるよう工夫し、PR活動を実施。</li> </ul> <p>○児童図書館の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居ケースを五十音順で色分けし、書架移動や配架方法の変更、絵本のフェイスアウト展示を増やし、子どもたち自らが手に取りやすくできるようにした。</li> <li>・柱や壁のクロスがはがれた部分に、手づくりの飾りクロス(シール)をつくり修復した。</li> </ul>
--



### 【効果】

- 子どもと本をつなぐ活動をしている大人向けの『児童サービス講座』や『新刊ブックトーク』（児童図書館実施）を平日から土・日開催に変更したことで、「参加しやすくなってよかった。」との感想をいただいた。
- 紙芝居を2階学習室に移動したことで、「イスに座ってゆっくり選ぶことができる。」「机に並べて内容を吟味できる。」等の声をいただいた。（児童）
- 児童図書館で最新版小・中学校教科書の開架・貸出を実施し、好評を得た。（小学校教科書19冊・中学校教科書13冊）

## 5. 課題

- 各種イベントや目標を上回る企画展示により、図書館の魅力や読書の楽しさ等をアピールできたが、児童書の貸出冊数増にはつながらなかった。
- 調べ学習や学校における読書活動の推進に、市立図書館資料の活用をさらに促進していく。

## 6. 課題に対する今後の改善策

- 学校連携については、横須賀市教育情報センターイントラネットサイトでの情報提供をさらに充実させる等、現行体制・予算内でできることを継続する。児童サービス講座等の連絡を学校等に積極的に行う。
- イベントや企画展示、映画会を実施した際には、関連資料をコーナー展示するなど、さらに工夫していく。
- 来館者に対し、フロアワークの中で自然に声をかけ、絵本などの貸出やイベント参加につなげるよう取り組んでいく。

## ※学識経験者の意見等

- 多様な事業を展開し、それなりの成果があがっている。それらを根拠づけるために、全国的な位置付けから評価することや図書館統計（例えば、「日本の図書館（日本図書館協会刊）」）から把握することが重要である。
- 家庭・地域における子どもの読書活動はもとより、学校教育における図書館活用に連動する授業・活動の工夫がいつそう図られるよう期待したい。重点課題No.1で指摘した授業改革との連動による読書活動、図書館活用の促進が大きな課題である。

## ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- 今後は、他都市や図書館統計などを参考にし、評価と今後のサービス内容の検討をしていきたい。
- 学校図書館には「読書センターの機能」と「学習情報センター」としての機能が求められており、本市では26年度から学校図書館サポーターを市内小中学校に派遣し、1カ月ごと3校ずつ図書館の整備を行っている。整備の際には教職員にも作業に協力いただくことで、その後の教員の授業の図書館利用の促進が図られることをねらっている。また各学校の児童生徒と共に作業を行うことも取り入れ、その後の図書館の利用が増えるように努めている。学校図書館サポーターを派遣することで2つのセンター機能が整うとともに、多くの教職員、児童生徒に図書館に関わりを持たせ、今まで以上に学校図書館の利用が進む取組にしている。また3年前から学校図書館コーディネーター（いわゆる学校司書）を小中学校に配置し、今年度は小学校12校に週1.5日勤務し学校図書館の活用寄予している。継続して派遣している学校では、子どもたちの本の貸し出し数、来館数、先生方の授業での活用時間が前年度と比較して2～3倍になっており、毎年確実に成果を上げている。毎年行っている「読書指導研修講座」には今年度も100名を超える教員が参加する予定である。そして3年前から長浦小学校に「学校図書館」の研究を委託しており、今年度は研究発表会を秋に行うことで、学校図書館の活用についてさらに啓発していき図書館の使用や読書に関する充実を図っていきたい。

## ※備考(補足説明・用語解説など)

- 「フロアワーク」  
「カウンターワーク」と区別して使われ、フロアでの書架整理等を指し、利用者（子どもたち）が探している図書の場合などについて、図書館員に気軽に声をかけることができる体制をとること。

No. 17	事業名	子ども向け博物館教育普及活動の推進
--------	-----	-------------------

### 1. 基礎情報

### 2. 事業の概要

対応する重点課題	重点課題5: 社会教育施設による学習支援の推進	学校と連携または協力して、児童生徒の学習の場を提供します。
掲載編	社会教育編	
関連目標	目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます	
関連施策	施策(13): 博物館活動の充実	
担当課	博物館運営課	

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校教育で利用できる企画を開発し、教職員との共同研究を推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
「昔のくらし」や「移動博物館」など、学校教育に役立つ展示・企画	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

<p>【自然部門】</p> <p>○小・中学生向け展示教材キット「よこすかの自然」を作成し、「よこすかネイチャーカード」は各学校に1部ずつ配布、「標本セット」及び「スライドショー」は希望校に貸し出した。</p> <p>○学芸員による出前授業等による授業支援の実施などにより理科に対する理解度を深めた。</p> <p>【人文部門】</p> <p>○来館による学習を希望する学校に対し、学習室内に古代の土器や昔の道具などを展示し、資料に直接触れたり石器で紙を切るなどの体験学習を実施するとともに、質問や疑問に学芸員が答えた。</p> <p>○学校内での使用を希望する場合は、資料を貸し出した。</p> <p>○資料に直接触れることで、歴史に対する興味と理解度を深めることができた。</p>
--

### 5. 課題

<p>【自然部門】</p> <p>○展示教材セットや授業支援の利用を更に促進する。</p> <p>【人文部門】</p> <p>○授業支援内容の充実と、利用希望校を拡大する。</p>
--

## 6. 課題に対する今後の改善策

### 【自然部門】

○展示教材セットや授業支援について、博物館ホームページ等での広報のほか、市内小中学校への案内文の配付や各種教員研修で周知する。

### 【人文部門】

○希望する支援内容の聞き取りや、学習目的に則した支援内容の提案など、学校と博物館との連携を一層強化する。

## ※学識経験者の意見等

○学校との関係はそれなりの成果が示されている。

○さらに多数の子ども向け体験機会を準備することが必要である。

○博物館資料の理解を深めるために、図書館のレファレンス、資料紹介などによるサービスが重要であり、博物館と図書館との連携をさらに推進すべきである。

○博物館所蔵資料の情報データがあれば、教育活動に活用できるように教育関係機関、施設に提供することが求められる。

○ここでも博物館活用に連動していくような授業改革が必要である。今後アクティブ・ラーニングに象徴される探究型の学び、自律的で協働的な学習の展開は、よい機会を与えてくれるものとなる。問題は学校の授業がそうした変革の動きを具現化するかどうかである。

## ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○夏休みなどを中心に、ワークショップなどの体験参加型の行事を充実させる。

○展示内容に関する情報や刊行物を図書館に提供することで連携を進める。

○博物館で学芸員がおこなう野外教育活動の要素を学校教育にも活用できるよう、教員研修で野外観察の手法について、講師を務めている。

○所蔵資料の一部の情報データは館のホームページで紹介しているが、更に充実させ、教育活動の内容に適した資料や、支援内容の情報等を積極的に教育機関等へ提供する。またデータの一部は、国立科学博物館が運営するデータベース「サイエンスミュージアムネット」上でも公開している。

No. 18	事業名	美術館展覧会の充実
--------	-----	-----------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題5:社会教育施設による学習支援の推進
掲載編	社会教育編
関連目標	目標5:図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(14):美術館活動の充実
担当課	美術館運営課

### 2. 事業の概要

国内外の近代・現代美術を中心とした展覧会、多数の所蔵作品の紹介、および集客効果の高い企画展など、幅広いジャンルを対象とした展覧会を開催することで、多くの人々に優れた美術作品と出会い、親しみ、感動を得る場を提供します。

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
企画展	計画	年6回開催	年6回開催	年6回開催	年6回開催
	実績	年6回開催	—	—	—
所蔵品展および谷内六郎館収蔵作品の展示	計画	年4回開催	年4回開催	年4回開催	年4回開催
	実績	年4回開催	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

○企画展では、ヨーロッパと日本の工芸品を扱ったもの、親子で楽しめるもの、日本の近現代美術を中心としたものなど、幅広い美術の領域から多様なテーマの展覧会を開催し、多くの方に優れた美術にふれる機会を提供することができた。また、近現代美術を扱う当館の性格を、開館から様々な企画展やコレクションで紹介しており、平成26年度の状況をみると、これが広く認知されてきたこともあり、個々の展覧会によって対象や時代が異なるものであっても、それぞれで観覧者の満足度は上昇した。

○所蔵品展は、年4回開催し、所蔵する作品を紹介した。また、会期ごとに特色を持たせるため、コレクションの展示とともに、若手作家や本市ゆかりの作家などを対象とした特集展示も併せて行い、所蔵品展の魅力を高めることができた。

○なお、観覧者数は、開館年度を除き最も多く、目標である年間観覧者数11万人を達成することができた。

### 5. 課題

○夏季に開催した企画展は、特に夏休みの子どもたちをはじめ親子で楽しめる企画展としたところ、予想以上の観覧者を迎えることができた半面、現代美術のさわれる(想像の動物の着ぐるみのような)作品は、日々破損するため、作家はもとより学芸員も修理対応をするなど予定外の作業に追われたり、また展示作品の数を制限するなどの影響があった。

## 6. 課題に対する今後の改善策

○今後は、展覧会の内容から考えられる課題を今一度しっかり整理するなどの対応を考えていかなければならない。

### ※学識経験者の意見等

○所蔵作品の価値や保存の重要性を知らせ、広く市民に美術を理解する機会となるよう、多くの所蔵作品展を開催する必要がある。

○市民所蔵(コレクター等)の美術品の把握や活用することも重要である。市民の協力も得られ、美術館を支援する市民も増えることになる。

○美術館利用数の伸びはやはり企画展の内容に大きく左右される。そうした中で、目標である年間観覧者数11万人を達成することができたことの意義は大きい。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○所蔵品展の実施状況は、年4回開催し、展示日数は年間約320日となっている。作品保存や展示替え経費の観点から、現状の展示日数および展示替え頻度が上限と考える。今後も、年4回開催のなかでの魅力あるテーマ設定により、広く市民に美術を理解されるよう周知を行っていく。

○地域ゆかりの作家を取り上げた展覧会の開催などをとおして、個人所蔵の作品についても積極的に情報収集を行っていく。

○企画展については、今後も、質の高い美術作品を紹介する展覧会、親子で美術館を楽しむことができる展覧会など、充実した内容とバラエティに富んだテーマの展覧会をバランスよく行い、社会教育施設としての役割を十分に果たしていくことができるよう努力したい。

No. 19	事業名	美術館教育普及活動の推進
--------	-----	--------------

### 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題5: 社会教育施設による学習支援の推進
掲載編	社会教育編
関連目標	目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(14): 美術館活動の充実
担当課	美術館運営課

### 2. 事業の概要

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるように美術館活動基本方針の5つの柱「知的好奇心の育成と充実」「福祉活動の展開」「学校との連携」「市民との協働」「子どもたちへの美術館教育」に基づく教育普及活動を行います。特に、学校等と連携して子どもたちの鑑賞教育を中心とした教育普及事業を充実させます。

### 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
美術館活動の基本方針に基づくワークショップ、講演会など	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校との連携による教育普及事業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

### 4. 実施内容(実績)および効果

○美術館活動の基本方針である5つの柱に基づき各事業を実施した。事前申込制の行事は概ね定員より多くの応募があり、さまざまなプログラムに多くの方が参加され好評であった。

柱1「知的好奇心の育成と充実」では、企画展をより深く理解するための講演会や学芸員の作品解説(ギャラリートーク)、ワークショップを。また真鍮のピンバッジ作りや紙を使ったアクセサリーボックス作りなど、大人が創作体験するワークショップを行った。

柱2「福祉活動の充実」では、例年通り視覚障害者の美術鑑賞について海外の美術館での活動事例を紹介する「福祉講演会」、障害者と健常者がともに美術に親しむことのできるワークショップやパフォーマンスを開催したほか、主に発達障害の子どもたちが創作体験をするワークショップをテーマを変え毎月開催した。

柱3「学校との連携」では、市立小学校6年生全員が来館する「小学生美術鑑賞会」、夏休みの宿題にも対応した「中学生のための美術鑑賞教室」、「中学生キュレーター」と題し、作家と共に作品を鑑賞、対話しながら作品解説を作成。また前年度製作した教材「アートカード」の普及を目指し、教員を対象とした「鑑賞教育プログラムアートカード活用講座」を開催した。

柱4「市民との協働」では、美術館ボランティアの活動を支援し、恒例となっている年3回(ゴールデンウィーク、夏休み、クリスマス)にそれぞれ主に子どもたちが気軽に参加できる創作イベントを開催したほか、毎週日曜日にボランティアが所蔵作品の解説を行うギャラリートークの研修を行った。

柱5「子どもたちへの美術館教育」では、企画展ごとの「親子ギャラリーツアー」、未就学児を対象としたワークショップ、親子ワークショップ、夏の野外に大きなスクリーンをたて、チェコのアニメーション作品の上映会なども開催した。

### 5. 課題

○子どもたちの鑑賞教育の質を高めるツールとなる「アートカード」について、小学6年生全員が美術館を訪れる鑑賞会の事前授業では、9割近くの学級が活用していることを踏まえ、これにあわせて来館プログラムを用意していく必要がある。

○また、今後は学校での鑑賞教育の機会も増加することが見込まれ、こうした状況に対応するため、発達段階や各学年の指導事項と合わせた鑑賞教育の研究を進める必要がある。

## 6. 課題に対する今後の改善策

○鑑賞教育の充実のため、教員と組織する「地域とはぐくむ子どものための鑑賞教育基盤整備事業実行委員会」を継続し、アートカードの普及、鑑賞教育の新たなプログラムの作成、鑑賞教育の研究を進める。

### ※学識経験者の意見等

○横須賀市に何が所蔵されているか知らない市民が多数いると推測されるため、所蔵する作品の目録などを市民に紹介することが必要であり、今後とも地道な継続的努力が求められる。  
○ワークショップ、アートカード、講演会など教育普及活動について、それなりの成果をあげている。これからも、この成果を継続してさらにより成果を期待したい。  
○そのために、理論的研究、調査研究、制度的研究など、鑑賞教育の実際的な研究を進めて、多様な課題を解決する方策を探ることが求められる。  
○市民の美術愛好家、コレクターなどを活用することなども必要である。  
○美術館の解説ボランティアとして、作品を説明できる人材を活用することも必要である。例えば、コレクターなど美術品についてかなり詳しい人もいるため、市民の中に人材が存在すると思われる。  
○課題に掲げられた「アートカード」を利用する小学6年生の鑑賞会事前授業で、これにあわせた来館プログラムを用意すること、発達段階や各学年の指導事項と合わせた鑑賞教育の研究が進むことを期待したい。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○所蔵品展は、年間を通じて開催しており(年4回の開催、展示日数は年間約320日)、今後も、広報よこすか紙面での告知、美術館ホームページでの所蔵品紹介を継続して行っていく。  
また、新聞等に美術館紹介の記事等が掲載される場合、代表的な所蔵作品や展示中の作品が紹介されるようつとめているほか、所蔵品展図録改訂版にあわせ掲載作品を増やすなどとしている。  
○今後も一層の教育普及活動の充実を目指し取り組んでいく。  
○平成24年度から行っている教員と合同の鑑賞教育に関する勉強会を今後も、定期的・継続的に行っていく。  
○地域ゆかりの作家を取り上げた展覧会の開催などをとおして、個人所蔵の作品についても積極的に情報収集を行っていく。  
○開館時から活動を行っている美術館ボランティアは、小学生美術鑑賞会の対応やイベント企画など、さまざまな分野に広がっている。中でも作品解説を行うボランティアは、一定の研修を経たのち、所蔵品展ギャラリートークを毎週日曜日に行っている。美術館としては、今後も隔年で作品解説を行うボランティアを募集し、研修を実施するなど、充実につとめていきたい。  
○平成24年度から行っている教員と合同の鑑賞教育に関する勉強会を今後も、定期的・継続的に行っていく。

## ◆ 目標・施策に基づく関連事業

### ○ 点検・評価報告書の見方（関連事業）

- 2-1 目標・施策に基づく関連事業（学校教育編）
- 2-2 目標・施策に基づく関連事業（社会教育編）
- 2-3 目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編）



## ○点検・評価報告書の見方(関連事業)

教育振興基本計画は全体を学校教育編・社会教育編・スポーツ編と3編に分かれており、各編ごとに区切って関連する事業すべてを点検・評価の対象としています。

### 2-3 目標・施策に基づく関連事業(スポーツ編)

スポーツ編の目標・施策に基づく関連事業について各事業の行動計画に対する実績を測ります。

#### 目標3: 競技者の活動を支援するとともにスポーツ愛好者の裾野を拡大します

各目標の実現に向けての施策ごとに関連する事業を並べています。

各編ごとに、第2期実施計画期間である4年間(平成26年度～平成29年度)の目標を定めています。

施策(9)ホームタウンチームなどとの連携強化

事業名と担当課を記載しています。「○○事業」という表記の他に「○○の推進」や「○○の検討」などの表記をしている場合もあります。また、重点課題に対応する事業については、※にその旨を記載しています。

#### 【関連事業】

事業名	よこすかドリーム・スポーツプロジェクト推進事業【スポーツ課】				
概要	本市のホームタウンチームである、横浜DeNAベイスターズ、横浜F・マリノス、東芝ブレイブサンダース神奈川などのトップレベルのスポーツ選手・コーチ達と直接授業で共に体を動かし触れ合うことで、子どもに夢と感動を与え、スポーツへの関心を高めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校訪問授業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
スポーツイベントへの参画	計画	依頼	依頼	依頼	依頼
	実績	依頼	—	—	—
(計画と実績が異なる場合の理由)					

平成26年度計画に対しての、平成26年度の実績を記入しています。(実績と計画が異なる場合は、下記の枠にその理由を記載しています。)

外部の学識経験者からいただいたご意見を記載しています。

#### 【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】

○プロスポーツ選手の社会貢献として、学校や社会福祉施設を訪問して子どもに夢と感動を与えスポーツへの関心を高めている。トップレベルにある選手・コーチに直接触れ合うことは教育的効果も大きいと考える。

#### 【ご意見に対しての今後の方向性】

○本事業はチームや本市にとって大変有意義な部分が多い。今後も引き続き事業を継続できるよう各チームに働きかけていきたい。

外部の学識経験者からいただいたご意見に対する担当各課の今後の方向性を記載しています。

## 2-1 目標・施策に基づく関連事業（学校教育編） における事業・行動計画実施状況

目標・施策に基づく関連事業（学校教育編）と、その事業を実施するための行動計画について、平成26年度の実施状況は以下のとおりです。

（学校教育編）

	総数	26年度において計画どおり実施した数
関連事業	66	62
行動計画	165	161

## 2-1 目標・施策に基づく関連事業(学校教育編)

学校教育編の目標・施策に基づく関連事業について各事業の行動計画に対する実績を測ります。

### 目標1:子どもの学びを豊かにします

施策(1)教育活動の充実

#### 【関連事業】

事業名	<b>学力向上事業【教育指導課】【教育研究所】【教育政策担当(教育情報システム室)】</b>
概要	「横須賀市学力向上推進プラン」に基づき、学力向上の取り組みの充実を図ります。また、教員の授業力向上や人材育成を進めるための学校組織の活性化を推進します。
備考	※重点課題に対応する事業 27～29ページ参照

事業名	<b>キャリア教育(注14)推進事業【教育指導課】</b>				
概要	児童生徒一人ひとりに、望ましい職業観・勤労観および職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を身に付けさせるために、学校と地域および学校間で円滑な接続を図り、キャリア教育を推進します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
横須賀市キャリア教育推進協議会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
よこすかキャリア教育推進事業事務局(横須賀商工会議所内)	計画	設置	設置	設置	設置
	実績	設置	—	—	—
キャリア教育担当者会(総括教諭等学校運営推進者連絡会)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
各校のキャリア教育情報のイントラネットへの掲載	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
小学生向け体験型教育支援プログラム	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>防災教育推進事業【教育指導課】</b>				
概要	東日本大震災の経験から、自分および他者の危険予測・危険回避の能力を育成するため防災教育の充実を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
防災教育指導資料集の作成・配布	計画	作成・配布	—	—	—
	実績	作成・配布	—	—	—
防災教育指導資料集の活用・実践	計画	—	実施	実施	実施
	実績	—	—	—	—
防災教育に関する研修会	計画	年2回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催
	実績	年2回開催	—	—	—
防災教育推進モデル校	計画	設置	設置	設置	設置
	実績	設置	—	—	—

事業名	<b>子ども読書活動推進事業【教育指導課】</b>
概要	児童生徒の読書への関心や主体的な学習の力を高めるために、学校図書館機能の充実を目指し、学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等の配置や蔵書情報のデータベース化、教職員の研修の充実、市立図書館との連携を強化します。
備考	※重点課題に対応する事業 8・9ページ参照

事業名	<b>学校人権教育推進事業【教育指導課】</b>				
概要	人権教育の研修などの充実を図り、教員が人権尊重の理念について理解を深め、関係機関やNPO(注29)等と連携して、人権教育を推進します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人権教育研修講座	計画	年3回開催	年3回開催	年3回開催	年3回開催
	実績	年3回開催	—	—	—
人権教育指導者養成講座	計画	年3回開催	年3回開催	年3回開催	年3回開催
	実績	年3回開催	—	—	—
人権団体主催の研修会などへの参加	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>道徳教育推進事業【教育指導課】</b>				
概要	道徳教育の研修などの充実を図り、教員が道徳教育の指導上の諸問題を研究協議するなどしてその解明を図り、指導力を向上させることにより、道徳教育を推進します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
道徳教育連携推進講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
道徳教育担当者会 (総括教諭等学校運営推進者連絡会)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

**【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】**  
○「特別の教科 道徳」の実施に向けて、担当者会はもちろんのこと、授業にあたる全教師に対応した研修の準備、今後の計画に関する見通しが立てられるようにしてほしい。

**【ご意見に対しての今後の方向性】**  
○「特別の教科 道徳」の実施に向けては平成27年3月に学習指導要領も改訂され、今年度評価についての方向性も文部科学省から示される予定である。それを受けてまず平成28年1月に担当者会を開くとともに、30年度から全面実施となる小学校から、授業にあたる全教師に対応した研修等の準備を行っていきたい。まずは学校長への説明を行い、各学校が今後の見通しが立てられるようにしたい。

事業名	食教育(注15)の推進【学校保健課】				
概要	子どもたちが「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、生涯にわたって健全な心と身体を培っていけるよう、食教育を進めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
教職員研修会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
児童生徒、保護者、教職員の意識啓発	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	安全、安心な学校給食の提供と充実【学校保健課】				
概要	安全、安心でおいしい学校給食を安定的に提供し、児童生徒の心身の健全な発達と食生活の改善に資するため、学校給食にかかわる諸課題に取り組み、学校給食の充実を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
保護者へのアレルギー情報の提供などの対応	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校給食にかかわる各種研修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
地産地消の普及啓発	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校給食用食器の改善	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	(仮称)横須賀給食弁当の実施【学校保健課】				
概要	中学校で行っているパン・弁当の注文販売であるスクールランチ(注30)に、教育委員会の管理栄養士が小学校給食をアレンジした献立の弁当をとり入れます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
(仮称)横須賀給食弁当	計画	試行	実施	実施	実施
	実績	試行	—	—	—

事業名	喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教育の推進【学校保健課】				
概要	喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教室を開催し、薬物乱用などが心身の健康に及ぼす影響について、児童生徒の理解を深めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教室	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	教育課程研究会(注31)の実施【教育指導課】				
概要	各教育課程研究会を通して、教育課程(注11)の実施に伴う指導上の諸問題を研究協議し、その解明を図り、教員の指導力の向上に資するとともに、学校教育の改善および充実を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
幼稚園教育課程研究会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
小学校教育課程研究会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
中学校教育課程研究会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
高等学校教育課程研究会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】					
○小中一貫教育の市内全面実施に伴い、今後は一貫教育の視野から教育課程研究会を見直す、あるいは付加する必要があるのではないか。					
【ご意見に対しての今後の方向性】					
○これまで、小中連携を進めるにあたり、小・中学校教育課程研究会では、教職員は異校種への参加を進めてきた。その中で多くの教職員が異校種に訪問し、授業をもとに研究会を行うことができた。今後も小中一貫教育を意識しながら、進めていく。					

事業名	幼児教育充実事業【教育指導課】				
概要	市立幼稚園2園の「幼児教育センター的な役割」を強化し、その施設や機能を生かして子育て支援を充実させます。また、幼児期における教育課題に取り組んだ成果を市内に発信するとともに、療育相談センターなどと連携して障害のある子どもを受け入れる仕組みをつくり、市立幼稚園2園が「幼稚園教育のモデル的な役割」を担えるようにします。このような取組に加え、私立幼稚園、市立・私立保育所と連携して本市幼児教育の充実を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
子育て支援教室	計画	検討	検討	開催	開催
	実績	検討	—	—	—
公開保育・研究発表	計画	年2回実施	年2回実施	年2回実施	年2回実施
	実績	年2回実施	—	—	—
障害のある子どもの受け入れ	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
幼稚園教育課程研究会を活用した私立幼稚園、市立・私立保育所との連携	計画	実施	充実	充実	充実
	実績	実施	—	—	—
【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】					
○2園のセンター化が今後どのような具体的成果をあげていくか注目される。小中一貫教育との接続・連携という観点からして、さらに多様な保育所・私立幼稚園の保育の在り方を前提にして、どのようなモデルが提案できるか、困難な課題ではあるが非常に必要性の高い研究である。					
【ご意見に対しての今後の方向性】					
○市立幼稚園では、小学校との連携も含め多くの研究を進めてきた。その中で得られた成果を、市内の私立幼稚園や保育所に伝えていきたい。					

事業名	<b>横須賀総合高等学校教育改革事業【教育政策担当】</b>				
概要	開校（平成15年）より10年を迎えた市立横須賀総合高等学校の今後の在り方を検討し、教育改革を進め、横須賀唯一の市立高校として特色ある学校教育の充実を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
横須賀市立高等学校教育改革検討委員会	計画	開催	—	—	—
	実績	開催	—	—	—
答申の実現に向けた取り組み	計画	答申を受けて検討	検討・実施	検討・実施	検討・実施
	実績	答申を受けて検討	—	—	—

事業名	<b>教育施策調査研究事業【教育政策担当】</b>				
概要	教育の充実を目指して、教育の現状把握や教育課題の解決を図るための調査・研究を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
各種調査・研究	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

**【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】**  
 ○調査課題の厳選、学校等の教育現場への負担軽減につながるような配慮も検討課題としていただきたい。

**【ご意見に対しての今後の方向性】**  
 ○学校等の教育現場のニーズを捉えながら、調査課題を厳選して、取組をすすめていきたい。

事業名	<b>芸術鑑賞会の開催【教育指導課】</b>				
概要	児童がよこすか芸術劇場・横須賀美術館で、優れた演奏や作品を鑑賞する機会を設け、豊かな心を育てることを目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
オーケストラ鑑賞会(5年生)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
美術作品鑑賞会(6年生)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	<b>子どものための音楽会の開催【教育指導課】</b>				
概要	子どもがよこすか芸術劇場で、横須賀を主題とした芸術作品（組曲「横須賀」）に直接触れる機会を設けることにより、郷土を愛する心を育てます。また、吹奏楽部の合同バンドによる演奏や小中学生の作詞・作曲による作品の演奏を聴くことにより、文化活動への関心および意欲の向上を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
子どものための音楽会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	<b>児童生徒研究推進事業【教育研究所】</b>				
概要	小中理科研究会と連携し、児童生徒の自主的な研究を集めて発信することにより、児童生徒の探究心を向上させるとともに、子どもの言語活動の充実を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
研究集録	計画	発行	発行	発行	発行
	実績	発行	—	—	—



事業名	児童生徒指導行事事業【教育指導課】【支援教育課】				
概要	児童生徒の研究・作品などを発表する場を設けることにより、児童生徒一人一人の学習意欲、創作意欲の向上を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
児童生徒書写作品展	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
小学生創意くふう展	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
中学校吹奏楽発表会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
児童生徒造形作品展	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
中学生創造アイデアロボットコンテスト	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
中学校主張大会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
中学校演劇発表会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
読書感想画展	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
本を楽しもう展	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
ふれあい作品展	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
読書感想文コンクール	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
読書感想画コンクール	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校文集	計画	発行	発行	発行	発行
	実績	発行	—	—	—
作詞・作曲入選集	計画	発行	発行	発行	発行
	実績	発行	—	—	—
読書感想文集	計画	発行	発行	発行	発行
	実績	発行	—	—	—

事業名	文化部各種大会派遣事業【教育指導課】				
概要	全国・関東大会に市内中学生、高校生の文化部優秀部員を派遣することにより、生徒が身に付けた技量を発揮することを目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
全国・関東大会参加に係る支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>中学校文化部指導者派遣事業【教育指導課】</b>				
概要	専門の技術指導者を派遣し、生徒の技術習得を支援するとともに、顧問の負担軽減と部活動の活性化を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
技術指導者	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	派遣	—	—	—

事業名	<b>高等学校文化部育成事業【教育指導課】</b>				
概要	専門の技術指導者を派遣し、生徒の技術習得を支援するとともに、顧問の負担軽減と部活動の充実を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
技術指導者	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	派遣	—	—	—

事業名	<b>吹奏楽部活動奨励事業【教育指導課】</b>				
概要	中学校吹奏楽部の活動に必要な楽器の修理・更新、および指導力の向上をねらいとした実技研修会を開催することにより、吹奏楽部の活動の充実を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
楽器の修理・更新	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
実技研修会	計画	年3回開催	年3回開催	年3回開催	年3回開催
	実績	年3回開催	—	—	—

施策(2)支援教育(注7)の充実

**【関連事業】**

事業名	<b>支援教育(注7)推進事業【支援教育課】</b>	
概要	支援や配慮を必要とするすべての子どもの教育的ニーズに対応し、一人ひとりの子どもの学校生活を充実させることで、総合的な支援教育を推進します。	
備考	※重点課題に対応する事業 32・33ページ参照	

事業名	<b>いじめ等課題解決支援事業【支援教育課】</b>				
概要	いじめの防止、体罰の根絶、学校問題の解決を図り、児童生徒が明るい笑顔で楽しく充実した学校生活を送れることを目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
いじめ等課題解決専門委員会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	<b>いじめ・不登校(注3)対策事業【支援教育課】(※詳細を①～④に掲載)</b>
概要	いじめ・不登校等の未然防止、不登校状態の改善および学校内外での児童生徒の居場所づくりを目指し、NPO(注29)などと連携を図った活動を展開し、総合的ないじめ・不登校対策を推進します。
備考	※重点課題に対応する事業 34ページ参照

事業名	<b>①相談員等派遣事業【支援教育課】</b>
概要	子どもとの日常的なふれあいや相談等を通じ、いじめ・不登校等問題行動の未然防止、早期発見、早期対応、学校内での児童生徒の居場所づくりを目指し、総合的な支援策を推進します。
備考	※重点課題に対応する事業 35・36ページ参照

事業名	<b>②相談教室運営事業【支援教育課】</b>
概要	不登校(注3)の児童生徒が通室する相談教室(注34)を市内5カ所で運営し、不登校状態にある児童生徒の支援を推進します。
備考	※重点課題に対応する事業 37・38ページ参照

事業名	<b>③いじめ対策事業【支援教育課】</b>
概要	「いじめ問題」に関して、子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応する支援教育(注7)の視点でシステム作りを進めます。特に学校での児童生徒の相談窓口の設置、カウンセリングなどを中心に、いじめ暴力等の問題行動の未然防止、早期発見、早期対応を目指します。
備考	※重点課題に対応する事業 39・40ページ参照

事業名	<b>④教育相談充実事業【支援教育課】</b>
概要	いじめや不登校等のほか、学校生活における不安や悩み等を解決するための相談を充実させます。
備考	※重点課題に対応する事業 41ページ参照

事業名	<b>日本語指導推進事業【支援教育課】</b>				
概要	外国籍児童生徒に初歩的な日本語の力を付けさせるなど、一人ひとりのニーズに応じた支援を行うことにより、児童生徒が学校生活に適應する力を付けることを目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
日本語指導員(注22)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
国際教育コーディネーター(注35)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
国際教育に係る翻訳・通訳	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

施策(3)国際教育の推進と英語教育の充実

【関連事業】

事業名	国際コミュニケーション能力育成事業【教育指導課】				
概要	市立学校（小、中、高、特別支援）にALT（注18）や外国人英語教員（FLT（注19））を配置し、児童生徒がネイティブ・スピーカー（英語を母語としている話者）と直接触れ合う時間を増やすことにより、小・中・高の12年間で、児童生徒の国際コミュニケーション能力（注20）の向上および国際教育の充実を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ALT (FLT配置の中学校を除く)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
FLT (5名を中学校・高等学校へ)	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—
横須賀イングリッシュワールド(注36)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	高等学校国際交流支援事業【教育指導課】				
概要	オーストラリアにあるエラノラ高校および米国海軍横須賀基地内のキニックハイスクールとの交流などを通して、横須賀総合高等学校の国際教育を推進します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
エラノラ高校との短期留学派遣(毎年) 受入(隔年)	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
キニックハイスクールとの交流	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

施策(4)情報教育の推進

【関連事業】

事業名	<b>教員の情報活用能力の育成【教育研究所】【教育指導課】【教育政策担当(教育情報システム室)】</b>				
概要	子どもの情報活用能力を育成するために、ICT(注17)活用を推進し、教員の情報活用能力(注37)および情報モラル(注16)に関する知識・指導技術の向上を支援します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ICTの有効活用と情報活用能力の育成を意識した授業事例集	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—
発達段階に応じた情報モラルの育成に関する授業事例集	計画	作成	充実	充実	充実
	実績	一部作成	—	—	—
情報活用能力の育成に関する授業モデル	計画	作成	充実	充実	充実
	実績	作成	—	—	—
情報活用能力育成のための指導・助言	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
教育の情報化を推進させるためのICT機器の整備	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
(計画と実績が異なる場合の理由) 「発達段階に応じた情報モラルの育成に関する授業事例集」について、市内における授業事例集を集約するよりも効果があると判断したため、他自治体等の事例を集約し、一覧表にしたものを作成し、横須賀市教育情報センターイントラネットサイトに掲示した。					

施策(5)校種間連携の推進

【関連事業】

事業名	<b>小中一貫教育(注6)推進事業【教育指導課】</b>	
概要	小中学校の教職員が義務教育9年間で児童生徒を育てるという意識をもち、児童生徒や地域の実態をもとに共通の教育方針を設定するなど、小中で一貫した教育の充実に取り組めます。	
備考	※重点課題に対応する事業 30・31ページ参照	

事業名	就学前教育と小学校教育の連携推進事業【教育指導課】				
概要	幼稚園・保育所と小学校との合同研修会の開催や研究組織によるカリキュラムのモデルの作成により、就学前教育と小学校教育の円滑な連携を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
合同研修会	計画	年3回開催	年3回開催	年3回開催	年3回開催
	実績	年3回開催	—	—	—
小学校におけるスタートカリキュラム(注38)のモデル	計画	各学校の実践	各学校の実践	各学校の実践	各学校の実践
	実績	実施の検討	—	—	—
就学前教育におけるアプローチカリキュラム(注39)のモデル	計画	各学校の実践	各学校の実践	各学校の実践	各学校の実践
	実績	各学校の実践	—	—	—
(計画と実績が異なる場合の理由) 各学校において、1年の担任は創意工夫しながらスタートカリキュラムは実施しているが、学校としてのカリキュラムとして確立されている状況ではない。安定したスタートカリキュラムの編成が行えるようにする。					
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b> ○就学前教育（幼稚園）の側からのアプローチカリキュラムの整備に対して、小学校における学校としてのスタートカリキュラムが確立されていないという点が、この連携推進に関する根深い問題を露呈している。小学校側はどうしても低学年担当の問題とみなしがちであり、なおかつ中学校との一貫教育カリキュラム整備の問題も抱えているため、連携・一貫カリキュラム作成に関しては両方向を見極めながら検討していかなければならない。 つまりは、小学校カリキュラム全体の見直しが必要であることに正対し、教職員全員で問題に当たる必要がある。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b> ○就学前教育との連携に関わって小学校カリキュラムの見直しは、必要だと考える。特に、就学前教育との適切な接続に対する問題意識や、スタートカリキュラムの必要性を、教職員全員に持たせることが重要だと考える。また、具体的なスタートカリキュラムの立て方を説明する機会も設定したいと考える。					

事業名	就学前児童学校給食交流体験事業【学校保健課】				
概要	就学前児童に、学校給食の体験と小学校在校生との交流の機会を提供することにより、小学校生活に対する不安を軽減し、期待感を高めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校給食交流体験	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

**目標2: 学校の組織力や教職員の力を高めます**

施策(6) 学校運営改善の充実

**【関連事業】**

事業名	<b>学校評価推進事業【教育指導課】</b>
概要	学校が学校評価を適切に実施し、教育活動や学校運営の充実・改善を図ることができるよう、学校評価の推進に努めます。
備考	※重点課題に対応する事業 25・26ページ参照

事業名	<b>学校支援員派遣事業【支援教育課】</b>				
概要	校長経験者などを支援員として配置し、緊急時や各学校の要請に応じて、市立学校に派遣し、全教員を対象とした指導力の向上や学級改善に努めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校支援員	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	—	—	—

施策(7) 教職員の研究・研修の充実

**【関連事業】**

事業名	<b>人材育成を促進する教職員研修体系の構築【教育研究所 他】</b>				
概要	求められる教師像に基づき、優れた人材を育成する教職員研修の仕組みと内容を構築します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
新しい研修体系	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—

**【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】**

○他の関連事業の基本研修・専門研修や経験の浅い教員を対象にした研修も含めて、教員のライフステージに応じた研修内容とその体系構築を図るもので、学校教育の実践を実現する教員一人ひとりの授業力形成に影響する非常に重要な事業である。特に、以下の2点に配慮されたい。

①増大する経験の浅い教員に対する、少数の中堅教員がどのように学校全体のチーム力を維持し発展させていくか、そのリーダーシップとフォロアーシップのバランスを図っていく研修内容と方法を考案すること。

②体系構築を図っても、実際の指導講師陣の教育・授業観等のレベルでズレが大きいと研修の効果は縮減することになる。講師陣等の選出に当たっては慎重な検討・判断が必要となる。

**【ご意見に対しての今後の方向性】**

○各校において、経験の浅い教員同士でグループを作り、そこに少ない中堅教員がメンターとして担当し、一緒に課題に向き合ったり、学びたいことを気軽に話し合ったりする集団を意図的に構成する必要がある。少ない中堅教員が軸となって援助する校内OJT体制を計画的、組織的に実施していく必要がある。そのための効果的な方法の紹介や研修の構築を行っていく。

今後も、次期学習指導要領改訂を鑑みながら、常に最新の教育情報や教育課題を収集し、育成すべき資質・能力を踏まえて、実際に指導にあたる講師陣を慎重に選出していく。

事業名	<b>基本研修や専門研修の実施【教育研究所 他】</b>				
概要	教育公務員としての職務遂行能力や専門的課題解決能力などを高める研修内容を充実させます。また、研修内容の活用や還元について工夫します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
研修体系に基づく研修	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—

事業名	<b>経験の浅い教員を対象にした研修の充実【教育研究所】</b>				
概要	授業力、学級経営力など実践的な内容の研修の充実と、校内における組織的な人材育成の充実を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
研修体系に基づく研修	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—

事業名	<b>理科センター(注40)の充実【教育研究所】</b>				
概要	専門機関、市立高等学校、小中学校理科研究会との連携を図り、基礎的な観察・実験など、小・中・高等学校の授業に対応できるように、理科センターの充実を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
授業研究	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—
研修	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—



事業名	教員のICT(注17)活用研修の充実【教育研究所】				
概要	教員のICT活用指導力を高めるため、ICTの活用方法や情報セキュリティ(注41)について、研修の内容を充実させます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
集合研修	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—
訪問研修	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—

事業名	選択研修の推進【教育研究所】				
概要	教職員の経験年数の節目に応じた力量を形成するために、また、教職員としての自己研さんを積むために、選択研修の幅を広げ、充実させます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
選択研修	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—

事業名	「よこすか教師塾」の実施【教育研究所】				
概要	横須賀市で教師になりたいという情熱を持った人材を発掘し、採用後、学校で即戦力として活躍できる人材を育成するため「よこすか教師塾」を継続して開設します。教員志望の学生を対象とした「よこすか教師未来塾」と、市立学校勤務の臨時的任用職員、非常勤職員を対象とした「よこすか教師希望塾」で構成します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
よこすか教師未来塾	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
よこすか教師希望塾	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>カリキュラムセンター(注42)機能の充実【教育研究所】</b>				
概要	市内の教員が作成した指導案、授業に役立つ教具などを収集し、カリキュラムセンター機能を充実させ、教員の授業研究や教材研究を支援します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
教科ごとの図書資料の整備	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—
教材教具・指導案の紹介	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>研究会(注27)による教育課題研究の充実【教育研究所】</b>				
概要	学校における教育実践のさらなる充実のために、他課および研究会(注43)と連携して実践的・実証的な研究に取り組みます。また、研究の成果を学校に発信し、教育課題の解消、教職員の指導力向上を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
教育課題の検討	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
教育課題の解決に向けた研究会	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

施策(8)学校における校内研究・研修への支援の充実

**【関連事業】**

事業名	<b>学校委託研究への指導・助言の充実【教育指導課】</b>				
概要	教員の指導力向上に向け、校内研究や授業研究を通して、指導主事(注24)が指導・助言を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校委託研究における校内研究・授業研究での指導・助言	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>研究委託事業【教育指導課】</b>				
概要	研究会(注43)および学校に研究を委託し、研究を通じて、教員一人一人の資質や指導力を向上させることを目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校および研究会への研究の委託	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
指導主事の派遣	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>人材育成推進支援【教育研究所】</b>
概要	横須賀市教職員人材育成プランに基づき、集合研修、校内研修、自己啓発などを通して、学び続ける教師の育成を目指します。また、研修の場の充実、学校を訪問しての研修など総合的な指導・助言を図ります。
備考	※重点課題に対応する事業 42・43ページ参照

施策(9)教員が子どもと向き合う環境づくりの推進

【関連事業】

事業名	<b>校務支援システム(注44)の活用推進【教育研究所】</b>				
概要	成績管理などの事務処理を効率化し、教員が今まで以上に子どもと向き合う環境をつくるため、校務支援システムの活用を推進します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
校務支援システム	計画	運用	運用	運用	運用
	実績	運用	—	—	—
教員の校務在宅接続システム(注45)の導入	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—

事業名	<b>子どもと向き合う環境づくりの推進【教育政策担当】</b>
概要	子どもと向き合う時間を確保するために、事務的な業務の効率化を図る手立てを講ずるなど、学校と教育委員会が一体となって取り組むための方策について検討会議などにおいて検討し、教員が子どもと向き合う環境づくりに取り組みます。
備考	※重点課題に対応する事業 44・45ページ参照

事業名	<b>学校法律相談事業【支援教育課】</b>				
概要	複雑な法律問題への対処方法について、校長および幼稚園長が弁護士から指導・助言を得ることで、問題の早期解決を図り、学校が学習指導や児童生徒指導など本来の業務に専念できるようにします。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
校長および幼稚園長からの要請に基づく、担当弁護士(注46)との法律相談の場の設定	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

**目標3: 学校・家庭・地域で連携を深めます**

施策(10)開かれた学校づくりの充実

**【関連事業】**

事業名	<b>「学校へ行こう週間」の実施【教育指導課】</b>				
概要	全ての市立学校が学校公開期間（学校へ行こう週間）を設け、保護者や地域住民に学校の様子を身近に感じてもらい、学校に対する理解と支援を一層深めることを目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校へ行こう週間	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>「輝け！よこすかの子どもたち(市民向け広報紙)」の発行【教育政策担当】</b>	
概要	市民に向けて、学校の取組や学校での子どもたちの様子、教育委員会の取組を「輝け！よこすかの子どもたち」を通して発信します。	
備考	※重点課題に対応する事業 10・11ページ参照	

施策(11)家庭との連携による生活・学習習慣の確立

**【関連事業】**

事業名	<b>家庭との連携による生活習慣、学習習慣の確立【教育指導課】【支援教育課】【学校保健課】</b>	
概要	児童生徒の保護者に、啓発のためのリーフレットを配布するなど、児童生徒の望ましい生活習慣、学習習慣の確立を目指します。	
備考	※重点課題に対応する事業 21・22ページ参照	

施策(12)地域教育力の活用の充実

**【関連事業】**

事業名	<b>学校いきいき事業【教育指導課】</b>	
概要	学校と保護者・地域との連携や校種(注12)間の連携を一層図ることにより、地域で子どもを育てていく体制を構築することを目指します。	
備考	※重点課題に対応する事業 12・13ページ参照	

施策(13)放課後等児童対策の推進

【関連事業】

事業名	<b>放課後等児童対策の推進【教育政策担当】</b>				
概要	児童が安心して過ごせる場として、放課後や休業日などの学校の活用を他部局と連携して進めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学童クラブの小学校の使用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

**目標4:教育環境を整備し、充実させます**

施策(14)学校の適正規模・適正配置の推進

**【関連事業】**

事業名	<b>学校規模・配置適正化事業【教育政策担当】</b>				
概要	平成19年度に策定した「横須賀市立小中学校の適正規模および適正配置に関する基本方針」の見直しも含めた今後の適正規模(注49)や配置の在り方について、保護者、関係団体の代表者、学校関係者などで構成する市立小中学校適正配置審議会に諮問します。審議会から受けた提言を基に検討を行い、学校の適正化を進めます。なお、適正化を進めるに当たっては、本市全体の計画として、平成26年度に策定が予定されている「横須賀市施設配置適正化計画(注50)」との整合性を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市立小中学校適正配置審議会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	未実施	—	—	—
基本方針の見直し	計画	—	検討	検討	検討
	実績	—	—	—	—
(計画と実績が異なる場合の理由) ○平成27年1月に「横須賀市施設配置適正化計画」が策定されたが、当該計画における施設分野別実施計画策定に係る取組の方向性がまだ決定していなかったため、市立小中学校適正配置審議会の開催には至らなかった。					

施策(15)就学支援などの充実

**【関連事業】**

事業名	<b>就学奨励扶助事業【支援教育課】【学校保健課】</b>				
概要	経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者に、学用品費、修学旅行費、学校給食費などの就学援助費を支給するとともに、医療費などを援助します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
就学援助費	計画	支給・援助	支給・援助	支給・援助	支給・援助
	実績	支給・援助	—	—	—

事業名	<b>奨学金支給事業【支援教育課】</b>				
概要	経済的理由により就学が困難な本市在住高校生に奨学金を支給します。また、奨学生の実態把握に努め、より効果的な制度の運用について検討を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
奨学金	計画	支給	支給	支給	支給
	実績	支給	—	—	—

施策(16)学校の安全・安心の推進

【関連事業】

事業名	学校の施設整備・維持管理【学校管理課】				
概要	教育環境の向上を図るために、各種営繕工事を行うとともに、避難所として使用される学校施設の安全対策として、非構造部材の耐震化を進めます。また、学校施設を適正かつ良好な状態に維持するために、各種設備の保守点検や清掃業務などを行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
施設整備業務	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
維持管理業務	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	学校事故等緊急時の体制づくり【学校保健課】				
概要	学校管理下における不慮の事故などへの初期対応を適切に行うため、教職員を対象とした応急手当普及員(注51)講習会や心肺蘇生法実技研修講座、アナフィラキシー(注52)対応研修を実施します。また、市立学校などに配備しているAED(自動体外式除細動器)を適切に管理します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
応急手当普及員講習会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
心肺蘇生法実技研修講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
アナフィラキシー対応研修	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
心肺蘇生法実技練習用人形およびAED練習器の貸し出し、更新	計画	更新・貸出	貸出	貸出	貸出
	実績	更新・貸出	—	—	—
AEDの管理	計画	更新・管理	管理	管理	管理
	実績	更新・管理	—	—	—

事業名	市立学校用防災備蓄品整備事業【総務課】				
概要	平成24年度に整備した非常食・保存水などの学校用防災備蓄品の保存(使用)期限満了に伴う更新を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市立学校用防災備蓄品の更新	計画	—	—	—	更新
	実績	—	—	—	—

施策(17) 学校施設・設備の充実

【関連事業】

事業名	<b>学校トイレ改修事業【学校管理課】</b>				
概要	児童生徒が快適に利用できるように、臭いや汚れの解消、また明るさに配慮した改修工事を進めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校トイレ改修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

施策(18) 学校緑化の推進

【関連事業】

事業名	<b>校庭の芝生化事業【学校管理課】</b>				
概要	校庭の砂塵の飛散防止や児童の怪我の予防、および体力の向上などを目的に、小学校の校庭の一部を芝生化します。維持管理にかかる負担や経費などを継続的に検証し、また学校の意向を考慮して実施します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
校庭の芝生化	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—



## 2-2 目標・施策に基づく関連事業（社会教育編） における事業・行動計画実施状況

目標・施策に基づく関連事業（社会教育編）と、その事業を実施するための行動計画について、平成 26 年度の実施状況は以下のとおりです。

（社会教育編）

	総数	26 年度において計画どおり実施した数
関連事業	53	53
行動計画	165	165

## 2-2 目標・施策に基づく関連事業(社会教育編)

社会教育編の目標・施策に基づく関連事業について各事業の行動計画に対する実績を測ります。

### 目標1:市民の学習機会の提供と学習する場の充実を図ります

施策(1)多様な学習の機会の提供

#### 【関連事業】

事業名	市民大学事業【生涯学習課】				
概要	市民の高度で多様な学習要求に対応し、教養を高め、能力を伸ばし、生涯を通じた自己実現を図るための講座と現代的課題、地域課題などの社会的に学習する必要がある講座を各年度とも50講座以上提供します。また、子どもを対象とした市民大学講座や生涯学習センターから離れた地域のコミュニティセンター(注53)、大学などの機関を活用した講座を実施します。さらに、学びを通じてつながりをつくり、学習活動の継続や地域活動へのきっかけをつくる講座など、多様な講座の提供をしていきます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市民大学講座(前期・後期・夏期)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
子ども対象講座「ジュニアカレッジ」	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
地域の大学・研究機関などとの連携講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
コミュニティセンター出前講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
課題(防災・健康・環境等)対応、地域理解、職業能力向上、一般教養などの講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	生涯学習の啓発事業【生涯学習課】				
概要	生涯を通じて学習することの意義や社会教育について、市民に理解を得るとともに、主体的に学ぶ意欲を喚起するため、ホームページや講座、イベントなどを通して生涯学習の啓発を行います。また、市民の生涯学習に関する意識や学習ニーズの調査を行い、生涯学習事業の企画等に活用します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
生涯学習の意義や社会教育に関するホームページでの啓発	計画	検討・準備	実施	実施	実施
	実績	検討・準備	—	—	—
まなびかんまつり・講演会などのイベントにおける生涯学習の啓発	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
生涯学習の啓発を行うポスターなど	計画	作成	作成	作成	作成
	実績	作成	—	—	—
生涯学習に関する市民アンケート調査(横須賀市教育アンケート)	計画	—	—	作成・実施	分析
	実績	—	—	—	—

事業名	学習機会の提供【生涯学習課 他】				
概要	生涯学習を始めるきっかけを作る事業をはじめ、生涯を通じた自己の充実や生活の向上のための学習、「人づくり」や「まちづくり」の学習、地域に関する学習、社会の要請に基づく学習など多様な学習機会（講座・講演・イベント・ワークショップなど）を提供していきます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
自己の充実や生活向上を図るための学習機会	計画	提供	提供	提供	提供
	実績	提供	—	—	—
人づくり・まちづくりに関する学習機会	計画	提供	提供	提供	提供
	実績	提供	—	—	—
地域課題(防災・健康・環境等)対応など社会の要請に基づく学習機会	計画	提供	提供	提供	提供
	実績	提供	—	—	—

事業名	高齢者や青少年など各世代に対応した事業の提供【生涯学習課 他】				
概要	高齢者や青少年など各世代で生じる課題に基づく学習および世代間の交流を図るための事業など、多様な学習機会を関係部局とともに提供していきます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
青少年の体験活動・ボランティア活動などの青少年対象事業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
子どもの保護者などを対象とする講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
高齢期の準備に対応する講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
高齢者を対象とする講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
異世代間のコミュニケーションを図るための講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	学習サークル支援事業【生涯学習課 他】				
概要	社会教育施設(注4)などの趣味的な講座とカルチャーセンターなどの講座との根本的な違いは、地域活動につなげていくために、グループ化を図ることです。生涯学習センターやコミュニティセンター(注53)で実施する多彩な講座の終了時にサークル化を推進します。サークルの育成を通して、主体的に活動し、地域課題を解決していく市民サークルが増えていくように支援するとともに、さらに各施設でサークルの協議会組織が行う地域のための活動を支援します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学習機会提供後のサークル組織化	計画	推進	推進	推進	推進
	実績	推進	—	—	—
サークルの育成	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
サークルの連絡協議会の活動支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

施策(2)「人権教育・啓発」の推進

【関連事業】

事業名		人権教育啓発事業【生涯学習課】			
概要	人権に関わる講座・講演会を充実させ、人権教育・啓発を推進します。講演会については毎年開催とし、講座については4つの分野において、人権課題の焦点を絞りながら、内容の充実を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人権を考える講演会	計画	年2回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催
	実績	年2回開催	—	—	—
同和問題を考える講演会	計画	年1回開催	年1回開催	年1回開催	年1回開催
	実績	年1回開催	—	—	—
子どもと人権講座	計画	年3回開催	年3回開催	年3回開催	年3回開催
	実績	年3回開催	—	—	—
暮らしの中の人権を考える講座	計画	年2回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催
	実績	年2回開催	—	—	—
歴史からみる人権講座	計画	年3回開催	年3回開催	年3回開催	年3回開催
	実績	年3回開催	—	—	—
人権セミナー	計画	年5回開催	年5回開催	年5回開催	年5回開催
	実績	年5回開催	—	—	—
人権団体主催の研修会などへの参加	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名		人権学習推進事業【生涯学習課】			
概要	コミュニティセンター(注53)、各学校PTA、その他学習グループなどからの人権に関わる学習会開催の要請に基づき、人権学習の出前教室を実施し、人権教育を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人権学習の出前教室	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

施策(3)学習の場の提供

【関連事業】

事業名		学校施設等の開放事業【生涯学習課】			
概要	市立学校の施設を地域団体に開放し、社会教育の普及および青少年の健全な育成を図ります。各学校の管理状況が許す限りにおいて、利用状況を勘案しながら開放の拡大を検討します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
和室・学校図書館などの施設の開放	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
養護学校施設の開放	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
ゆうゆう坂本相談教室施設の開放	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名		生涯学習センター運営管理事業【生涯学習課】			
概要	市民の生涯学習振興を図るとともに社会教育事業も実施する本市の生涯学習推進の拠点施設として、社会教育の専門性を有する指定管理者が適正な管理運営を行うことで、市民の学習活動を支援します。指定管理者の管理運営として、施設管理、学びの場の提供、利用の促進、市民大学、文化・生涯学習情報収集提供、学習相談、学習成果の地域活用の事業を実施します。また、公民館機能ともいえる本市の課題の解決につなげる講座の実施、講座後のグループ化支援を行うほか、学習成果を地域に生かす事業を行います。教育委員会と指定管理者が協力して、生涯学習社会の構築を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
指定管理者による管理運営	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
指定管理者に対する指導・助言・監督・評価	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
人づくり、まちづくりに関する事業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
文化財保護・啓発に関する事業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
教育委員会と指定管理者との事業協力	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名		コミュニティセンター(注53)の運営管理【生涯学習課 他】			
概要	地域に最も身近な施設であるコミュニティセンターにおいて、学習のための利用や社会教育に関する学習機会の提供事務を市民部に委任し、各行政センターなどが事業を行います。家庭教育学級(注60)や高齢者学級などの実施協力を要請します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学習室などの施設の提供および利用の促進や図書館と連携した図書室運営	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
家庭教育、高齢者学級などの社会教育事業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	生涯学習センターなどの専門性向上【生涯学習課 他】				
概要	生涯学習センターとコミュニティセンター(注53)の運営管理を充実させ、社会教育事業を行う職員（生涯学習センター指定管理者およびコミュニティセンター職員を含む）に対し、社会教育研修を実施する他、文部科学省、神奈川県教育委員会などが実施する研修会に職員を派遣し、専門的資質の向上を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
生涯学習センターなどの専門性向上	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
新規採用職員研修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
社会教育事業を実施する職員の専門性向上を図る研修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
社会教育主事(注61)などの専門職員の専門性向上のための外部研修	計画	参加	参加	参加	参加
	実績	参加	—	—	—
生涯学習センターとコミュニティセンターの合同職員研修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	社会教育施設(注4)などの相互連携 【中央図書館】【博物館運営課】【美術館運営課】【生涯学習課 他】				
概要	生涯学習センター、図書館、博物館、美術館などの本市の社会教育施設やコミュニティセンターのネットワークを強化し、事業連携を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
各施設の事業への博物館・美術館学芸員、図書館司書、社会教育主事などの派遣	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
各施設間の事業連携	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

施策(4) 学習情報・学習相談の充実

【関連事業】

事業名		学習情報収集・提供事業【生涯学習課】			
概要	市民が主体的に学習活動を行えるように、生涯学習センターで、講師、サークル、学習施設、講座・イベントなど、文化・生涯学習に関する多様な情報の収集・提供を充実させます。また、情報提供事業のさらなる周知を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
生涯学習情報の収集・提供事業の普及啓発	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
Yokosuka まなび情報(講師・サークル情報)	計画	収集・提供	収集・提供	収集・提供	収集・提供
	実績	収集・提供	—	—	—
登録講師情報冊子・登録情報紙	計画	発行	発行	発行	発行
	実績	発行	—	—	—
講座・イベントなどの学習機会の情報	計画	収集・提供	収集・提供	収集・提供	収集・提供
	実績	収集・提供	—	—	—
文化・生涯学習情報紙	計画	発行	発行	発行	発行
	実績	発行	—	—	—
公共施設検索システム(施設ナビ)登録情報	計画	充実	充実	充実	充実
	実績	充実	—	—	—
生涯学習センター情報コーナー	計画	運営	運営	運営	運営
	実績	運営	—	—	—
民間学習情報	計画	収集・提供	収集・提供	収集・提供	収集・提供
	実績	収集・提供	—	—	—

事業名		広報活動の充実【生涯学習課】			
概要	講座やイベントの参加者アンケートなどを活用して市民ニーズを十分に把握し、情報を必要としている市民に、必要な情報を確実に提供します。また、報道機関や市広報紙を有効に活用して効果的に生涯学習に関する情報を市民に提供します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
効果的な情報提供活動	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
報道機関の有効活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
市広報紙の有効活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	生涯学習に係る学習相談事業【生涯学習課】				
概要	学習上の問題の解決、主体的な学習を継続するには、何を学習したらよいかなど、相談者自らが答えを導き出すために学習相談員が助言します。また、市民活動支援施設などと連携し、情報共有を図り、市民に適切な情報を提供します。コミュニティセンター(注53)などでも学習相談を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学習相談員による生涯学習センターの学習相談	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学習相談員の専門性向上	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
イベントなどにおける学習相談会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
各種市民活動支援施設との連携	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
他施設における学習相談の支援(出張学習相談等)	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	「横須賀市生涯学習ホームページ」の充実【生涯学習課】				
概要	現在の生涯学習のホームページを充実させ、社会教育の各施設のイベントやお知らせを一つのページで閲覧できるように検討する他、生涯学習の必要性や生涯学習社会構築に向けてアピールするページなど、見やすく分かりやすいホームページにします。また、情報の更新をスムーズに、漏れなく行えるようにします。インターネットによる市民の学習ニーズ調査の実施について調査・回答方法や新たな形態等を含め検討します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
生涯学習(社会教育)のホームページ	計画	検討・準備	公開	公開	公開
	実績	検討・準備	—	—	—
生涯学習メールマガジン	計画	検討	検討・準備	配布	配布
	実績	検討	—	—	—
インターネットによる学習ニーズ調査	計画	検討・準備	実施	実施	実施
	実績	検討・準備	—	—	—



**目標2: 学びの成果が生かせる社会を目指します**

施策(5) 学びの成果を地域に生かす活動の支援

**【関連事業】**

事業名	<b>登録講師の学習成果の地域還元事業【生涯学習課】</b>				
概要	学習で身に付けた知識や技術を地域に生かす活動を支援するため、Yokosuka まなび情報に登録する活動経験の少ない講師に研修、相互評価を伴う講座などを行い、講師デビューを支援します。主体的な活動と活動の継続を推進するためのスキルアップ講座を実施します。また、スキルアップ講座の中で経験を積んだ講師についても支援していきます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学習成果を地域に生かす意義や講師活動に関する研修会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
登録講師の力量向上を図るための相互評価を伴う講座	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
講座企画に関する指導・助言および講師デビュー講座	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
主体的な活動や活動の継続を図るための指導・助言およびスキルアップ講座	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
講師活動の経験を積んだ登録講師の資質向上の支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>講座企画運営ボランティア事業【生涯学習課】</b>				
概要	生涯学習センターで実施する講座の企画運営を行うボランティアの養成および育成を行い、その成果を発揮する場として、生涯学習センターにおいて、市民と協働して学習機会を提供します。ボランティアが経験を積み、さまざまな講座の企画運営ができるようになることを目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
講座企画運営ボランティアの育成	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
ボランティアによる講座運営の補助	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
講座企画運営ボランティアとの共同企画	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
新たな講座企画運営ボランティア養成講座	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—

事業名	学習成果地域活用の普及啓発事業【生涯学習課】				
概要	より良い地域をつくるため、学習成果を主体的に社会に還元し、社会全体の教育力向上を図る「知の循環型社会(注54)」に向けた啓発を行います。また、新たな学習成果を活用するための仕組みづくりについても検討します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学習成果地域活用(知の循環型社会)啓発事業	計画	検討	実施	検討	実施
	実績	検討	—	—	—
新たな学習成果の活用の仕組みづくり	計画	検討	実施	実施	実施
	実績	検討	—	—	—

施策(6)学びの成果を評価する仕組みづくりの検討

【関連事業】

事業名	学習成果の地域還元を評価する仕組みづくりの検討【生涯学習課】				
概要	学習成果を地域のために還元する重要性を認識した上で、地域で講師活動を行うYokosuka まなび情報登録講師を評価します。神奈川県と連携し、各種資格の検定試験情報を提供するとともに学習成果が社会的に評価され、認証や顕彰されるための新たなシステムについて検討します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
Yokosuka まなび情報登録講師デビュー事業修了者の公表	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
登録講師デビュー事業修了者の新たな評価方法	計画	実施・検討	実施・検討	実施・検討	実施・検討
	実績	実施・検討	—	—	—
学習成果の地域還元の顕彰制度	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
学習成果の認証システム	計画	実施・検討	実施・検討	実施・検討	実施・検討
	実績	実施・検討	—	—	—
学習成果の社会的効用性の向上、活用促進の支援	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
神奈川県生涯学習ホームページとの連携による検定試験情報の提供	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

**目標3:家庭や地域における教育力の向上を図ります**

施策(7)「学社連携・融合(注2)」事業の推進

**【関連事業】**

事業名	<b>学校支援ボランティア・コーディネーター導入の検討【生涯学習課】</b>
概要	地域の人々が、社会教育で学んだ成果を学校教育に生かし、学校の教育活動を充実させるための学校支援ボランティアの導入を検討します。さらに、学校と地域がより密接な連携をするための橋渡し役となる、学校支援コーディネーター(注62)の導入も併せて検討します。このことにより、保護者および地域の人々が連携し、ボランティアとして学校を支援する活動を推進し、学校および地域の活性化を図ります。
備考	※重点課題に対応する事業 14～16ページ参照

施策(8)学校・家庭・地域の連携強化による家庭教育力の向上

**【関連事業】**

事業名	<b>家庭教育講演会の開催【生涯学習課】</b>
概要	保護者に対する学習の機会、情報の提供および家庭教育の支援のため、家庭教育講演会を実施し、保護者の意識向上を目指します。
備考	※重点課題に対応する事業 17・18ページ参照

事業名	<b>PTA活動振興事業【生涯学習課】</b>				
概要	学校・家庭・地域の連携を強化するためには、社会教育団体であるPTAの活動は重要度を増しています。そのため、横須賀市PTA協議会および神奈川県下市立高等学校PTA連絡協議会の活動を活性化させるため、財政的支援を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
PTA活動の支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>横須賀市PTA協議会との事業連携の見直し【生涯学習課】</b>				
概要	横須賀市PTA協議会との事業連携について、さらに効果的に行うため、横須賀市PTA協議会と協議・調整を図りながら、事業内容も含め見直します。このことにより学校・家庭・地域のさらなる連携強化を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業連携	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—

事業名	家庭教育学級(注60)の開催【生涯学習課 他】				
概要	家庭が果たす役割や課題を見つめ、次世代を担う子どもの豊かな人間性や社会性を育むため、社会教育事業を委任しているコミュニティセンター(注53)と共同し家庭教育学級などの家庭教育支援事業を開催し、教育力の向上を図ります。また、PTAなどが家庭教育学級を開催する際に支援を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
コミュニティセンターと共同による家庭教育講座・家庭教育学級	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
PTAの家庭教育学級に対する支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	市民大学における家庭教育支援講座の開催【生涯学習課】				
概要	市民大学において、乳幼児や青少年の心理学、発達心理学など、子どもの豊かな人間性や社会性を育むために必要な高度な知識の習得や、異世代間のコミュニケーションを図るための講座など、家庭教育を支援する講座を開催します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市民大学における家庭教育の支援に関する講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
市民大学におけるコミュニケーション能力向上に関する講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

**目標4:文化遺産の保存と活用を推進します**

施策(9)横須賀らしい文化遺産の保存、活用・継承

**【関連事業】**

事業名	<b>重要文化財の保存管理と公開活用【生涯学習課】</b>				
概要	市内に所在する有形文化財、無形文化財、民俗文化財、史跡・名勝・天然記念物のうち、重要なものを指定して、保護・保存を図るとともに、公開・活用を図りながら市民等の文化的資質の向上を目指し、将来へ受け継いでいきます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
重要文化財指定候補の選択と調査	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
指定	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
新指定重要文化財等保存管理・公開活用計画	計画	策定	策定	策定	策定
	実績	策定	—	—	—
博物館・美術館と連携した指定文化財の紹介	計画	検討	実施	実施	実施
	実績	検討・実施	—	—	—
史跡東京湾要塞跡活用推進事業	計画	策定 実施	実施	実施	実施
	実績	策定 実施	—	—	—
史跡保護整備事業	計画	策定 実施	実施	実施	実施
	実績	策定 実施	—	—	—
(計画と実績が異なる場合の理由) 【博物館・美術館と連携した指定文化財の紹介】博物館特別展示として横須賀の文化財展を行ったため。					

事業名	<b>埋蔵文化財(注57)の保護と調査【生涯学習課】</b>				
概要	埋蔵文化財に関するデータの見直しや更新を行い、埋蔵文化財包蔵地で計画された開発行為などと埋蔵文化財保護の協議を円滑に進めるとともに、必要な試掘確認調査および本発掘調査を実施し、その結果を調査速報展や発掘調査報告書の刊行により公開します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
埋蔵文化財分布地図と地名表	計画	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新
	実績	随時更新	—	—	—
埋蔵文化財保護のための協議	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
試掘確認調査・本発掘調査	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
発掘調査速報展	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
文化財調査報告書	計画	刊行	刊行	刊行	刊行
	実績	刊行	—	—	—

事業名	<b>市民団体との協働による文化遺産の活用【生涯学習課】</b>				
概要	市内各地には、その地域に根差した文化遺産があります。その保存・活用は、地域の市民団体と協働することで、いろいろな手法をとることができ、より幅の広い効果が期待できます。地域力向上のためにも市民団体との連携を強化し、文化遺産の保存、活用、継承を推進します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市民団体との協働による文化遺産の活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
文化遺産の保存・活用に関する情報共有	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
文化財保存・公開事業への支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>学校教育との連携の強化【生涯学習課】</b>				
概要	文化財整理室における発掘調査出土品の展示と解説、市内各学校の要望に応じて発掘調査の出土品やその他実物の資料を使った授業、史跡見学などの屋外学習などの支援および民俗芸能（注56）の体験など、郷土横須賀の歴史や伝統文化を学ぶ機会を提供します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
文化財整理室の公開・活用出土品を活用した授業の支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>よこすかの文化財などの展示事業【生涯学習課】</b>				
概要	生涯学習センターにおいて、通年でよこすかの文化財などのパネル展示（展示内容は適宜、入れ替えを実施）を行い、市民に文化財などの周知を図るとともに文化財保護意識の啓発を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
文化財などのパネル展示による啓発	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

施策(10)近代化遺産の調査と保護・活用の推進

【関連事業】

事業名	近代化遺産(注63)の調査と保存・活用【生涯学習課】				
概要	市内に所在する近代化遺産・近代遺跡については、横須賀市史や神奈川県調査報告書の刊行により基礎資料が整ってきました。今後は、それらの保存状況や現況の詳細調査を行い、文化財指定による保存と活用を推進します。また、消滅していくものについては記録保存のための調査を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
調査および調査報告	計画	作成	作成	作成	作成
	実績	作成	—	—	—
記録保存のための調査	計画	随時実施	随時実施	随時実施	随時実施
	実績	随時実施	—	—	—

事業名	旧横須賀製鉄所・東京湾要塞跡に関する資料の収集と保存・公開【生涯学習課】				
概要	平成27 年度に鋳入れ式から150 周年を迎える旧横須賀製鉄所とその後の横須賀造船所・横須賀海軍工廠に由来の近代造船資料および東京湾要塞を構成する砲台跡に関する資料を収集し、公開・活用を検討します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
近代化遺産に関わる資料	計画	収集	収集	収集	収集
	実績	収集	—	—	—
収集資料のデータ	計画	作成	作成	作成	作成
	実績	作成	—	—	—
保存・活用計画	計画	策定	策定	策定	策定
	実績	策定	—	—	—

施策(11)伝統文化の保存と継承の推進

【関連事業】

事業名	民俗芸能(注56)・伝統文化の保護と継承【生涯学習課】				
概要	横須賀市民俗芸能保存協会加盟団体と協調して、民俗芸能の保護と継承の推進を図ります。また、指定重要無形文化財(注55)・指定重要無形民俗文化財および国選択無形民俗文化財については映像記録を作成したので、広く公開活用していきます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
民俗芸能保存協会加盟各団体の情報交換および協議	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
保存に貢献した会員に対する感謝状の贈呈	計画	—	実施	—	実施
	実績	—	—	—	—
民俗芸能の映像記録の活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	民俗芸能大会、民俗芸能地域公開事業の開催【生涯学習課】				
概要	民俗芸能の周知啓発および指導者・後継者育成のために民俗芸能大会ならびに民俗芸能地域公開事業を開催します。 なお、民俗芸能大会は横須賀市民俗芸能保存協会加盟10 団体と招待団体の出演、地域公開事業は同協会加盟団体の一部の出演で開催します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
開催計画	計画	策定	策定	策定	策定
	実績	策定	—	—	—
民俗芸能大会	計画	—	開催	—	開催
	実績	—	—	—	—
民俗芸能地域公開事業	計画	開催	—	開催	—
	実績	開催	—	—	—



目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます

施策(12) 図書館活動の充実

【関連事業】

事業名		図書館資料の収集、整理、保存【中央図書館】			
概要	資料収集基準に基づき、市民ニーズに即した資料および地域特性を活かした資料を収集し、利用しやすい整理と将来にわたって有益な資料の保存に努めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
集中選書によるバランスのとれた資料の収集	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
旧海軍資料等地域特性と密接に関わる資料の収集	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
資料の適切な修理・保存	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名		図書館情報サービス事業【中央図書館】			
概要	図書館とコミュニティセンター（注53）図書室等のサテライト（注58）拠点を結んだネットワークシステムの円滑な運用を行い、全市域に図書館サービスを提供していきます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ネットワークの円滑な運用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名		レファレンス(注64)と情報提供の充実【中央図書館】			
概要	レファレンスと情報提供の充実を図り、図書館の活用を提案していきます。また、社会環境の変化による市民ニーズを把握しながら、電子書籍（注59）の導入や、資料の電子化に取り組む等、今後の図書館のあり方についても検討していきます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
レファレンスと情報提供	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
『読書週間』等に合わせたの行事開催	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
情報発信	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
図書館資料の電子化	計画	検討	検討	導入検討	導入
	実績	検討	—	—	—

事業名		子ども読書活動推進事業【中央図書館】【児童図書館】			
概要	子どもたちを取り巻く家庭・地域・学校などと連携し、子どもの読書活動を推進するためのさまざまな事業を実施します。				
備考	※重点課題に対応する事業 46・47ページ参照				

施策(13)博物館活動の充実

【関連事業】

事業名		展示の充実および付属施設の運営と調査研究事業の推進【博物館運営課】			
概要		常設展示の充実、特別展示・企画展示の開催、馬堀自然教育園・天神島臨海自然教育園・天神島ビジターセンター・ヴェルニー記念館の運営と、資料の収集・保存および調査研究事業を行います。			
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
特別展示、企画展示、トピックス展示	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
天神島臨海自然教育園・ビジターセンターの運営の推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
資料の収集および調査研究事業の推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名		近代歴史資料の調査と保存・活用【博物館運営課】			
概要		横須賀製鉄所など市内に所在する近代歴史資料の調査研究、資料の収集を行い、保存、公開、活用を行います。			
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
近代歴史資料の調査研究	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
近代歴史資料の収集と保存	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
近代歴史資料の特別展示、常設展示の更新、講座などによる活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	博物館教育普及活動の推進、学習機会の提供【博物館運営課】				
概要	生涯を通じた自己の充実や生活の向上のための学習機会を提供します。歴史や自然に関する講座、自然観察会、夏休み体験学習などの教育普及活動を、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象として、博物館の各施設を利用した講義と現地での野外学習などを通じて実施します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
三浦半島の身近な自然に関する講座、自然観察会など	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
横須賀の歴史・民俗に関する講座、野外学習など	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
指定を受けた仏像などの文化財や史跡を広く市民に紹介する行事	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
自然環境や歴史認識に関する教養講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
夏休み企画、触れる展示、クイズラリーなど子ども向け行事や、理科好き、歴史好きな児童生徒“博士の卵”を育てる企画	計画	作成と開催	作成と開催	作成と開催	作成と開催
	実績	作成と開催	—	—	—

事業名	博物館による学習機会の支援事業【博物館運営課】				
概要	環境教育、環境学習、郷土史研究などを支援し、事業連携を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
関係部局や学校などが実施する講座や授業の支援、連携	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
市民団体が実施する講座や授業の支援	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	子ども向け博物館教育普及活動の推進【博物館運営課】				
概要	学校と連携または協力して、児童生徒の学習の場を提供します。				
備考	※重点課題に対応する事業 48・49ページ参照				

事業名	自然誌資料歴史資料の保存と活用【博物館運営課】				
概要	約60年にわたり博物館に蓄積されてきた自然誌資料、歴史資料を適切に保管し、整理するとともに、調査研究報告書、資料集等に報告し、展示・講座などで広く市民に公開します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
資料の虫害・カビ害を防ぐための調査および薫蒸	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
調査研究報告書、資料集などの発行	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
展示、各種講座などによる活用	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—

事業名	地域研究を基盤とした博物館の専門性の向上【博物館運営課】				
概要	市民、学校、他部局等からの要望に適切に対応でき、最新の情報を蓄積し発信できるよう博物館の地域研究を核にした専門性をさらに高めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
地球科学、植物、動物、昆虫、考古、歴史、近代建築史、民俗それぞれの専門性の向上と、市民の多様な学習活動への対応の充実	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	博物館の広報活動の充実【博物館運営課】				
概要	来館者、来園者へのアンケート等により利用者の実態を把握して博物館の教育普及活動を広く市民に周知するシステム作りを検討し、実施します。また、平成25年度にシステムが更新されるホームページによる広報活動をさらに充実させます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者の実態把握と効果的な情報提供活動	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
報道機関、市広報の有効活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
ホームページの充実	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

施策(14)美術館活動の充実

【関連事業】

事業名	<b>美術館展覧会の充実【美術館運営課】</b>
概要	国内外の近代・現代美術を中心とした展覧会、多数の所蔵作品の紹介、および集客効果の高い企画展など、幅広いジャンルを対象とした展覧会を開催することで、多くの人々に優れた美術作品と出会い、親しみ、感動を得る場を提供します。
備考	※重点課題に対応する事業 50・51ページ参照

事業名	<b>美術館教育普及活動の推進【美術館運営課】</b>
概要	美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるように美術館活動基本方針の5つの柱「知的好奇心の育成と充足」「福祉活動の展開」「学校との連携」「市民との協働」「子どもたちへの美術館教育」に基づく教育普及活動を行います。特に、学校等と連携して子どもたちの鑑賞教育を中心とした教育普及事業を充実させます。
備考	※重点課題に対応する事業 52・53ページ参照

事業名	<b>美術品の収集、保存、活用【美術館運営課】</b>				
概要	収集方針に基づき、積極的な収集活動を行い、所蔵作品の充実を図ります。また、所蔵作品のデータベース化を進め、広く情報発信を行うほか、所蔵作品の修復等を行い、市民の文化的財産を未来へ伝えます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
美術品収集活動の推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
所蔵作品情報の発信	計画	検討	検討	準備	実施
	実績	検討	—	—	—
所蔵作品の修復等管理	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>「市民に親しまれる美術館」を目指した活動の推進【美術館運営課】</b>				
概要	地域の人々や他部局、異業種との連携を強め、「市民に親しまれ、利用される美術館」を目指した活動を行います。また、ホームページやSNS（注65）を活用し、市民や横須賀を訪れる人々に積極的な情報発信を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
近隣地域などと連携した活動	計画	検討実施	実施	実施	実施
	実績	検討実施	—	—	—
生涯学習課・博物館と連携した指定文化財の紹介	計画	検討	実施	実施	実施
	実績	検討	—	—	—
インターネットを利用した情報発信	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>美術館維持整備事業【美術館運営課】</b>				
概要	周囲の豊かな自然とその風景に調和した美術館の維持整備を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
中長期修繕計画に基づく維持整備事業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—

事業名	<b>美術館10周年記念事業【美術館運営課】</b>				
概要	開館10周年を記念し、より多くの人々が美術館を楽しみ、身近に感じられるよう、展覧会等の記念事業を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
美術館10周年記念事業	計画	検討	検討	検討・準備	実施
	実績	検討	—	—	—

## 2-3 目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編） における事業・行動計画実施状況

目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編）と、その事業を実施するための行動計画について、平成 26 年度の実施状況は以下のとおりです。

（スポーツ編）

	総数	26 年度において計画どおり実施した数
関連事業	23	23
行動計画	52	52

## 2-3 目標・施策に基づく関連事業(スポーツ編)

スポーツ編の目標・施策に基づく関連事業について各事業の行動計画に対する実績を測ります。

### 目標1:子どもの生活習慣を改善し、体力の向上を図ります

施策(1)生活習慣の改善および健康・体力づくりの推進

#### 【関連事業】

事業名	<b>児童生徒健康・体力向上推進事業【スポーツ課】</b>
概要	市内全体の児童生徒の健康体力、運動習慣の状況について把握します。それぞれの調査結果を検証、対策について検討し、それぞれの調査結果や相関関係を児童生徒および保護者に提供します。
備考	※重点課題に対応する事業 23・24ページ参照

施策(2)体育・健康教育の充実

#### 【関連事業】

事業名	<b>学校体育授業サポート事業【スポーツ課】</b>				
概要	学校からの要望に応じて、市スポーツ推進委員（注66）を学校体育授業のサポーターとして派遣します。事前に安全管理や救急法などについての研修を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
必要な知識などの研修会	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校体育授業サポーター	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	派遣	—	—	—

#### 【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】

○単にスポーツ技術に優れているということだけでなく、学校教育の重要性を認識して研修会を通じて学校体育授業サポーターの能力の確保に努められたい。

#### 【ご意見に対しての今後の方向性】

○学校体育授業サポーター(市スポーツ推進委員)を対象に行っている研修会の開催にあたり、学校教育の重要性に係る内容を盛り込むよう検討し、また、派遣実施にあたっての各小学校との連携強化を図っていく。



事業名	<b>新体力テスト(注67)測定員養成事業【スポーツ課】</b>				
概要	学校からの要望に応じて、市スポーツ推進委員を新体力テスト測定員として派遣します。事前に測定員研修を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
測定員研修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
新体力テスト測定員	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	派遣	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b> ○測定員は新体力テストの測定要領を熟知して、少なくとも測定誤差が生じないように心掛けてほしい。体力テストは測定を受ける側、測定をする側の意識が一体となることが大事である。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b> ○市スポーツ推進委員及び測定従事教職員を対象に、現行の研修内容の充実等も含め測定誤差防止に向けた対策を講じていく。					

### 施策(3)運動部活動の活性化

#### 【関連事業】

事業名	<b>運動部活動指導者派遣推進事業【スポーツ課】</b>				
概要	市立中学校運動部活動活性化のために、指導の困難性、内容に危険度のある競技種目を中心に指導者を派遣して、生徒のニーズに応えるとともに、顧問の負担軽減と、部活動の活性化を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
運動部活動指導者	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	派遣	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b> ○指導の困難な種目、競技の特性から危険度の高い種目に、教職員が配置できない学校には指導者を派遣することが必要な事業と考えられる。ただし、中学校の運動部活動は重要な人間教育の活動であることを理解して指導に当たってもらいたい。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b> ○今後も競技特性と学校事情を考慮しながら派遣先を決定し、効果的に事業を継続していきたい。また、現在部活動顧問教諭を中心に開催している部活動指導者研修会に、派遣指導者の参加も積極的に呼び掛け、部活動に対する理解を深めてもらうよう努めたい。					

事業名	<b>全国大会出場などへの支援事業【スポーツ課】</b>				
概要	市立横須賀総合高等学校に対し、部活動指導者の派遣などを行い、技術向上、レベルアップを図り、全国大会出場を目指します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
運動部活動検討委員会及び部会	計画	設置・検討	検討	検討	検討
	実績	設置・検討	—	—	—
運動部活動指導者	計画	派遣	派遣	派遣	派遣
	実績	派遣	—	—	—
運動部活動強化のための備品購入	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b> ○横須賀から全国大会に出場する生徒が多く出るとは学校・地域の活性化に大きな力になるものと考えられる。部活動への関心度も高まるものと思われる。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b> ○運動部活動検討委員会及び部会では、運動部活動の活性化、強化育成のために必要な支援について検討し、各事業に反映させようとしている。今後も、学校・地域の活性化の観点から、より魅力的な運動部活動を目指し、事業を展開していきたい。					

**目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます**

施策(4)市民の健康・体力づくりの推進

**【関連事業】**

事業名		市民スポーツ教室事業【スポーツ課】			
概要	広く市民に対して、スポーツを通しての健康づくり、スポーツの習慣化、スポーツの基礎技術の習得を目的として、市民スポーツ教室を実施します。併せて、教育アンケートを実施し、市民のニーズやスポーツ実施率などを把握します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市民スポーツ教室ガイド	計画	作成	作成	作成	作成
	実績	作成	—	—	—
実施内容の見直し	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
市民スポーツ教室運営に関する打ち合わせ会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
市民スポーツ教室の全面運営委託化	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
教育アンケート	計画	—	検討	実施	—
	実績	—	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○市民のより身近なスポーツ活動の場として、安価で安全な楽しみの教室として運営が望まれる。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○市民の誰もが生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しむことができるように、体力や年齢、技術、興味、目的に応じて体を動かす機会を提供するため、企画運営していく。また、市民スポーツ教室を「きっかけづくり」としても位置付け、体育協会の各種目団体が行っている教室等との連携も図っていく。					

事業名		学区体育振興会(注68)育成事業【スポーツ課】			
概要	地域住民の身近な場所でスポーツ振興を実施している学区体育振興会について、少子化や地域コミュニティのつながりの希薄化などの課題を踏まえ、より効果的に運営するため、活動範囲の検討・組織員の資質の向上なども視野に入れて、在り方を検討します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学区体育振興会の在り方	計画	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施
	実績	検討・実施	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○住民の高齢化や人口減少により学区体育振興会の在り方の検討が必要に思う。将来、総合型地域スポーツクラブとの関連なども視野に考えると良いと思われる。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○総合型地域スポーツクラブとの関連という新たな観点を参考にさせていただき、引き続き各学区体育振興会と関わり深い市スポーツ推進委員と連携を図り、各地域の実情を伺いながら、そのあり方を検討していく。					

施策(5)市民が主体となる活動の支援

【関連事業】

事業名	<b>総合型地域スポーツクラブ(注5)育成事業【スポーツ課】</b>
概要	いつでも、どこでも、いつまでも、より多くの人が生涯を通してスポーツやレクリエーションを楽しめる地域コミュニティである総合型地域スポーツクラブを育成します。
備考	※重点課題に対応する事業 19・20ページ参照

施策(6)スポーツ施設の整備と円滑な管理運営の推進

【関連事業】

事業名	<b>学校体育施設開放奨励事業【スポーツ課】</b>				
概要	地域の青少年団体やスポーツ団体などにスポーツやレクリエーションの場として、学校体育施設を開放し、健全な余暇利用を促進します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校開放運営委員会への支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
学校開放運営委員会の在り方	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—

【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】

○学校体育施設は、場を提供するという「開放型」から学校と地域社会との「共同利用型」へ地域住民の視点に立った利用の促進を図っていくことが重要である。

【ご意見に対しての今後の方向性】

○学校開放は、学校教育に支障のない範囲で行うこと、また、学校、PTA、教育委員会等が運営に係わる行事は対象から除外し、組織化された団体等のスポーツ、レクリエーションの活動の場として利用されている。今後も、学校と学校開放運営委員会と連携し、地域コミュニティのあり方について検討していく。

事業名	<b>体育会館運営方法の検討【スポーツ課】</b>				
概要	市民がスポーツに親しむ機会をより有効的に提供するため、体育会館指定管理者（注69）と協力し、体育会館施設の運営方法を検討するとともに計画的な施設整備を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
体育会館利用方法	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
体育会館整備計画	計画	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新
	実績	随時更新	—	—	—

【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】

○市の体育会館は市民が気軽にスポーツやレクリエーションを楽しむ施設として最も利用の高い施設である。体育会館の整備計画等は市民に不便を感じさせないように早めに情報を知らせることが必要である。

【ご意見に対しての今後の方向性】

○体育会館の営繕工事による長期休館については、市民等に出来るだけ不便を感じさせないために、体育協会等の年間事業を抱えている団体には調整会議等で通知するほか、市民等にも原則予約開始以前にホームページに休館情報を今後も掲載していく。

施策(7)スポーツ情報提供の充実

【関連事業】

事業名	横須賀市スポーツ行政に関するホームページの充実【スポーツ課】				
概要	ホームページ「スポーツ元気アップ横須賀」を公開し、掲載内容を充実させます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ホームページ「スポーツ元気アップ横須賀」	計画	公開	公開	公開	公開
	実績	公開	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b> ○市民がスポーツ情報を手軽に入手できるように最新的话题を掲載されたい。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b> ○横須賀市から全国大会等に出場し、ご活躍されている方々のご紹介といった新たな項目の他、より分かりやすく掲載するように取り組んでいく。					

事業名	広報よこすか掲載内容の充実【スポーツ課】				
概要	スポーツ関係の各種イベント、行事の開催記事を広報よこすかに掲載する他、手軽にできるニュースポーツなどの企画記事も積極的に掲載し、市民のスポーツに対する関心を高めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
広報よこすか(適宜掲載)	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b> ○若い人はITを駆使してスポーツ情報を入手するが、どちらかと言うと中高年者は広報よこすかを閲覧することが多いと思われる。記事のレイアウトや活字の大きさを工夫されると良い。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b> ○適切な情報を計画的に掲載することで、記事のレイアウトや活字の大きさを工夫する余地を作り出すよう、広報課と連携し取り組んでいく。					

事業名	マスコミへの情報提供の充実【スポーツ課】				
概要	スポーツ関係の各種イベント、行事の開催記事を積極的に報道機関に周知し、市民のスポーツに対する関心を高めます。また、市外にも情報発信を行い、交流人口によるスポーツイベントなどの活性化を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
地元放送局	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
新聞、タウン誌など	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b> ○横須賀市で開催されるスポーツ関係の各種イベントおよび行事のニュースを発信することは、スポーツに関する関心を高めるものと考えます。マスメディアの影響は絶大である。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b> ○ご意見の趣旨に沿い、今後も効果的な情報発信を心掛けていく。					

事業名	スポーツ・レクリエーションマップの充実【スポーツ課】				
概要	スポーツ・レクリエーションマップ（市が保有するスポーツ・レクリエーション施設や運動公園などの場所、実施可能なスポーツの種目、遊具などを地図上に明示し、だれもが簡単に調べることができるマップ）のさらなる充実を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
スポーツ・レクリエーションマップ	計画	検討・改訂	検討・改訂	検討・改訂	検討・改訂
	実績	検討・改訂	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b> ○市民はもとより、市外・県外から訪れる旅行者にも利用できるように配布の方法を検討されたい。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b> ○適切な改訂時期の判断とあわせ、配付方法等を検討していく。					

**目標3: 競技者の活動を支援するとともにスポーツ愛好者の裾野を拡大します**

施策(8) 国際大会や全国大会で活躍する競技者の育成と支援

**【関連事業】**

事業名	各種大会選手派遣支援の推進【スポーツ課】				
概要	本市から国際大会や全国大会に出場する選手に報奨金などを交付することにより、選手の負担軽減と代表選手としての意識の高揚を図ります。また、県内駅伝大会に本市代表選手団を派遣し、スポーツを通じて他都市との交流を深めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
国際大会および全国大会出場者への報奨金	計画	交付	交付	交付	交付
	実績	交付	—	—	—
県内駅伝大会への選手派遣	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
国民体育大会壮行会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○スポーツはする・見る・支えることにより成り立ち、国際大会や全国大会に出場される選手に対し支援することは代表選手としての意識の高揚に繋がるものとする。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○横須賀市から全国大会等に出場し活躍されている方々のご紹介を昨年度から市ホームページで行っている。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた選手への支援についても、今後検討の上、速やかに実行していきたい。					

施策(9) ホームタウンチームなどとの連携強化

**【関連事業】**

事業名	よこすかドリーム・スポーツプロジェクト推進事業【スポーツ課】				
概要	本市のホームタウンチームである、横浜DeNAベイスターズ、横浜F・マリノス、東芝ブレイブサンダース神奈川などのトップレベルのスポーツ選手・コーチ達と直接授業で共に体を動かし触れ合うことで、子どもに夢と感動を与え、スポーツへの関心を高めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校訪問授業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
スポーツイベントへの参画	計画	依頼	依頼	依頼	依頼
	実績	依頼	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○プロスポーツ選手の社会貢献として、学校や社会福祉施設を訪問して子どもに夢と感動を与えスポーツへの関心を高めている。トップレベルにある選手・コーチに直接触れ合うことは教育的効果も大きいと考える。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○本事業はチームや本市にとって大変有意義な部分が多い。今後も引き続き事業を継続できるよう各チームに働きかけていきたい。					

施策(10)各種スポーツ団体への協力と支援

【関連事業】

事業名	各種スポーツ団体支援の推進【スポーツ課】				
概要	各種スポーツ団体の育成、選手育成と競技力向上、スポーツ愛好者の裾野拡大のため、各種スポーツ団体を支援し、本市体育・スポーツの振興を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
各種スポーツ団体への支援(市体育協会・市レクリエーション協会・市スポーツ少年団・学区体育振興会(注68))	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
各種大会への支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
選手強化事業への支援(東京オリンピック・パラリンピックへ向けたジュニア選手の育成を含む)	計画	検討・実施	実施	実施	実施
	実績	検討・実施	—	—	—
国民体育大会選手強化事業への支援	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】 ○2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた選手強化事業、各種大会支援、各種スポーツ団体への支援事業は本市体育・スポーツ振興のため必要と考えられる。					
【ご意見に対しての今後の方向性】 ○各種スポーツ団体の実状に応じて、適切で効果的な財政的、事務的支援等を行っていく。					

事業名	各種競技大会開催、支援の推進【スポーツ課】				
概要	市民に広く親しまれている競技大会を主催し、主管団体への支援を進めていくことで、地域のスポーツ振興および市民の健康体力増進、競技力向上を図ります。また、各種競技を通じて、青少年の心身の健全育成を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
横須賀市少年野球大会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
市民駅伝競走大会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
三浦半島県下駅伝競走大会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】 ○主管する競技団体と行政が協働して地域のスポーツ振興および競技力向上を図ることが望まれる。					
【ご意見に対しての今後の方向性】 ○主催者である市と大会運営を主管していただく各競技団体との役割分担等に配慮しながら、企画運営を行っていく。					



事業名	各種スポーツ団体の自立化事業【スポーツ課】				
概要	現在、各種スポーツ団体の事務局がスポーツ課内に置かれており、本市スポーツ振興のための側面的支援を行っていますが、生涯スポーツ社会の実現のためには、団体が自立して活動を行うことが重要です。そこで、各種スポーツ団体の在り方を検討し、自立化のために必要な支援を行います。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
各種スポーツ団体の運営の在り方	計画	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施
	実績	検討・実施	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○本質的には各種スポーツ団体はできる限り自主運営をすることが各種スポーツの発展のため必要と考えるが、基盤の弱いスポーツ団体には行政の支援が必要と考える。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○各種スポーツ団体との連携を通して、その実状に応じた適切な財政的・事務的支援の他、公的施設等の有効活用も視野に入れながら検討していく。					

#### 施策(11)スポーツ指導者の育成と確保

##### 【関連事業】

事業名	スポーツ指導者育成交流事業の推進【スポーツ課】				
概要	スポーツ推進審議会の中に指導者育成連携強化委員会を設け、スポーツ指導者の育成研修会と交流会を実施します。実施に当たっては、スポーツを気軽に楽しみたい人や健康増進を目的として、運動・スポーツを行いたい人に対応できる指導者を育成、連携強化を図ります。また、地域の実態や住民のニーズに対応した指導者の資質を高めます。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
指導者育成連携強化委員会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
育成研修会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
交流会	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○総合型地域スポーツクラブの育成事業との関連でスポーツ指導者の育成研修会は必要な事業と思われる。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○横須賀市スポーツ推進審議会を中心に、各方面のスポーツ指導者の育成、交流の方策を検討する。また、よこすかスポーツフェスタの各主管団体との連携も図っていく。					

事業名	<b>横須賀市スポーツ指導者協議会などとの連携強化【スポーツ課】</b>				
概要	地域のために、スポーツを通して健康体力づくりを目指している横須賀市スポーツ指導者協議会などとの連携強化を図ります。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市民スポーツ教室への講師派遣	計画	依頼	依頼	依頼	依頼
	実績	依頼	—	—	—
市民スポーツ教室運営に関する打ち合わせ会(再掲)	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	—	—	—
スポーツイベントへの役員派遣	計画	依頼	依頼	依頼	依頼
	実績	依頼	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○スポーツ指導者の育成・確保について各事業との連携を図る。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○ご提案いただいた各事業との連携を念頭に置き、関係団体等と検討を進めていく。					

事業名	<b>市スポーツ推進委員(注66)育成事業【スポーツ課】</b>				
概要	市スポーツ推進委員に対する普通救命講習会、各種スポーツ研修会などの実施体制を含めた育成方法を検討します。また、近年、欠員が生じている状況を踏まえ、人数や推薦方法、職務などについても検討します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市スポーツ推進委員の在り方	計画	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施
	実績	検討・実施	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○スポーツ指導者の育成・確保について各事業との連携を図る。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○スポーツ推進委員の育成については、横須賀市スポーツ推進委員協議会と密に連携を図っており、ご提案いただいた各事業との連携を念頭に置きながら引き続き今後の望ましい在り方等を協議していく。					

事業名	<b>神奈川県スポーツリーダーバンク利用促進事業【スポーツ課】</b>				
概要	指導者の育成と確保により小学校や中学校の体育・スポーツ指導、スポーツ教室への講師派遣など広範囲のスポーツ指導のニーズに応えられるように、神奈川県スポーツリーダーバンクへの登録、利用を促進します。				
行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
登録利用促進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	—	—	—
市独自制度の導入	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	—	—	—
<b>【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】</b>					
○学校体育授業サポート、体力テスト測定員の派遣、運動部活動指導者の派遣等広範囲のスポーツ指導のニーズに応えられるように、スポーツリーダーバンクの登録・利用は必要な事業と考えられる。					
<b>【ご意見に対しての今後の方向性】</b>					
○関係スポーツ団体等の代表でもある横須賀市スポーツ推進審議会委員の皆様へ当該制度の紹介を重ねて行っている。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを本市スポーツ活性化の絶好の好機と捉え、その重要な役割を担うリーダーの更なる活用を図っていく。					

# ◆ 目 標 指 標

## ○ 点検・評価報告書の見方（目標指標）

3－1 目標指標（学校教育編）

3－2 目標指標（社会教育編）

3－3 目標指標（スポーツ編）

○点検・評価報告書の見方（目標指標）

学校教育編・社会教育編・スポーツ編の3編に分かれています。

3-2 目標指標(社会教育編)

社会教育編の各目標の施策・事業を展開する上で参考とする指標について、実績値から達成状況を測ります。

各編の各目標の達成状況を測り、施策・事業を展開する上で参考となる指標名を掲載しています。

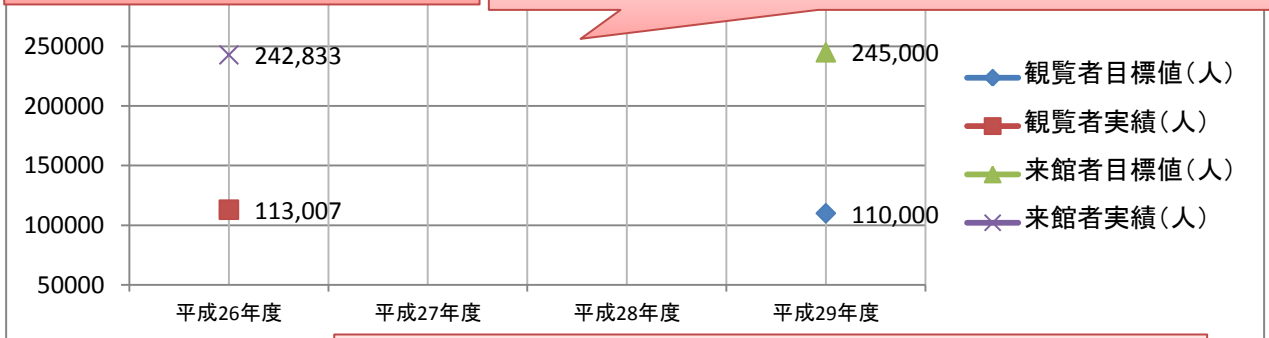
指標 7	美術館展覧会観覧者数 美術館来館者数	
概要	美術館で開催する展覧会の観覧者数と美術館への来館者数から、どれだけの人が優れた芸術に触れる機会を持つことができたかを測ります。	
関連目標	目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます	
関連施策	施策(14) 美術館活動の充実	
担当課	美術館運営課	目標値は、平成29年度における本指標の目指すべき値を設定しております。

目標値に対する平成26年度実績について記入をしています。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
観覧者目標値(人)				110,000
観覧者実績(人)	113,007			
来館者目標値(人)				245,000
来館者実績(人)	242,833			
備考	平成26年度の観覧者数を大きく牽引したのが夏の企画展(こどもと美術を楽しみたい! キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展)であり、同時期の企画展として、例年と比べても観覧者数は多い。人が賑わう時期の夏の企画展がヒットしたことが達成の大きな要因だと考えられる。 ※参考: H26=36,702人(キラキラ展)、H25=29,701人(妖怪展)、H24=24,569人(ストラスブル展)			

補足等があれば、記載しています。

目標値に対する平成26年度の実績をグラフで表しています。



外部の学識経験者からいただいたご意見を記載しています。

【目標指標(社会教育編)に対して学識経験者からいただいたご意見】

○観覧者数が増えていることは、美術館を評価する上で重要である。そこで観覧した人が、その後、どのように活かしたかを聞き取りやアンケートなどによって把握することが求められる。

【ご意見に対しての今後の方向性】

○館内に常時アンケート用紙を置き、アンケート調査結果を館の運営改善等に役立てている。今後もアンケート調査等により、来館者の思いや声の把握に努めていく。

外部の学識経験者からいただいたご意見に対する担当各課の今後の方向性を記載しています。

### 3-1 目標指標(学校教育編)

学校教育編の各目標の施策・事業を展開する上で参考とする指標について、実績値から達成状況を測ります。

<b>指標 1</b>	<b>教科の指導内容の定着状況</b>
概要	全国学力・学習状況調査(小学校6年生、中学校3年生)(注8)における調査対象教科の合計平均正答率と全国平均を比較することから、教科の指導内容の定着状況を測ります。
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(1):教育活動の充実
担当課	教育指導課

※目標値は調査年度の全国平均との比較

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校目標値(%)				1.0
小学校実績(%)	-5.2			
全国(%)	66.2			
横須賀市(%)	61.0			
中学校目標値(%)				2.0
中学校実績(%)	-1.5			
全国(%)	64.4			
横須賀市(%)	62.9			



<b>指標 2</b>	<b>1カ月に1冊以上本を読む児童生徒の割合</b>
概要	市立小中学校児童生徒の1カ月に本を1冊以上読む割合から、子どもの読書活動が効果的に推進されているかを測ります。
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(1):教育活動の充実
担当課	教育指導課

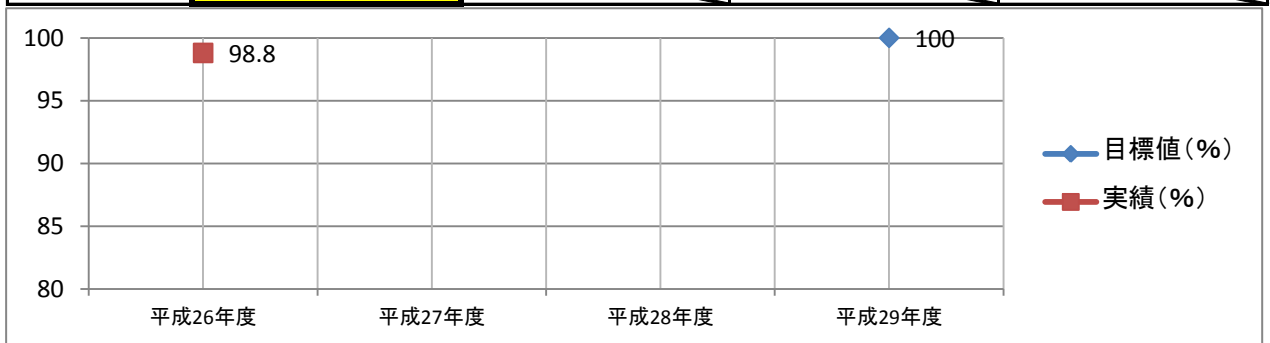
※目標値は平成18年～23年度の最高値を切り上げ

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校目標値(%)				88.0
小学校実績(%)	89.6			
中学校目標値(%)				72.0
中学校実績(%)	61.0			



<b>指標 3</b>	<b>いじめ解消率</b>
概要	市立小中学校で、年間に発生したいじめを解消した割合から、いじめへの対応の成果を測ります。
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(2):支援教育(注7)の充実
担当課	支援教育課

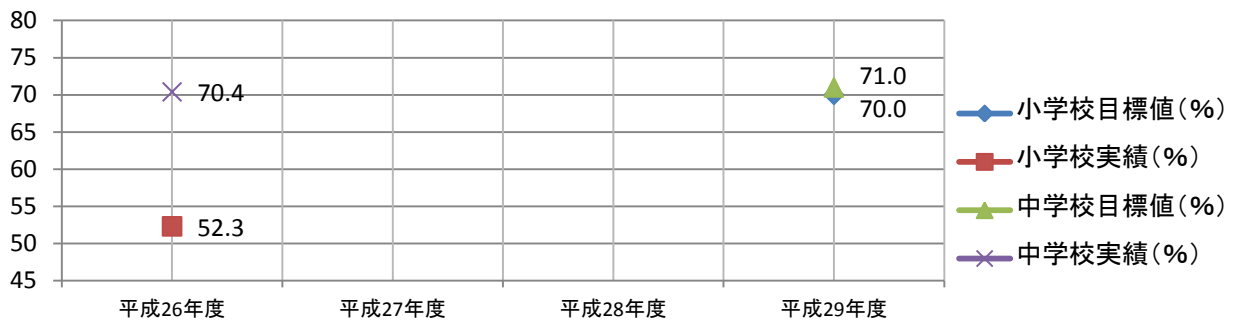
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(%)				100
実績(%)	98.8			



<b>指標 4</b>	<b>不登校児童生徒の学校復帰改善率</b>
概要	学校に復帰した人数と状態の改善が見られた人数の合計の、全不登校(注3)児童生徒数に対する割合から、不登校対策の成果を測ります。
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(1):支援教育の充実
担当課	支援教育課

※目標値の小学校は、22～24年度の最高値を切り上げ、中学校は、25年度末の目標値を継続

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校目標値(%)				70.0
小学校実績(%)	52.3			
中学校目標値(%)				71.0
中学校実績(%)	70.4			



<b>指標 5</b>	<b>英語への興味・関心</b>
概要	横須賀市外国語教育に関する調査において児童(小学校6年生)が、外国語活動の学習が「好き」「どちらかと言えば好き」と肯定的回答をした合計の割合から、英語への興味・関心の状況を測ります。
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(3):国際教育の推進と英語教育の充実
担当課	教育指導課

※目標値は、基準値+2%を切り上げ

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(%)				86.0
実績(%)	81.5			



<b>指標 6</b>	<b>英語によるコミュニケーション能力の習得状況</b>
概要	横須賀市学習状況調査(中学校2年生)(注26)における英語の平均正答率を目標正答率と比較することから、英語によるコミュニケーション能力の習得状況を測ります。
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(3):国際教育の推進と英語教育の充実
担当課	教育指導課

※目標値は、調査問題作成業者が設定した調査年度の目標正答率との比較

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(%)				3.0
実績(%)	3.6			



<b>指標 7</b>	<b>経験年数に応じた研修の受講者による総合的な研修評価</b>
概要	「経験年数に応じた研修」(初任者、教職1年・5年・10年・20年経験者対象)の各研修講座において、研修の受講者による総合的な研修評価(4段階)を実施し、研修の成果を測ります。
関連目標	目標2:学校の組織力や教職員の力を高めます
関連施策	施策(7):教職員の研究・研修の充実
担当課	教育研究所

※目標値は26~29年度の上昇傾向(約0.1上昇)を反映

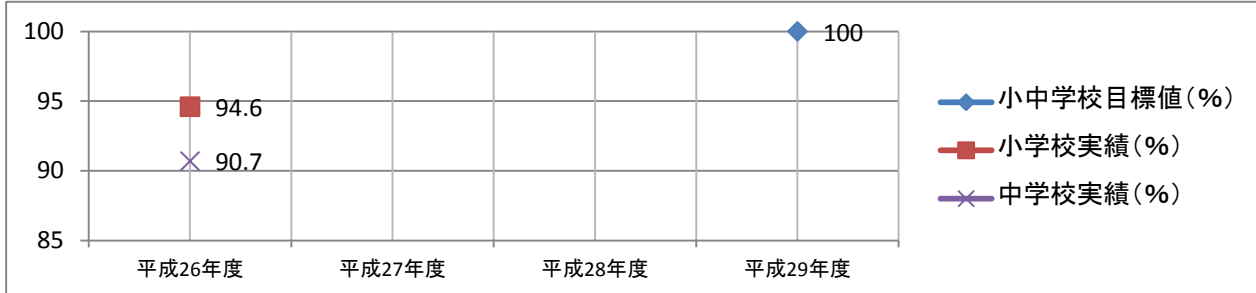
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値				3.7
実績	3.7			





<b>指標 8</b>	<b>朝食を毎日食べる児童生徒の割合</b>
概要	全国学力・学習状況調査(小学校6年生、中学校3年生)(注8)における朝食を毎日食べる児童生徒の割合から、学校と家庭の連携による望ましい生活習慣の定着状況を測ります。
関連目標	目標3:学校・家庭・地域の連携を深めます
関連施策	施策(11):家庭との連携による生活・学習習慣の確立
担当課	学校保健課

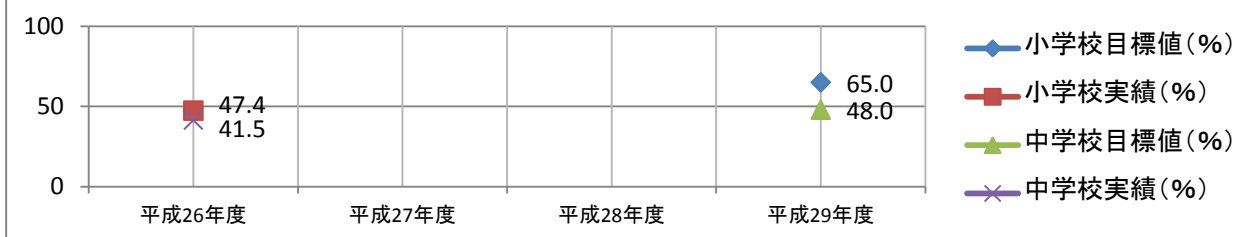
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校目標値(%)				100
小学校実績(%)	94.6			
中学校目標値(%)				100
中学校実績(%)	90.7			
備考	数値は全国学力・学習状況調査のうち、本市児童及び生徒についての数値です。 (1)している (2)どちらかといえば、している (3)あまりしていない (4)全くしていない の4つの回答から、(1)及び(2)の割合を合算したものです。 なお、同調査における神奈川県及び国の数値は次のとおりです。 神奈川県 小学校実績 95.9 中学校実績 92.0 国 小学校実績 96.0 中学校実績 93.5			



<b>指標 9</b>	<b>学校以外における児童生徒の学習状況 (月曜日～金曜日)</b>
概要	全国学力・学習状況調査(小学校6年生、中学校3年生)における学校の授業時間以外に1時間以上学習している児童、2時間以上学習している生徒の割合(月曜日～金曜日)から、学校と家庭の連携による望ましい学習習慣の定着状況を測ります。
関連目標	目標3:学校・家庭・地域の連携を深めます
関連施策	施策(11):家庭との連携による生活・学習習慣の確立
担当課	教育指導課

※目標値は、25年度全国平均値を参考

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校目標値(%)				65.0
小学校実績(%)	47.4			
中学校目標値(%)				48.0
中学校実績(%)	41.5			



### 3-2 目標指標(社会教育編)

社会教育編の各目標の施策・事業を展開する上で参考とする指標について、実績値から達成状況を測ります。

<b>指標 1</b>	<b>学校施設開放の利用人数(和室など)</b>
概要	学校の和室・会議室などの開放施設の利用人数で、地域活動の活性状況を測ります。
関連目標	目標1:市民の学習機会の提供と学習する場の充実を図ります
関連施策	施策(3)学習の場の提供
担当課	生涯学習課

※目標値は22～24年度の最高値を切り上げた値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(人)				20,000
実績(人)	16,258			



<b>指標 2</b>	<b>生涯学習センター利用者数</b>
概要	地域に学習成果を還元できる力を備えるためには学習活動を継続することが必要です。生涯学習センターの各学習室、図書室、情報検索パソコンの利用人数から、学習活動が安定して継続されているかについて測ります。
関連目標	目標1:市民の学習機会の提供と学習する場の充実を図ります
関連施策	施策(3)学習の場の提供
担当課	生涯学習課

※目標値は22～24年度の平均値を切り上げた値

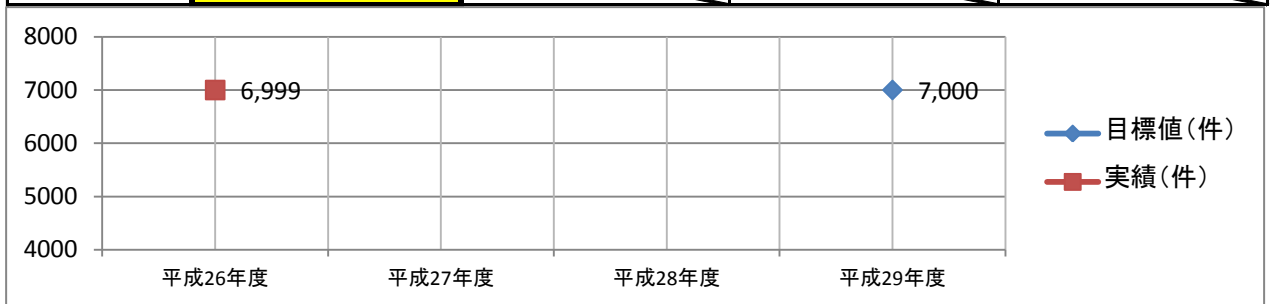
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(人)				138,000
実績(人)	139,974			



<b>指標 3</b>	<b>学習情報の提供件数</b>
概要	生涯学習センターで提供するYokosuka まなび情報(講師・サークル)、講座、施設などの学習情報の提供件数から、市民の学習活動に対する情報提供支援の状況を測ります。
関連目標	目標1:市民の学習機会の提供と学習する場の充実を図ります
関連施策	施策(4) 学習情報・学習相談の充実
担当課	生涯学習課

※目標値は22～24年度の最高値を切り上げた値

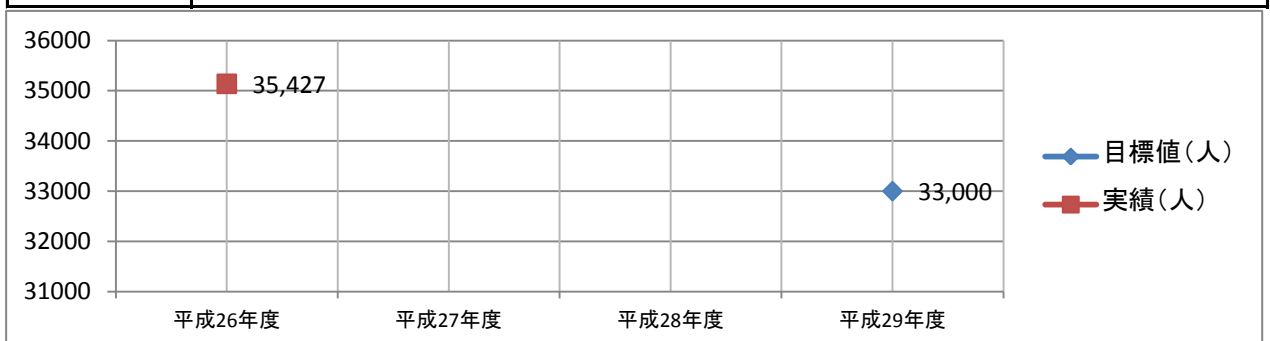
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(件)				7,000
実績(件)	6,999			



<b>指標 4</b>	<b>レファレンス(注64)件数</b>
概要	図書館4館でのレファレンス件数から、図書館サービスの状況を測ります。
関連目標	目標5:図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(12) 図書館活動の充実
担当課	中央図書館

※目標値は20～23年度の上昇傾向を反映

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(人)				33,000
実績(人)	35,427			
備考	窓口・電話・文書での問い合わせ件数			



<b>指標 5</b>	<b>児童書貸出冊数</b>
概要	子ども読書活動推進事業の指標として、図書館4館、サテライト(注58)館10館および取次所4か所での児童書の貸出合計冊数から、子どもの読書活動の状況を測ります。
関連目標	目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(12) 図書館活動の充実
担当課	中央図書館・児童図書館

※目標値は19～23年度の上昇傾向を反映

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(冊)				519,000
実績(冊)	430,226			
備考	児童書(※資料種別: 郷土児童・児童書・児童洋書・紙芝居)			



<b>指標 6</b>	<b>博物館来館者数</b>
概要	博物館本館・付属施設の来館(来園)者数から、横須賀や三浦半島の自然や歴史への関心度を測ります。
関連目標	目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(13) 博物館活動の充実
担当課	博物館運営課

※目標値は22～24年度の最高値を切り上げた値

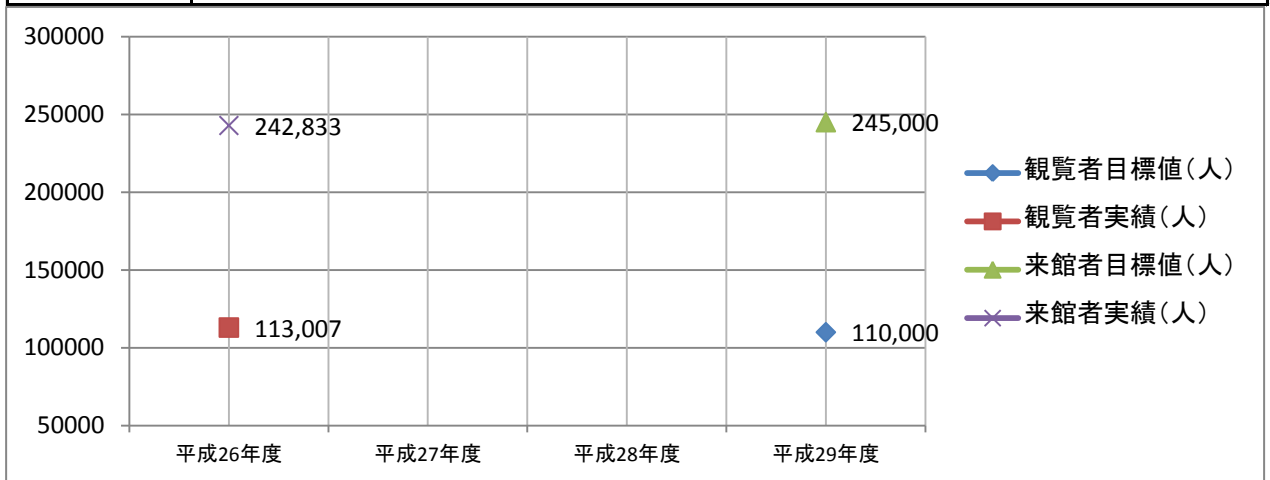
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(人)				170,000
実績(人)	175,347			



<b>指標 7</b>	<b>美術館展覧会観覧者数 美術館来館者数</b>
概要	美術館で開催する展覧会の観覧者数と美術館への来館者数から、どれだけの人が優れた芸術に触れる機会を持つことができたかを測ります。
関連目標	目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(14) 美術館活動の充実
担当課	美術館運営課

※観覧者目標値は開館以来の目標値10万人+1万人 ※来館者目標値は22～24年度の最高値を超える数値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
観覧者目標値(人)				110,000
観覧者実績(人)	113,007			
来館者目標値(人)				245,000
来館者実績(人)	242,833			
備考	平成26年度の観覧者数を大きく牽引したのが夏の企画展(こどもと美術を楽しみたい!キラキラ、ざわざわ、ハラハラ展)であり、同時期の企画展として、例年と比べても観覧者数は多い。人が賑わう時期の夏の企画展がヒットしたことが達成の大きな要因だと考えられる。 ※参考:H26=36,702人(キラキラ展)、H25=29,701人(妖怪展)、H24=24,569人(ストラスブル展)			



**【目標指標(社会教育編)に対して学識経験者からいただいたご意見】**  
 ○観覧者数が増えていることは、美術館を評価する上で重要である。そこで観覧した人が、その後、どのように活かしたかを聞き取りやアンケートなどによって把握することが求められる。

**【ご意見に対しての今後の方向性】**  
 ○館内に常時アンケート用紙を置き、アンケート調査結果を館の運営改善等に役立てている。今後もアンケート調査等により、来館者の思いや声の把握に努めていく。

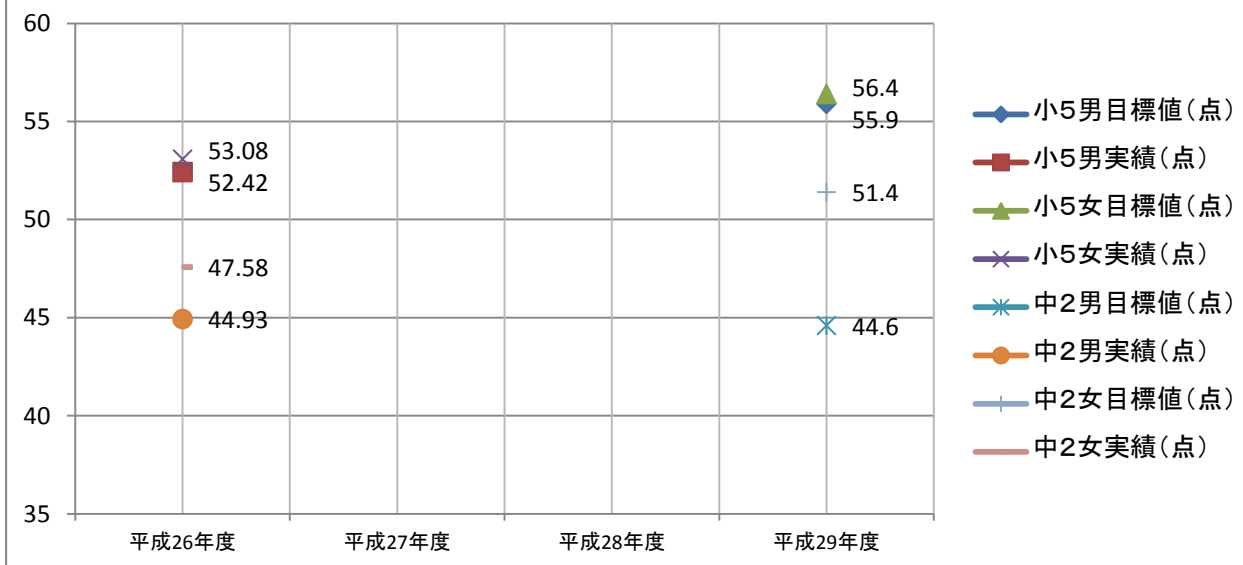
### 3-3 目標指標(スポーツ編)

スポーツ編の各目標の施策・事業を展開する上で参考とする指標について、実績値から達成状況を測ります。

<b>指標 1</b>	<b>体力・運動能力調査の結果</b>
概要	新体力テスト(注67)合計点の平均値(小学校5年生、中学校2年生)から、子どもの体力状況を測ります。
関連目標	目標1:子どもの生活習慣を改善し、体力の向上を図ります
関連施策	施策(1)生活習慣の改善および健康・体力づくりの推進
担当課	スポーツ課

※目標値は22~24年度の国の最高値を切り上げた値

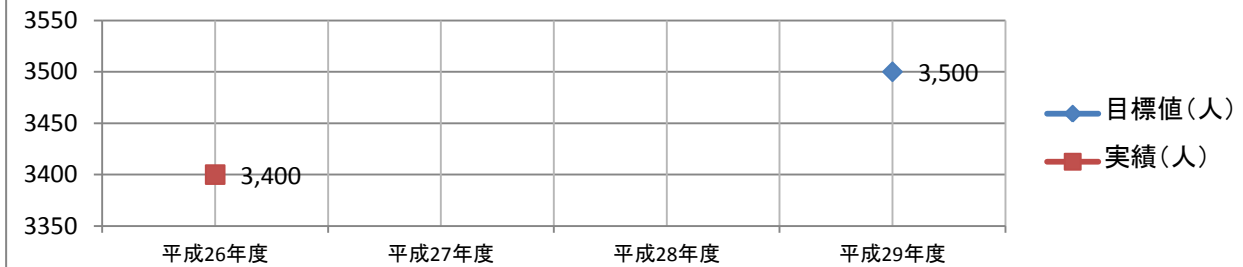
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小5男目標値(点)				55.9
小5男実績(点)	52.42			
小5女目標値(点)				56.4
小5女実績(点)	53.08			
中2男目標値(点)				44.6
中2男実績(点)	44.93			
中2女目標値(点)				51.4
中2女実績(点)	47.58			



<b>指標 2</b>	<b>市民スポーツ教室の参加人数</b>
概要	市民スポーツ教室の参加人数から、市民の健康・体力づくりの状況を測ります。
関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます
関連施策	施策(4)市民の健康・体力づくりの推進
担当課	スポーツ課

※目標値は22～24年度の最高値を切り上げた値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(人)				3,500
実績(人)	3,400			

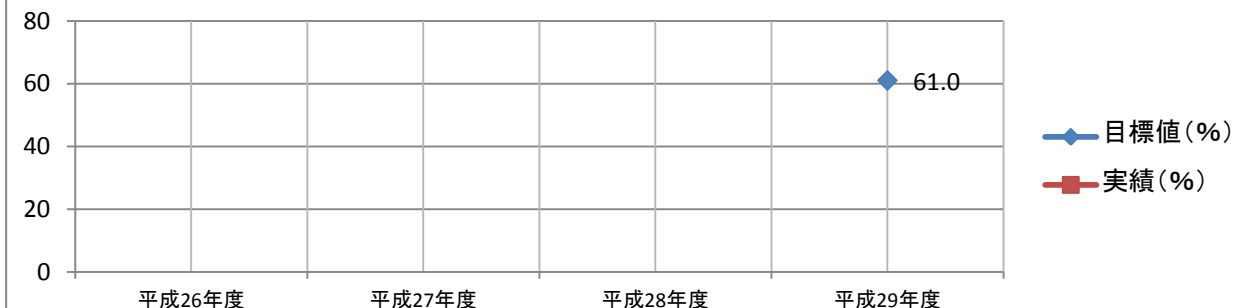


<b>指標 3</b>	<b>成人の週1回以上のスポーツ実施率</b>
概要	成人の週1回以上のスポーツ実施率から、市民のだれもが生涯にわたりスポーツに親しむ生涯スポーツ社会の実現状況を測ります。
関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます
関連施策	施策(4)市民の健康・体力づくりの推進
担当課	スポーツ課

※目標値は国の32年度目標値(65%)を参考に算出

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(%)				61.0
実績(%)				

備考  
本指標は、横須賀市教育振興基本計画の実施計画策定時に行う市教育アンケートの結果を用いるものであるため、アンケート実施年ではない平成26年度の実績は未記入となっている。(次回の市教育アンケートは、平成28年度に実施予定)



<b>指標 4</b>	<b>学校施設開放の利用人数 (体育館など)</b>
概要	学校の体育館などの開放施設の利用人数から、地域におけるスポーツ活動の状況を測ります。
関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます
関連施策	施策(6)スポーツ施設の整備と円滑な管理運営の推進
担当課	スポーツ課

※目標値は22～24年度の最高値を切り上げた値

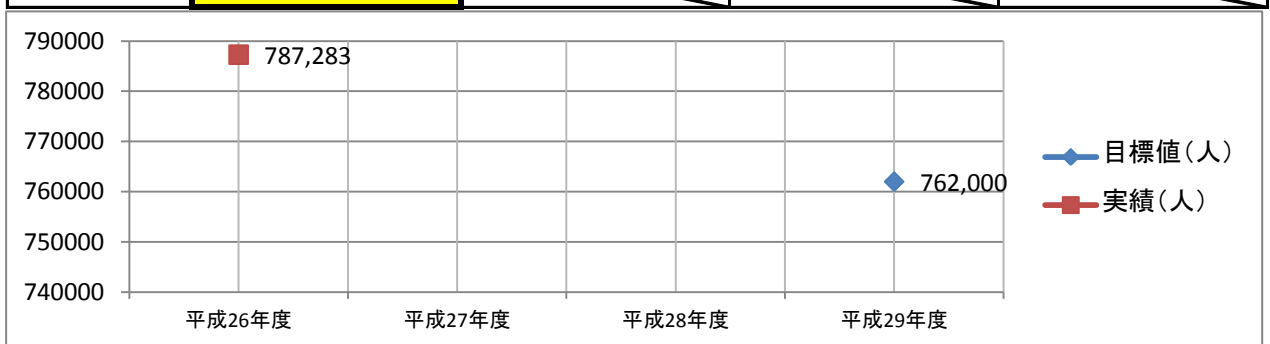
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(人)				1,447,000
実績(人)	1,412,991			



<b>指標 5</b>	<b>体育会館施設などの利用人数</b>
概要	体育会館の利用人数から、生涯スポーツの活動状況を測ります。
関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます
関連施策	施策(6)スポーツ施設の整備と円滑な管理運営の推進
担当課	スポーツ課

※目標値は22～24年度の最高値を切り上げた値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(人)				762,000
実績(人)	787,283			





<b>指標 6</b>	<b>国民体育大会の出場人数</b>
概要	本市在住、在勤、在学の方のうち国民体育大会に出場した人数から、各種スポーツ団体の競技力の状況を測ります。
関連目標	目標3: 競技者の活動を支援するとともにスポーツ愛好者の裾野を拡大します
関連施策	施策(8) 国際大会や全国大会で活躍する競技者の育成と支援
担当課	スポーツ課

※目標値は22～24年度の最高値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値(人)				62
実績(人)	53			



## ◆用語解説

### (1) 注の解説

No	用語	解説
注1	規範意識	ある物事に対しての是非や善悪を判断、評価したり、行動したりするときによりどころとなる価値の基準（法律、ルール、道徳、集団の慣習など）が規範であり、それに対する価値意識やそれに従おうとする態度。
注2	学社連携・融合	学校教育と社会教育の連携・融合のこと。学社連携は一方が計画・提案し、提案された側が協力・支援する。これに対し、学社融合は双方が一体となって計画、実施する。
注3	不登校	何らかの心理的・情緒的・身体的・社会的要因や背景によって登校しない、または、登校できない状況が年間30日を超えた場合を不登校として扱っている。
注4	社会教育施設	社会教育の活動によって、人々の学習活動を支援する施設。生涯学習センター・公民館・図書館・博物館・美術館・青少年教育施設などがある。
注5	総合型地域スポーツクラブ	①子どもから高齢者まで（多世代）、②様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、③技能の高低や障害の有無などに関わらずそれぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。
注6	小中一貫教育	通学区域を共にする小中学校が、子どもや地域の実態をもとに共通の教育方針を設定して、9年間を通じた教育課程を工夫し、「学びの系統性・連続性」を重視した、小中教職員が協働して行う教育。
注7	支援教育	子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を図ることにより、個々の子どもの「生きる力」を育む教育のこと。
注8	全国学力・学習状況調査	全国の児童（小6）生徒（中3）の学力・学習状況を把握するための調査。調査結果を国の教育施策の策定や学校における指導の充実等に役立てることがねらい
注9	スクールカウンセラー	教育機関において心理相談業務に従事する心理職の専門家。
注10	ふれあい相談員・登校支援相談員	いじめや不登校といった問題を未然に防ぐことや、早期発見、早期対応を行うために、校長や教職員と連携して相談や助言を行う者。横須賀市では、小学校（ふれあい相談員）、中学校（登校支援相談員）に配置している。

注 11	教育課程	学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画。
注 12	校種	学校の種類のこと。市立学校には、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校（養護学校・ろう学校）の5種類がある。
注 13	学校評議員	学校の職員以外の者で教育に関する理解および識見を有し、校長の推薦により教育委員会が委嘱した者。校長の求めに応じ、学校運営に関して意見を述べることができる。
注 14	キャリア教育	児童生徒がこれからの人生を歩む上で、職業を選択し、働くことの意義を考え、価値観を形成できるよう指導する教育のことで、単なる職業体験とは異なる。
注 15	食教育	学校教育における食育。食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てること。生きる上での基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるべきもの。
注 16	情報モラル	情報を扱う上で、必要な考え方や態度。
注 17	I C T	Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。コンピュータで情報の生成・加工・保存などを行ったり、離れたコンピュータ同士で情報のやりとりをしたりするための技術。
注 18	A L T	Assistant Language Teacher（外国語指導助手）の略。児童生徒が英語で積極的にコミュニケーションをとり、外国の文化や習慣、考え方などを学んだりするための指導助手。
注 19	F L T	Foreign Language Teacher（外国人英語教員）の略。A L T と異なる点は、指導助手ではなく英語教員として、英語指導の資格を有し、単独による授業や評価を行うことができる。本市、独自の名称。
注 20	国際コミュニケーション能力	語学（英語）への関心や習得を通して、さまざまな場面において積極的に英語でコミュニケーションをとり、価値観・文化の違う人との関わりの重要性を認識し、幅広い視野で物事を捉えることができる能力。
注 21	介助員	学校で教育活動に支障を来す事態が生じたときに、教育活動の一層の充実を図るために配置する非常勤職員および臨時職員。主な役割として、児童生徒の身辺処理の介助、校内・校外活動の介助、危険防止のための安全確保などの業務を、校長の指示に従い、行う。

注 22	日本語指導員	帰国・外国籍など、外国につながる子どもに、日本語の初歩的な読み書きや話し方の指導や生活適応や家庭との連絡指導などを行う非常勤職員。
注 23	スクールソーシャルワーカー	不登校や親からの虐待などの問題を抱える子どもに対し、家庭や福祉機関に働きかけて解決に努める社会福祉などの資格を持った非常勤職員。
注 24	指導主事	教育委員会事務局に置かれる専門職員。教職員に対して専門的な助言と指導を与えることを任務とする。
注 25	学力向上放課後教室 サポートティーチャー	個別の学習指導や少人数での補習などを行う教員免許を有する非常勤職員。
注 26	横須賀市学習状況調査	市立小中学校の児童（小5）生徒（中2）の学習状況を把握するための調査。調査結果を市としての必要な施策の策定、各学校における指導の工夫改善などに生かしている。
注 27	研究会	教育委員会が委託した研究課題について、横須賀の教育の実態把握や、学校教育に役立つ研究、資料の収集や作成、教材開発などを行う組織。市内小・中学校の教員と指導主事で構成されている。
注 28	教師力アップ	本計画における教師力アップとは、授業力や児童生徒指導力といった教師個人の専門的な力量を高めるだけでなく、教師が組織の一員としての意識を高め、学校が協働性、同僚性を高めることをイメージしている。
注 29	NPO	政府や企業などではできない社会的な問題に、非営利で取り組む民間団体。
注 30	スクールランチ	市立中学校で行っているパン・弁当の注文販売。複数種類あるメニューの中から、当日の朝、生徒が選択して注文する。
注 31	教育課程研究会	学習指導要領で示された教科などの内容や指導方法について、全ての教員が参加して実践的に研究する本市教育委員会主催の研究会。主に、6月は授業提案、8月は文書提案を行っている。
注 32	小中学校スーパーバイザー	支援教育課所属の心理職。主な業務は、小学校ふれあい相談員・中学校登校支援相談員のコンサルテーション、相談員合同研修会の企画・運営のほか、相談支援チームの「巡回相談」に参加し、心理的な視点から、子どもの見立てや支援のアドバイスを行う。また、学校で重篤な事件事故が起きた際の緊急対応として、被害の拡大防止を目的に、心のケアや家庭に関する支援を行う。

注 33	フリースクール	民間の団体が運営する学校教育制度の外にある教育機関。不登校の子どもたちが多く通っている。子どもの自由・自主性・個人差などに配慮し、各機関独自の活動を行う。
注 34	相談教室	学校の敷地内や敷地外に設置している不登校の児童生徒が通室する機関。学校・学級復帰を目標に、個別学習と小集団活動を組み合わせたプログラムを実施している。
注 35	国際教育コーディネーター	小中学校に通う帰国・外国籍児童生徒などの教育的ニーズを診断し、必要な支援のコーディネートや学校の支援体制に対して助言を行う非常勤職員。
注 36	横須賀イングリッシュ ワールド (Yokosuka English World)	市立小学校の児童が、学校外においてネイティブスピーカー（市内のALTおよびFLT、米海軍基地内の小学生）と様々な活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養う英語イベント（市立小学校5・6年生対象）。
注 37	情報活用能力	情報を収集・整理して、相手に分かりやすく伝える力。
注 38	スタートカリキュラム	小学校第1学年入学当初において、子どもが時間的、空間的なゆとりの中で、人間関係を豊かに広げながら小学校生活に適応していかれるように、就学前教育との接続の観点から、複数の教科を組み合わせる総合的に学習ができるような合科的な指導を行うなどの視点を持って編成するカリキュラム。
注 39	アプローチカリキュラム	卒園を間近に控えた年長時の後半に、小学校に入学してからの教科などの学習や集団での生活に子どもが適応できるよう、関わり合い、助け合い、伝え合いなど、仲間と交流する協同的な活動場면을積極的に位置付けることを視点として編成するカリキュラム。
注 40	理科センター	理科教育に関する指導力の充実を図り、施設設備の共同利用により、科学教育の振興に資することを目的とする場。本市においては、教員の研修、授業実践に関わる教材・資料の作成配布、施設設備の共同利用、その他理科教育の振興に関することを行っている。
注 41	情報セキュリティ	コンピュータや紙文書などに記録された情報が外部に漏えいしたり、破壊・改ざんされたりすることのない安全な状態にしておくこと。
注 42	カリキュラムセンター	学校の教育目標を達成するために、編成した計画に基づいた教育実践を収集・発信する場。
注 43	研究会	教職員による任意の研究組織。授業づくりや教材研究などについての研究に取り組み、研究発表会や研究紀要の作成により、その成果を還元している。

注 44	校務支援システム	児童生徒の学籍管理、出欠席の記録、成績処理などの学校業務を効率化させるためのコンピュータシステム。
注 45	校務在宅接続システム	教員が自宅のパソコンから教育委員会のコンピュータに接続し、学級通信や教材などを作成することができる仕組み。
注 46	担当弁護士	横須賀市教育委員会が、法律相談業務を実施するため委託契約を結んだ弁護士。
注 47	横須賀子どもスタンダード	小学校における児童指導の柱。学校生活全般においてどのような子どもを育てていくのか等、目指す子ども像を具体的に示したもの。
注 48	学校教育支援ボランティア	学校が行う教育活動に協力・支援するボランティア。具体的には、地域や関係機関、学生の方々など。
注 49	適正規模	学校における学級数によるメリット・デメリットを考慮して、より高い教育効果が得られると考えられる規模。「横須賀市立小・中学校の適正規模および適正配置に関する基本方針」では、12～24 学級を適正規模として位置付けている。
注 50	横須賀市施設配置適正化計画	本市が所有する公共施設（建物に限る。小規模なものおよび上下水道事業の用に供するものを除く。）の適正な配置を実施するための計画。
注 51	応急手当普及員	消防機関による応急処置技能の普及を支援し、救命講習を教授する人、またはその資格。
注 52	アナフィラキシー	皮膚、呼吸器、消化器、循環器、神経など、複数の臓器にあらわれる全身性かつ重度なアレルギー反応。原因となる物質の摂取、皮膚への接触などにより引き起こされる。
注 53	コミュニティセンター	地域コミュニティ活動の中核となり、地域活動、文化活動やスポーツ活動などに市民が自主的に活用する場。本市においては、旧地域自治活動センターと旧公民館からなり、主に旧公民館で学習の場および各種講座や教室などの社会教育事業を定期的で開催している。
注 54	知の循環型社会	平成 20 年 2 月に文部科学省所管の中央教育審議会からの答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について ～知の循環型社会の構築を目指して～」において表現された。概要としては、学習成果を学習者自らが主体的に社会に還元することにより、学校・家庭・地域などにおける課題を解決し、地域社会全体の教育力の向上を図ることができる社会。

注 55	重要文化財 (重要無形文化財)	建造物・美術工芸品などの有形文化財のうち、文化的・学術的に重要なものを国および地方公共団体が法・条例で指定した文化財。ただし、教育振興基本計画では便宜上、有形文化財に限らず、無形文化財・文化財・史跡名勝天然記念物も含めて広く重要文化財として表現している。
注 56	民俗芸能	一つの地域社会の中で、そこに住む人々が住民自らの手で伝承してきた演劇、舞踊、音楽など。人々の生活に関わってきたため、その地域の特性・個性が反映されやすい。
注 57	埋蔵文化財	土地に埋蔵されている文化財（主に遺跡や遺物）。
注 58	サテライト	「本体から離れて存在するもの」を表す言葉としてよく使われる。ここでは図書館から離れた拠点施設の意味で使用している。
注 59	電子書籍	従来の紙とインクを利用した印刷物ではなく、文字や図画等をデジタル化し、パソコンや携帯電話等で読める形にしたもの。インターネットなどを通じての配信・閲覧が可能。
注 60	家庭教育学級	家庭における教育力の向上や充実のために、保護者などを対象に行う学習の場。
注 61	社会教育主事	都道府県および市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的教育職員。職務は、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える。また、学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て教育活動を行う場合には、その求めに応じ、必要な助言を行うことができるとされる。
注 62	学校支援コーディネーター	学校と地域の連携による学校の教育活動がより円滑に推進するよう、学校のニーズと地域の情報を調整する学校と地域の橋渡し役の人。
注 63	近代化遺産	幕末から第二次世界大戦期までの間に建設され、日本の近代化に貢献した産業・交通・土木などの遺産。
注 64	レファレンス	必要な資料や情報を必要な人に、的確に案内すること。
注 65	SNS	ソーシャルネットワークサービスの略。人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の Web サイト。フェイスブック、ツイッターなど。
注 66	市スポーツ推進委員	本市におけるスポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対し、スポーツにおける実技の指導やその他スポーツに関する指導および助言を行う者。非常勤職員として教育委員会が委嘱している。定数は 322 名。
注 67	新体力テスト	文部科学省が定めた国民の体力・運動能力を調査するために実施するテスト。

注 68	学区体育振興会	当該小学校区内の住民に対しスポーツ振興活動を行う団体。主に健民運動会や球技大会・各種レクリエーション大会などを実施している。
注 69	体育会館指定管理者	地方自治法第 244 条の 2 第 3 項に基づき、市に代わって公の施設の管理を行う民間事業者等。本市の体育会館に関しては、平成 26 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの期間、スポーツコミュニティよこすかが管理を行っている。



## 横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見

横須賀市教育委員会の点検・評価報告書について、ご意見等ありましたらお寄せください。いただいたご意見等につきましては、今後の事業推進や来年度の報告書作成にあたって参考とさせていただきます。

◆ **どの項目についてのご意見等ですか。**（\*該当する番号に○をしてください。複数可）

- 1 「重点課題に対応する主な事業について」（8～53 ページ）
- 2 「目標・施策に基づく関連事業（学校教育編）について」（57～78 ページ）
- 3 「目標・施策に基づく関連事業（社会教育編）について」（80～100 ページ）
- 4 「目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編）について」（102～112 ページ）
- 5 目標指標について（115～127 ページ）
- 6 点検・評価方法について
- 7 その他

◆ **ご意見等の内容をお書きください。**

.....

.....

.....

.....

.....

.....

◆ **ご意見等につきましては、次のいずれかの方法でお寄せください。**

- 郵送 : 〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地 本館 1 号館 6 階  
横須賀市教育委員会教育総務部総務課教育政策担当
- FAX : 046-822-6849（本シートをそのまま FAX してください。）
- メール : [sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp](mailto:sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp)  
（件名を「横須賀市教育委員会の点検・評価について」としてください。）

◆ **差し支えなければ、ご意見いただいた方の属性についてご記入ください。（任意）**

【住所】 市内 ・ 市外

【年齢】 20 歳未満 ・ 20 代 ・ 30 代 ・ 40 代 ・ 50 代 ・ 60 代 ・ 70 代以上

横須賀市教育委員会

(担当 教育委員会事務局教育総務部総務課教育政策担当)

〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地

TEL:046-822-9751

FAX:046-822-6849

E-mail: [sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp](mailto:sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp)